

出来形管理基準及び規格値

出来形管理基準及び規格値 目次

【第1編 共通編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第2章 土工				
第3節 河川土工・海岸土工・砂防土工	2－3－2 掘削工	掘削工		1
		掘削工(面管理の場合)		1
		掘削工(水中部)(面管理の場合)		2
	2－3－3 盛土工	盛土工		2
		盛土工(面管理の場合)		3
	2－3－4 盛土補強工	補強土(テールアルメ)壁工法		4
		多数アンカー式補強土工法		4
		ジオテキスタイルを用いた補強土工法		4
	2－3－5 法面整形工	盛土部		4
	2－3－6 堤防天端工			4
第4節 道路土工	2－4－2 掘削工	掘削工		5
		掘削工(面管理の場合)		5
	2－4－3 路体盛土工	路体盛土工		6
		路体盛土工(面管理の場合)		6
	2－4－4 路床盛土工	路床盛土工		6
		路床盛土工(面管理の場合)		6
	2－4－5 法面整形工	盛土部		7
第3章 無筋、鉄筋コンクリート				
第7節 鉄筋工	3－7－4 組立て			7

出来形管理基準

【第3編 土木工事共通編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第2章 一般施工				
第3節 共通の工種	2－3－4 矢板工	鋼矢板		8
		軽量鋼矢板		8
		コンクリート矢板		8
		広幅鋼矢板		8
		可とう鋼矢板		8
	2－3－5 縁石工	縁石・アスカーブ		8
	2－3－6 小型標識工			8
	2－3－7 防止柵工	立入防止柵		9
		転落(横断)防止柵		9
		車止めポスト		9
	2－3－8 路側防護柵工	ガードレール		9
		ガードケーブル		9
	2－3－9 区画線工			10
	2－3－10 道路付属物工	視線誘導標		10
		距離標		10
	2－3－11 コンクリート面塗装工			10
	2－3－12 プレテンション桁製作工(購入工)	けた橋		11
		スラブ桁		11
	2－3－13 ポストテンション桁製作工	ポストテンション桁製作工		11
		プレキャストセグメント(購入工)		12
	2－3－14 プレキャストセグメント主桁組立工			12
	2－3－15 PCホロースラブ製作工			12
	2－3－16 PC箱桁製作工	箱桁		13
		押出し箱桁		13
	2－3－17 根固めブロック			13
	2－3－18 沈床工			14
	2－3－19 捨石工			14
	2－3－22 階段工			14
	2－3－24 伸縮装置工	ゴムジョイント		14
		鋼製フィンガージョイント		15
	2－3－26 多自然型護岸工	巨石張り、巨石積み		15
		かごマット		15
	2－3－27 羽口工	じゃかご		16
		ふとんかご、かご枠		16
	2－3－28 プレキャストカルバート工	プレキャストボックス工		16
		プレキャストパイプ工		16
	2－3－29 側溝工	プレキャストU型側溝		17
		L型側溝工		17
		自由勾配側溝		17
		現場打水路工		17
		管渠		17
		暗渠工		17
				17
	2－3－30 集水樹工			18
	2－3－31 現場塗装工			18
第4節 基礎工	2－4－1 一般事項	切込砂利		19
		砕石基礎工		19
		割ぐり石基礎工		19
		均しコンクリート		19
	2－4－3 基礎工(護岸)	現場打		19
		プレキャスト		19
	2－4－4 既製杭工	既製コンクリート杭		19
		鋼管杭		19
		H鋼杭		19

出来形管理基準

【第3編 土木工事共通編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第4節 基礎工	2－4－4 既製杭工	鋼管ソイルセメント杭		20
	2－4－5 場所打杭工			20
	2－4－6 深礎工			20
	2－4－7 オープンケーソン基礎工			21
	2－4－8 ニューマチックケーソン基礎工			21
	2－4－9 鋼管矢板基礎工			21
第5節 石・ブロック積(張)工	2－5－3 コンクリートブロック工	コンクリートブロック積		22
		コンクリートブロック張り		22
		連節ブロック張り		22
		天端保護ブロック		22
	2－5－4 緑化ブロック工			23
	2－5－5 石積(張)工			23
第6節 一般舗装工	2－6－7 アスファルト舗装工	下層路盤工		24
		下層路盤工(面管理の場合)		24
		上層路盤工(粒度調整路盤工)		25
		上層路盤工(粒度調整路盤工)(面管理の場合)		25
		上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)		26
		上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)(面管理の場合)		26
		加熱アスファルト安定処理工		27
		加熱アスファルト安定処理工(面管理の場合)		27
		基層工		28
		基層工(面管理の場合)		28
		表層工		29
		表層工(面管理の場合)		29
	2－6－8 半たわみ性舗装工	下層路盤工		30
		下層路盤工(面管理の場合)		30
		上層路盤工(粒度調整路盤工)		31
		上層路盤工(粒度調整路盤工)(面管理の場合)		31
		上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)		32
		上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)(面管理の場合)		32
		加熱アスファルト安定処理工		33
		加熱アスファルト安定処理工(面管理の場合)		33
		基層工		34
		基層工(面管理の場合)		34
		表層工		35
		表層工(面管理の場合)		35
	2－6－9 排水性舗装工	下層路盤工		36
		下層路盤工(面管理の場合)		36
		上層路盤工(粒度調整路盤工)		37
		上層路盤工(粒度調整路盤工)(面管理の場合)		37

出来形管理基準

【第3編 土木工事共通編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第6節 一般舗装工	2-6-9 排水性舗装工	上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)		38
		上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)(面管理の場合)		38
		加熱アスファルト安定処理工		39
		加熱アスファルト安定処理工(面管理の場合)		39
		基層工		40
		基層工(面管理の場合)		40
		表層工		41
		表層工(面管理の場合)		41
	2-6-10 透水性舗装工	路盤工		42
		路盤工(面管理の場合)		42
		表層工		43
		表層工(面管理の場合)		43
	2-6-11 グースアスファルト舗装工	加熱アスファルト安定処理工		44
		加熱アスファルト安定処理工(面管理の場合)		44
		基層工		45
		基層工(面管理の場合)		45
		表層工		46
		表層工(面管理の場合)		46
	2-6-12 コンクリート舗装工	下層路盤工		47
		下層路盤工(面管理の場合)		47
		粒度調整路盤工		48
		粒度調整路盤工(面管理の場合)		48
		セメント(石灰・瀝青)安定処理工		49
		セメント(石灰・瀝青)安定処理工(面管理の場合)		49
		アスファルト中間層		50
		アスファルト中間層(面管理の場合)		50
		コンクリート舗装版工		51
		コンクリート舗装版工(面管理の場合)		51
		転圧コンクリート版工(下層路盤工)		52
		転圧コンクリート版工(下層路盤工)(面管理の場合)		52
		転圧コンクリート版工(粒度調整路盤工)		53
		転圧コンクリート版工(粒度調整路盤工)(面管理の場合)		53
		転圧コンクリート版工(セメント(石灰・瀝青)安定処理工)		54
		転圧コンクリート版工(セメント(石灰・瀝青)安定処理工)(面管理の場合)		54
		転圧コンクリート版工(アスファルト中間層)		55
		転圧コンクリート版工(アスファルト中間層)(面管理の場合)		55

出来形管理基準

【第3編 土木工事共通編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第6節 一般舗装工	2－6－12 コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工		56
		転圧コンクリート版工 (面管理の場合)		56
	2－6－13 薄層カラー舗装工	下層路盤工		57
		上層路盤工(粒度調整路盤工)		57
		上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)		58
		加熱アスファルト安定処理工		58
		基層工		58
	2－6－14 ブロック舗装工	下層路盤工		59
		上層路盤工(粒度調整路盤工)		59
		上層路盤工(セメント(石灰)安定処理工)		60
		加熱アスファルト安定処理工		60
		基層工		60
	2－6－15 路面切削工			61
	2－6－16 舗装打換え工			61
	2－6－17 オーバーレイ工			61
		(面管理の場合)		62

出来形管理基準

【第3編 土木工事共通編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第7節 地盤改良工	2-7-2 路床安定処理工			63
	2-7-3 置換工			63
	2-7-4 表層安定処理工	サンドマット海上	第3編2-7-6 サンドマット工	64
		ICT施工の場合		64
	2-7-5 パイルネット工			64
	2-7-6 サンドマット工			65
	2-7-7 バーチカルドレーン工	サンドドレーン工		65
		ペーパードレーン工		65
		袋詰式サンドドレーン工		65
	2-7-8 締固め改良工	サンドコンパクションパイル工		65
	2-7-9 固結工	粉末噴射攪拌工		66
		高圧噴射攪拌工		66
		スラリー攪拌工		66
		生石灰パイル工		66
		中層混合処理		66
第10節 仮設工	2-10-5 土留・仮締切工	H鋼杭		67
		鋼矢板		67
		アンカー工		67
		連節ブロック張り工		67
		締切盛土		67
		中詰盛土		68
	2-10-9 地中連続壁工(壁式)			68
	2-10-10 地中連続壁工(柱列式)			68
	2-10-22 法面吹付工			84
第11節 軽量盛土工	2-11-2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第12節 工場製作工(共通)	2-12-1 一般事項	casting費(金属支承工)		69
		casting費(大型ゴム支承工)		70
		仮設材製作工		71
		刃口金物製作工		71
	2-12-3 桁製作工	仮組立による検査を実施する場合		72
		シミュレーション仮組立検査を行う場合		73
		仮組立検査を実施しない場合		74
		鋼製えん堤製作工(仮組立時)		75 76
第12節 工場製作工(共通)	2-12-4 検査路製作工			77
	2-12-5 鋼製伸縮継手製作工			77
	2-12-6 落橋防止装置製作工			78
	2-12-7 橋梁用防護柵製作工			78
	2-12-8 アンカーフレーム製作工			78
	2-12-9 プレベーム用桁製作工			79
	2-12-10 鋼製排水管製作工			79
	2-12-11 工場塗装工			80
第13節 橋梁架設工	2-13-1 架設工(鋼橋)	架設工(クレーン架設)		81
		架設工(ケーブルクレーン架設)		81
		架設工(ケーブルエレクション架設)		81
		架設工(架設桁架設)		81
		架設工(送出し架設)		81
		架設工(トラバラークレーン架設)		81

出来形管理基準

【第3編 土木工事共通編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 13 節 橋梁架設工	2 - 13 - 3 架設工(コンクリート橋)	架設工(クレーン架設)		82
		架設工(架設桁架設)		82
		架設工支保工(固定)		82
		架設工支保工(移動)		82
第 13 節 橋梁架設工	2 - 13 - 3 架設工(コンクリート橋)	架設桁架設(片持架設)		82
		架設桁架設(押出し架設)		82
第 14 節 法面工(共通)	2 - 14 - 2 植生工	種子散布工		82
		張芝工		82
		筋芝工		82
		市松芝工		82
		植生シート・マット工		82
		植生筋工		82
		人工張芝工		82
		植生穴工		82
		厚層基材吹付工		83
		客土吹付工		83
	2 - 14 - 3 吹付工	コンクリート		84
		モルタル		84
	2 - 14 - 4 法枠工	現場打法枠工		85
		現場吹付法枠工		85
		プレキャスト法枠工		85
	2 - 14 - 6 アンカー工			85
第 15 節 擁壁工(共通)	2 - 15 - 1 一般事項	場所打擁壁工		86
	2 - 15 - 2 プレキャスト擁壁工			86
	2 - 15 - 3 補強土壁工	補強土(テールアルメ)壁工法		87
		多数アンカー式補強土工法		87
		ジオテキスタイルを用いた補強土工法		87
	2 - 15 - 4 井桁ブロック工			87
第 16 節 浚渫工(共通)	2 - 16 - 3 浚渫船運転工	ポンプ浚渫船		88
		グラブ浚渫船		88
		バックホウ浚渫船		88
第 18 節 床版工	2 - 18 - 1 床版工			89

出来形管理基準

【第6編 河川編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第1章 築堤・護岸				
第3節 軽量盛土工	1－3－2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第4節 地盤改良工	1－4－2 表層安定処理工		第3編2-7-6 サンドマット工	64
	1－4－3 パイルネット工		第3編2-7-5 パイルネット工	64
	1－4－4 パーチカルドレーン工		第3編2-7-7 パーチカルドレーン工	65
	1－4－5 締固め改良工		第3編2-7-8 締固め改良工	65
	1－4－6 固結工		第3編2-7-9 固結工	66
第5節 護岸基礎工	1－5－3 基礎工		第3編2-4-3 基礎工(護岸)	19
	1－5－4 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	8
第6節 矢板護岸工	1－6－3 笠コンクリート		第3編2-4-3 基礎工(護岸)	19
	1－6－4 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	8
第7節 法覆護岸工	1－7－3 コンクリートブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	22
	1－7－4 護岸付属物工			90
	1－7－5 緑化ブロック工		第3編2-5-4 緑化ブロック工	23
	1－7－6 環境護岸ブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	22
	1－7－7 石積(張)工		第3編2-5-5 石積(張)工	23
	1－7－8 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	85
	1－7－9 多自然型護岸工	巨石張り	第3編2-3-26 多自然型護岸工	15
		巨石積み	第3編2-3-26 多自然型護岸工	15
		かごマット	第3編2-3-26 多自然型護岸工	15
	1－7－10 吹付工		第3編2-14-3 吹付工	84
	1－7－11 植生工		第3編2-14-2 植生工	83
	1－7－12 覆土工		第1編2-3-5 法面整形工	4
	1－7－13 羽口工	じゃかご	第3編2-3-27 羽口工	16
		ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工	16
		かご枠	第3編2-3-27 羽口工	16
		連節ブロック張り	第3編2-5-3-2 連節ブロック張り	22
第8節 擁壁護岸工	1－8－3 場所打擁壁工		第3編2-15-1 場所打擁壁工	86
	1－8－4 プレキャスト擁壁工		第3編2-15-2 プレキャスト擁壁工	86
第9節 根固め工	1－9－3 根固めブロック工		第3編2-3-17 根固めブロック	13
	1－9－5 沈床工		第3編2-3-18 沈床工	14
	1－9－6 捨石工		第3編2-3-19 捨石工	14
	1－9－7 かご工	じゃかご	第3編2-3-27 羽口工	16
		ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工	16
第10節 水制工	1－10－3 沈床工		第3編2-3-18 沈床工	14
	1－10－4 捨石工		第3編2-3-19 捨石工	14
	1－10－5 かご工	じゃかご	第3編2-3-27 羽口工	16
		ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工	16
	1－10－8 杭出し水制工			90
第11節 付帯道路工	1－11－3 路側防護柵工		第3編2-3-8 路側防護柵工	9
	1－11－5 アスファルト舗装工		第3編2-6-7 アスファルト舗装工	24
	1－11－6 コンクリート舗装工		第3編2-6-12 コンクリート舗装工	47
	1－11－7 薄層カラー舗装工		第3編2-6-13 薄層カラー舗装工	57
	1－11－8 ブロック舗装工		第3編2-6-8 ブロック舗装工	59
	1－11－9 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	17
	1－11－10 集水桝工		第3編2-3-30 集水桝工	18
	1－11－11 縁石工		第3編2-3-5 縁石工	8
	1－11－12 区画線工		第3編2-3-9 区画線工	10
第12節 付帯道路施設工	1－12－3 道路付属物工		第3編2-3-10 道路付属物工	10
	1－12－4 標識工		第3編2-3-6 小型標識工	8
第13節 光ケーブル配管工	1－13－3 配管工			90
	1－13－4 ハンドホール工			91

出来形管理基準

【第6編 河 川 編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第2章 浚渫(河川)				
第3節 浚渫工(ポンプ浚渫船)	2-3-2 浚渫船運転工(民船・官船)		第3編2-16-3 浚渫船運転工	88
第4節 浚渫工(グラブ船)	2-4-2 浚渫船運転工		第3編2-16-3 浚渫船運転工	88
第5節 浚渫工(バックホウ浚渫船)	2-5-2 浚渫船運転工		第3編2-16-3 浚渫船運転工	88
第3章 樋門・樋管				
第3節 軽量盛土工	3-3-2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第4節 地盤改良工	3-4-2 固結工		第3編2-7-9 固結工	66
第5節 樋門・樋管本体内工	3-5-3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	3-5-4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	20
	3-5-5 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	8
	3-5-6 函渠工	本体内工		91
		ヒューム管		91
		PC管		91
		コルゲートパイプ		91
		ダクタイル鋳鉄管		91
		PC函渠	第3編2-3-28 プレキャストカルバート工	91
	3-5-7 翼壁工			92
	3-5-8 水叩工			92
第6節 護床工	3-6-3 根固めブロック工		第3編2-3-17 根固めブロック	13
	3-6-5 沈床工		第3編2-3-18 沈床工	14
	3-6-6 捨石工		第3編2-3-19 捨石工	14
	3-6-7 かご工	じゃかご	第3編2-3-27 羽口工	16
		ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工	16
第7節 水路工	3-7-3 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	17
	3-7-4 集水桝工		第3編2-3-30 集水桝工	18
	3-7-5 暗渠工		第3編2-3-29 側溝工	17
	3-7-6 樋門接続暗渠工		第3編2-3-28 プレキャストカルバート工	16
第8節 付属物設置工	3-8-3 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	9
	3-8-7 階段工		第3編2-3-22 階段工	14
第4章 水門				
第3節 工場製作工	4-3-3 桁製作工		第3編2-12-3 桁製作工	72
	4-3-4 鋼製伸縮継手製作工		第3編2-12-5 鋼製伸縮継手製作工	77
	4-3-5 落橋防止装置製作工		第3編2-12-6 落橋防止装置製作工	78
	4-3-6 鋼製排水管製作工		第3編2-12-10 鋼排水管製作工	79
	4-3-7 橋梁用防護柵製作工		第3編2-4-8 橋梁用防護柵製作工	78
	4-3-9 仮設材製作工		第3編2-12-1 仮設材製作工	71
	4-3-10 工場塗装工		第3編2-12-11 工場塗装工	80
第5節 軽量盛土工	4-5-2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第6節 水門本体内工	4-6-4 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	4-6-5 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	20
	4-6-6 矢板工(遮水矢板)		第3編2-3-4 矢板工	8
	4-6-7 床版工			92
	4-6-8 堰柱工			92
	4-6-9 門柱工			92
	4-6-10 ゲート操作台工			92
	4-6-11 胸壁工			92
	4-6-12 翼壁工		第6編3-5-7 翼壁工	92
	4-6-13 水叩工		第6編3-5-8 水叩工	92

出来形管理基準

【第6編 河 川 編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 7 節 護床工	4 - 7 - 3 根固めブロック工		第3編2-3-17 根固めブロック	13
	4 - 7 - 5 沈床工		第3編2-3-18 沈床工	14
	4 - 7 - 6 捨石工		第3編2-3-19 捨石工	14
	4 - 7 - 7 かご工	じゃかご	第3編2-3-27 羽口工	16
		ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工	16
第 8 節 付属物設置工	4 - 8 - 3 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	9
	4 - 8 - 8 階段工		第3編2-3-22 階段工	14
第 9 節 鋼管理橋上部工	4 - 9 - 4 架設工(クレーン架設)		第3編2-13-1 架設工(クレーン架設)	81
	4 - 9 - 5 架設工(ケーブルクレーン架設)		第3編2-13-1 架設工(ケーブルクレーン架設)	81
	4 - 9 - 6 架設工(ケーブルエレクトクション架設)		第3編2-13-1 架設工(ケーブルエレクトクション架設)	81
	4 - 9 - 7 架設工(架設桁架設)		第3編2-13-1 架設工(架設桁架設)	81
	4 - 9 - 8 架設工(送出し架設)		第3編2-13-1 架設工(送出し架設)	81
	4 - 9 - 9 架設工(トラベラークレーン架設)		第3編2-13-1 架設工(トラベラークレーン架設)	81
	4 - 9 - 10 支承工		第10編4-5-10 支承工	124
第 10 節 橋梁現場塗装工	4 - 10 - 3 現場塗装工		第3編2-3-31 現場塗装工	18
第 11 節 床版工	4 - 11 - 2 床版工		第3編2-18-2 床版工	89
第 12 節 橋梁付属物工(鋼管理橋)	4 - 12 - 2 伸縮装置工		第3編2-3-24 伸縮装置工	14
	4 - 12 - 4 地覆工		第10編4-8-5 地覆工	125
	4 - 12 - 5 橋梁用防護柵工		第10編4-8-6 橋梁用防護柵工、橋梁用高欄工	125
	4 - 12 - 6 橋梁用高欄工		第10編4-8-7 橋梁用防護柵工、橋梁用高欄工	125
	4 - 12 - 7 検査路工		第10編4-8-8 検査路工	125
第 14 節 コンクリート管理橋上部工(PC橋)	4 - 14 - 2 プレテンション桁製作工(購入工)		第3編2-3-12 プレテンション桁製作工(購入工)	11
	4 - 14 - 3 ポストテンション桁製作工		第3編2-3-13 ポストテンション桁製作工	11
	4 - 14 - 4 プレキャストセグメント製作工(購入工)		第3編2-3-13 プレキャストセグメント製作工(購入工)	12
	4 - 14 - 5 プレキャストセグメント主桁組立工		第3編2-3-14 プレキャストセグメント主桁組立工	12
	4 - 14 - 6 支承工		第10編4-5-10 支承工	124
	4 - 14 - 7 架設工(クレーン架設)		第3編2-13-1 架設工(クレーン架設)	81
	4 - 14 - 8 架設工(架設桁架設)		第3編2-13-1 架設工(架設桁架設)	81
	4 - 14 - 9 床版・横組工		第3編2-18-2 床版工	89
	4 - 14 - 10 落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	125
第 15 節 コンクリート管理橋上部工(PC橋ホロースラブ橋)	4 - 15 - 3 支承工		第10編4-5-10 支承工	124
	4 - 15 - 4 落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	125
	4 - 15 - 5 PCホロースラブ製作工		第3編2-3-15 PCホロースラブ製作工	12
第 16 節 橋梁付属物工(コンクリート管理橋)	4 - 16 - 2 伸縮装置工		第3編2-3-24 伸縮装置工	14
	4 - 16 - 4 地覆工		第10編4-8-5 地覆工	125
	4 - 16 - 5 橋梁用防護柵工		第10編4-8-6 橋梁用防護柵工、橋梁用高欄工	125
	4 - 16 - 6 橋梁用高欄工		第10編4-8-7 橋梁用防護柵工、橋梁用高欄工	125
	4 - 16 - 7 検査路工		第10編4-8-8 検査路工	125
第 18 節 舗装工	4 - 18 - 5 アスファルト舗装工		第3編2-6-7 アスファルト舗装工	24
	4 - 18 - 6 半たわみ性舗装工		第3編2-6-8 半たわみ性舗装工	30
	4 - 18 - 7 排水性舗装工		第3編2-6-9 排水性舗装工	36
	4 - 18 - 8 透水性舗装工		第3編2-6-10 透水性舗装工	42
	4 - 18 - 9 グースアスファルト舗装工		第3編2-6-11 グースアスファルト舗装工	44

出来形管理基準

【第6編 河 川 編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 18 節 舗装工	4 - 18 - 10 コンクリート舗装工		第3編2-6-12 コンクリート舗装工	47
	4 - 18 - 11 薄層カラー舗装工		第3編2-6-13 薄層カラー舗装工	57
	4 - 18 - 12 ブロック舗装工		第3編2-6-14 ブロック舗装工	59
第 5 章 堰				
第 3 節 工場製作工	5 - 3 - 3 刃口金物製作工		第3編2-12-1 刃口金物製作工	71
	5 - 3 - 4 桁製作工		第3編2-12-3 桁製作工	72
	5 - 3 - 5 検査路製作工		第3編2-12-4 検査路製作工	77
	5 - 3 - 6 鋼製伸縮継手製作工		第3編2-12-5 鋼製伸縮継手製作工	77
	5 - 3 - 7 落橋防止装置製作工		第3編2-12-6 落橋防止装置製作工	78
	5 - 3 - 8 鋼製排水管製作工		第3編2-12-10 鋼排水管製作工	79
	5 - 3 - 9 プレベーム用桁製作工		第3編2-12-9 プレベーム用桁製作工	79
	5 - 3 - 10 橋梁用防護柵製作工		第3編2-12-7 橋梁用防護柵製作工	78
	5 - 3 - 11 鋳造費		第3編2-12-1 鋳造費	70
	5 - 3 - 12 アンカーフレーム製作工		第3編2-12-8 アンカーフレーム製作工	78
	5 - 3 - 13 仮設材製作工		第3編2-12-1 仮設材製作工	71
5 - 3 - 14 工場塗装工		第3編2-12-11 工場塗装工	80	
第 5 節 軽量盛土工	5 - 5 - 2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第 6 節 可動堰本体工	5 - 6 - 3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	5 - 6 - 4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	20
	5 - 6 - 5 オープンケーソン基礎工		第3編2-4-7 オープンケーソン基礎工	21
	5 - 6 - 6 ニューマチックケーソン基礎工		第3編2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	21
	5 - 6 - 7 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	8
	5 - 6 - 8 床版工		第3編2-18-1 床版工	89
	5 - 6 - 9 堰柱工		第6編4-6-8 堰柱工	92
	5 - 6 - 10 門柱工		第6編4-6-9 門柱工	92
	5 - 6 - 11 ゲート操作台工		第6編4-6-10 ゲート操作台工	92
	5 - 6 - 12 水叩工		第6編3-5-8 水叩工	92
	5 - 6 - 13 閘門工			92
	5 - 6 - 14 土砂吐土			92
	5 - 6 - 15 取付擁壁工		第3編2-15-1 場所打擁壁工	86
	第 7 節 固定堰本体工	5 - 7 - 3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工
5 - 7 - 4 場所打杭工			第3編2-4-5 場所打杭工	20
5 - 7 - 5 オープンケーソン基礎工			第3編2-4-7 オープンケーソン基礎工	21
5 - 7 - 6 ニューマチックケーソン基礎工			第3編2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	21
5 - 7 - 7 矢板工			第3編2-3-4 矢板工	8
5 - 7 - 8 堰本体工				92
5 - 7 - 9 水叩工				92
5 - 7 - 10 土砂吐土				92
5 - 7 - 11 取付擁壁工			第3編2-15-1 場所打擁壁工	86
第 8 節 魚道工		5 - 8 - 3 魚道本体工		
第 9 節 管理橋下部工	5 - 9 - 2 管理橋橋台工			93
第 10 節 鋼管理橋上部工	5 - 10 - 4 架設工(クレーン架設)		第3編2-13-1 架設工(クレーン架設)	81
	5 - 10 - 5 架設工(ケーブルクレーン架設)		第3編2-13-1 架設工(ケーブルクレーン架設)	81
	5 - 10 - 6 架設工(ケーブルエレクション架設)		第3編2-13-1 架設工(ケーブルエレクション架設)	81
	5 - 10 - 7 架設工(架設桁架設)		第3編2-13-1 架設工(架設桁架設)	81
	5 - 10 - 8 架設工(送出し架設)		第3編2-13-1 架設工(送出し架設)	81
	5 - 10 - 9 架設工(トラベラークレーン架設)		第3編2-13-1 架設工(トラベラークレーン架設)	81
	5 - 10 - 10 支承工		第10編4-5-10 支承工	124

出来形管理基準

【第6編 河川編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第11節 橋梁現場塗装工	5－11－3 現場塗装工		第3編2-3-31 現場塗装工	18
第12節 床版工	5－12－2 床版工		第3編2-18-1 床版・横組工	89
第13節 橋梁附属物工(鋼管理橋)	5－13－2 伸縮装置工		第3編2-3-24 伸縮装置工	14
	5－13－4 地覆工		第10編4-8-5 地覆工	125
	5－13－5 橋梁用防護柵工		第10編4-8-6 橋梁用防護柵工、橋梁用高欄工	125
	5－13－6 橋梁用高欄工		第10編4-8-7 橋梁用防護柵工、橋梁用高欄工	125
	5－13－7 検査路工		第10編4-8-8 検査路工	125
第15節 コンクリート管理橋上部工(PC橋)	5－15－2 プレテンション桁製作工(購入工)		第3編2-3-12 プレテンション桁製作工(購入工)	11
	5－15－3 ポストテンション桁製作工		第3編2-3-13 ポストテンション桁製作工	11
	5－15－4 プレキャストセグメント製作工(購入工)		第3編2-3-13 プレキャストセグメント製作工(購入工)	12
	5－15－5 プレキャストセグメント主桁組立工		第3編2-3-13 プレキャストセグメント主桁組立工	12
	5－15－6 支承工		第10編4-5-10 支承工	124
	5－15－7 架設工(クレーン架設)		第3編2-13-1 架設工(クレーン架設)	81
	5－15－8 架設工(架設桁架設)		第3編2-13-1 架設工(架設桁架設)	81
	5－15－9 床版・横組工		第3編2-18-1 床版・横組工	89
	5－15－10 落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	125
第16節 コンクリート管理橋上部工(PC橋ホロースラブ橋)	5－16－3 支承工		第10編4-5-10 支承工	124
	5－16－4 PCホロースラブ製作工		第3編2-3-15 PCホロースラブ製作工	12
	5－16－5 落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	125
第17節 コンクリート管理橋上部工(PC箱桁橋)	5－17－3 支承工		第10編4-5-10 支承工	124
	5－17－4 PC箱桁製作工		第3編2-3-15 PC箱桁製作工	13
	5－17－5 落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	125
第18節 橋梁附属物工(コンクリート管理橋)	5－18－2 伸縮装置工		第3編2-3-24 伸縮装置工	14
	5－18－4 地覆工		第10編4-8-5 地覆工	125
	5－18－5 橋梁用防護柵工		第10編4-8-6 橋梁用防護柵工、橋梁用高欄工	125
	5－18－6 橋梁用高欄工		第10編4-8-7 橋梁用防護柵工、橋梁用高欄工	125
	5－18－7 検査路工		第10編4-8-8 検査路工	125
第20節 附属物設置工	5－20－3 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	9
	5－20－7 階段工		第3編2-3-22 階段工	14
第6章 排水機場				
第3節 軽量盛土工	6－3－2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第4節 機場本体工	6－4－3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	6－4－4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	20
	6－4－5 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	8
	6－4－6 本体工			94
	6－4－7 燃料貯油槽工			94
第5節 沈砂池工	6－5－3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	6－5－4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	20
	6－5－5 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	8
	6－5－6 場所打擁壁工		第3編2-15-1 場所打擁壁工	86
	6－5－7 コンクリート床版工			94
	6－5－8 ブロック床版工		第3編2-3-17 根固めブロック	13
	6－5－9 場所打水路工		第3編2-3-29 場所打水路工	17
第6節 吐出水槽工	6－6－3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	6－6－4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	20
	6－6－5 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	8
	6－6－6 本体工		第6編6-4-6 本体工	94

出来形管理基準

【第6編 河 川 編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 7 章 床止め・床固め				
第 3 節 軽量盛土工	7 - 3 - 2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第 4 節 床止め工	7 - 4 - 4 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	7 - 4 - 5 矢板工		第3編2-4-5 場所打杭工	20
	7 - 4 - 6 本体工	床固め本体工		95
		植石張り	第3編2-5-5 石積(張)工	23
		根固めブロック	第3編2-3-17 根固めブロック	13
	7 - 4 - 7 取付擁壁工		第3編2-15-1 場所打擁壁工	86
	7 - 4 - 8 水叩工	水叩工		95
		巨石張り	第3編2-3-26 多自然型護岸工	15
		根固めブロック	第3編2-3-17 根固めブロック	13
第 5 節 床固め工	7 - 5 - 4 本堤工		第6編7-4-6 本体工	95
	7 - 5 - 5 垂直壁工		第6編7-4-6 本体工	95
	7 - 5 - 6 側壁工			95
	7 - 5 - 7 水叩工		第6編7-4-8 水叩工	95
第 6 節 山留擁壁工	7 - 6 - 3 コンクリート擁壁工		第3編2-15-1 場所打擁壁工	86
	7 - 6 - 4 ブロック積擁壁工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	22
	7 - 6 - 5 石積擁壁工		第3編2-5-5 石積(張)工	23
	7 - 6 - 6 山留擁壁基礎工		第3編2-4-3 基礎工(護岸)	19
第 8 章 河川維持				
第 7 節 路面補修工	8 - 7 - 3 不陸整正工		第1編2-3-6 堤防天端工	4
	8 - 7 - 4 コンクリート舗装補修工		第3編2-6-12 コンクリート舗装工	47
	8 - 7 - 5 アスファルト舗装補修工		第3編2-6-7 アスファルト舗装工	24
第 8 節 付属物復旧工	8 - 8 - 2 付属物復旧工		第3編2-3-8 路側防護柵工	9
第 9 節 付属物設置工	8 - 9 - 3 防護柵工		第3編2-3-7 防止柵工	9
	8 - 9 - 5 付属物設置工		第3編2-3-10 道路付属物工	10
第 10 節 光ケーブル配管工	8 - 10 - 3 配管工		第6編1-13-3 配管工	90
	8 - 10 - 4 ハンドホール工		第6編1-13-4 ハンドホール工	91
第 12 節 植栽維持工	8 - 12 - 3 樹木・芝生管理工		第3編2-14-2 植生工	82
第 9 章 河川修繕				
第 3 節 軽量盛土工	9 - 3 - 2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第 4 節 腹付工	9 - 4 - 2 覆土工		第1編2-3-5 法面整形工	4
	9 - 4 - 3 植生工		第3編2-14-2 植生工	82
第 5 節 側帯工	9 - 5 - 2 縁切工	じゃかご工	第3編2-3-27 じゃかご	16
		連節ブロック張り	第3編2-5-3 コンクリートブロック工(連節ブロック張り)	22
		コンクリートブロック張り	第3編2-5-3 コンクリートブロック工	22
		石張り	第3編2-5-5 石積(張)工	23
	9 - 5 - 3 植生工		第3編2-14-2 植生工	82
第 6 節 堤脚保護工	9 - 6 - 3 石積工		第3編2-5-5 石積(張)工	23
	9 - 6 - 4 コンクリートブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	22
第 7 節 管理用通路工	9 - 7 - 2 防護柵工		第3編2-3-7 防止柵工	9
	9 - 7 - 4 路面切削工		第3編2-6-15 路面切削工	61
	9 - 7 - 5 舗装打換え工		第3編2-6-16 舗装打換え工	61
	9 - 7 - 6 オーバーレイ工		第3編2-6-17 オーバーレイ工	61
	9 - 7 - 7 排水構造物工	プレキャストU型側溝・管(函)渠	第3編2-3-29 側溝工	17
		集水樹工	第3編2-3-30 集水樹工	18
	9 - 7 - 8 道路付属物工	歩車道境界ブロック	第3編2-3-5 縁石工	8
第 8 節 現場塗装工	9 - 8 - 3 付属物塗装工		第3編2-3-31 現場塗装工	18
	9 - 8 - 4 コンクリート面塗装工		第3編2-3-11 コンクリート面塗装工	10

出来形管理基準

【第7編 河川海岸編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 1 章 堤防・護岸				
第 3 節 軽量盛土工	1 - 3 - 2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第 4 節 地盤改良工	1 - 4 - 2 表層安定処理工		第3編2-7-6 サンドマット工	65
	1 - 4 - 3 パイルネット工		第3編2-7-5 パイルネット工	64
	1 - 4 - 4 パーチカルドレーン工		第3編2-7-7 パーチカルドレーン工	65
	1 - 4 - 5 締固め改良工		第3編2-7-8 締固め改良工	65
	1 - 4 - 6 固結工		第3編2-7-9 固結工	66
第 5 節 護岸基礎工	1 - 5 - 4 捨石工		第3編2-3-19 捨石工	14
	1 - 5 - 5 場所打コンクリート工			96
	1 - 5 - 6 海岸コンクリートブロック工			96
	1 - 5 - 7 笠コンクリート工		第3編2-4-3 基礎工(護岸)	19
	1 - 5 - 8 基礎工		第3編2-4-3 基礎工(護岸)	19
	1 - 5 - 9 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	8
第 6 節 護岸工	1 - 6 - 3 石積(張)工		第3編2-5-5 石積(張)工	23
	1 - 6 - 4 海岸コンクリートブロック工			96
	1 - 6 - 5 コンクリート被覆工			97
第 7 節 擁壁工	1 - 7 - 3 場所打擁壁工		第3編2-15-1 場所打擁壁工	86
第 8 節 天端被覆工	1 - 8 - 2 コンクリート被覆工			97
第 9 節 波返工	1 - 9 - 3 波返工			97
第 10 節 裏法被覆工	1 - 10 - 2 石積(張)工		第3編2-5-5 石積(張)工	23
	1 - 10 - 3 コンクリートブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	22
	1 - 10 - 4 コンクリート被覆工		第7編1-6-5 コンクリート被覆工	97
	1 - 10 - 5 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	85
第 11 節 カルバート工	1 - 11 - 3 プレキャストカルバート工		第3編2-3-28 プレキャストカルバート工	16
第 12 節 排水構造物工	1 - 12 - 3 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	17
	1 - 12 - 4 集水桝工		第3編2-3-30 集水桝工	18
	1 - 12 - 5 管渠工	プレキャストパイプ	第3編2-3-29 側溝工	17
		プレキャストボックス	第3編2-3-29 側溝工	17
		コルゲートパイプ	第3編2-3-29 側溝工	17
		タグタイル 铸铁管	第3編2-3-29 側溝工	17
	1 - 12 - 6 場所打水路工		第3編2-3-29 場所打水路工	17
第 13 節 付属物設置工	1 - 13 - 3 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	9
	1 - 13 - 6 階段工		第3編2-3-22 階段工	14
第 14 節 付帯道路工	1 - 14 - 3 路側防護柵工		第3編2-3-8 路側防護柵工	9
	1 - 14 - 5 アスファルト舗装工		第3編2-6-7 アスファルト舗装工	24
	1 - 14 - 6 コンクリート舗装工		第3編2-6-12 コンクリート舗装工	47
	1 - 14 - 7 薄層カラー舗装工		第3編2-6-13 薄層カラー舗装工	57
	1 - 14 - 8 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	17
	1 - 14 - 9 集水桝工		第3編2-3-30 集水桝工	18
	1 - 14 - 10 縁石工		第3編2-3-5 縁石工	8
	1 - 14 - 11 区画線工		第3編2-3-9 区画線工	10
第 15 節 付帯道路施設工	1 - 15 - 3 道路付属物工		第3編2-3-10 道路付属物工	10
	1 - 15 - 4 小型標識工		第3編2-3-6 小型標識工	8
第 2 章 突堤・人工岬				
第 3 節 軽量盛土工	2 - 3 - 2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第 4 節 突堤基礎工	2 - 4 - 4 捨石工			98
	2 - 4 - 5 吸出し防止工			98

出来形管理基準

【第7編 河川海岸編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 5 節 突堤本体工	2 - 5 - 2 捨石工			98
	2 - 5 - 5 海岸コンクリートブロック工			99
	2 - 5 - 6 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	2 - 5 - 7 詰杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	2 - 5 - 8 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	8
	2 - 5 - 9 石枠工			99
	2 - 5 - 10 場所打コンクリート工			99
	2 - 5 - 11 ケーソン工	ケーソン工製作		100
		ケーソン工据付		100
	2 - 5 - 11 ケーソン工	突堤上部工 (場所打コンクリート) (海岸コンクリートブロック)		100
	2 - 5 - 12 セルラー工	セルラー工製作		101
		セルラー工据付		101
		突堤上部工 (場所打コンクリート) (海岸コンクリートブロック)		101
第 6 節 根固め工	2 - 6 - 2 捨石工			101
	2 - 6 - 3 根固めブロック工			102
第 7 節 消波工	2 - 7 - 2 捨石工		第7編2-3-19 捨石工	14
	2 - 7 - 3 消波ブロック工			102
第 3 章 海域堤防(人工リーフ、離岸堤、潜堤)				
第 3 節 海域堤基礎工	3 - 3 - 3 捨石工			102
	3 - 3 - 4 吸出し防止工		第7編2-4-5 吸出し防止工	98
第 4 節 海域堤本体工	3 - 4 - 2 捨石工		第7編2-3-19 捨石工	14
	3 - 4 - 3 海岸コンクリートブロック工		第7編2-5-5 海岸コンクリートブロック工	99
	3 - 4 - 4 ケーソン工		第7編2-5-11 ケーソン工	100
	3 - 4 - 5 セルラー工		第7編2-5-12 セルラー工	101
	3 - 4 - 6 場所打コンクリート工		第7編2-5-10 場所打コンクリート工	99
第 4 章 浚渫(海)				
第 3 節 浚渫工(ポンプ浚渫船)	4 - 3 - 2 浚渫船運転工		第3編2-16-3 浚渫船運転工	88
第 4 節 浚渫工(グラブ浚渫船)	4 - 4 - 2 浚渫船運転工		第3編2-16-3 浚渫船運転工	88
第 5 章 養浜				
第 3 節 軽量盛土工	5 - 3 - 2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第 4 節 砂止工	5 - 4 - 2 根固めブロック工		第7編2-3-17 根固めブロック工	13

出来形管理基準

【第8編 砂 防 編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 1 章 砂防堰堤				
第 3 節 工場製作工	1 - 3 - 3 鋼製堰堤製作工		第3編2-12-3-3 桁製作工(鋼製堰堤製作工(仮組立時))	75
	1 - 3 - 4 鋼製堰堤仮設材製作工			103
	1 - 3 - 5 工場塗装工		第3編2-12-11 工場塗装工	80
第 5 節 軽量盛土工	1 - 5 - 2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第 6 節 法面工	1 - 6 - 2 植生工		第3編2-14-2 植生工	82
	1 - 6 - 3 法面吹付工		第3編2-14-3 吹付工	84
	1 - 6 - 4 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	85
	1 - 6 - 6 アンカー工		第3編2-14-6 アンカー工	85
	1 - 6 - 7 かご工	じゃかご ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工 第3編2-3-27 羽口工	16 16
第 8 節 コンクリート堰堤工	1 - 8 - 4 コンクリート堰堤本体工			103
	1 - 8 - 5 コンクリート副堰堤工		第8編1-8-4 コンクリート堰堤本体工	103
	1 - 8 - 6 コンクリート側壁工			103
	1 - 8 - 8 水叩工			104
第 9 節 鋼製堰堤工	1 - 9 - 5 鋼製堰堤本体工	不透過型 透過型		104 105
	1 - 9 - 6 鋼製側壁工			107
	1 - 9 - 7 コンクリート側壁工		第8編1-8-6 コンクリート側壁工	103
	1 - 9 - 9 水叩工		第8編1-8-8 水叩工	104
	1 - 9 - 10 現場塗装工		第3編2-3-31 現場塗装工	18
第 10 節 護床工・根固め工	1 - 10 - 4 根固めブロック工		第7編2-3-17 根固めブロック工	13
	1 - 10 - 6 沈床工		第3編2-3-18 沈床工	14
	1 - 10 - 7 かご工	じゃかご ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工 第3編2-3-27 羽口工	16 16
第 11 節 砂防堰堤付属物設置工	1 - 11 - 3 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	9
第 12 節 付帯道路工	1 - 12 - 3 路側防護柵工		第3編2-3-8 路側防護柵工	9
	1 - 12 - 5 アスファルト舗装工		第3編2-6-7 アスファルト舗装工	24
	1 - 12 - 6 コンクリート舗装工		第3編2-6-12 コンクリート舗装工	47
	1 - 12 - 7 薄層カラー舗装工		第3編2-6-13 薄層カラー舗装工	57
	1 - 12 - 8 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	17
	1 - 12 - 9 集水桝工		第3編2-3-30 集水桝工	18
	1 - 12 - 10 縁石工		第3編2-3-5 縁石工	8
	1 - 12 - 11 区画線工		第3編2-3-9 区画線工	10
第 13 節 付帯道路施設工	1 - 13 - 3 道路付属物工		第3編2-3-10 道路付属物工	10
	1 - 13 - 4 小型標識工		第3編2-3-6 小型標識工	8
第 2 章 流路				
第 3 節 軽量盛土工	2 - 3 - 2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第 4 節 流路護岸工	2 - 4 - 4 基礎工(護岸)		第3編2-4-3 基礎工	19
	2 - 4 - 5 コンクリート擁壁工		第3編2-15-1 場所打擁壁工	86
	2 - 4 - 6 ブロック積擁壁工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	22
	2 - 4 - 7 石積擁壁工		第3編2-5-5 石積(張)工	23
	2 - 4 - 8 護岸付属物工		第6編1-7-4 護岸付属物工	90
	2 - 4 - 9 植生工		第3編2-14-2 植生工	82
第 5 節 床固め工	2 - 5 - 4 根固め本体工		第8編1-8-4 コンクリート堰堤本体工	103
	2 - 5 - 5 垂直壁工		第8編1-8-4 コンクリート堰堤本体工	103
	2 - 5 - 6 側壁工		第8編1-8-6 コンクリート側壁工	103
	2 - 5 - 7 水叩工		第8編1-8-8 水叩工	104
	2 - 5 - 8 魚道工			107

出来形管理基準

【第8編 砂 防 編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 6 節 根固め・水制工	2 － 6 － 4 根固めブロック工		第7編2-3-17 根固めブロック工	13
	2 － 6 － 6 捨石工		第3編2-3-19 捨石工	14
	2 － 6 － 7 かご工	じゃかご	第3編2-3-27 羽口工	16
		ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工	16
		かごマット	第3編2-3-26 多自然型護岸工	15
第 7 節 流路付属物設置工	2 － 7 － 2 階段工		第3編2-3-22 階段工	14
	2 － 7 － 3 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	9
第 3 章 斜面对策				
第 3 節 軽量盛土工	3 － 3 － 2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第 4 節 法面工	3 － 4 － 2 植生工		第3編2-14-2 植生工	82
	3 － 4 － 3 吹付工		第3編2-14-3 吹付工	84
	3 － 4 － 4 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	85
	3 － 4 － 5 かご工	じゃかご	第3編2-3-27 羽口工	16
		ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工	16
	3 － 4 － 6 アンカー工 (プレキャストコンクリート版)		第3編2-14-6 アンカー工	85
	3 － 4 － 7 抑止アンカー工		第3編2-14-6 アンカー工	85
第 5 節 擁壁工	3 － 5 － 3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	3 － 5 － 4 場所打擁壁工		第3編2-15-1 場所打擁壁工	86
	3 － 5 － 5 プレキャスト擁壁工		第3編2-15-2 プレキャスト擁壁工	86
	3 － 5 － 6 補強土壁工		第3編2-15-3 盛土補強工	87
	3 － 5 － 7 井桁ブロック工		第3編2-15-4 井桁ブロック工	87
	3 － 5 － 8 落石防護工		第10編1-11-5 落石防護柵工	114
第 6 節 山腹水路工	3 － 6 － 3 山腹集水路・排水路工		第3編2-3-29 場所打水路工	17
	3 － 6 － 4 山腹明暗渠工			107
	3 － 6 － 5 山腹暗渠工		第3編2-3-29 暗渠工	17
	3 － 6 － 6 現場打水路工		第3編2-3-29 場所打水路工	17
	3 － 6 － 7 集水桝工		第3編2-3-30 集水桝工	18
第 7 節 地下水排除工	3 － 7 － 4 集排水ボーリング工			108
	3 － 7 － 5 集水井工			108
第 8 節 地下水遮断工	3 － 8 － 3 場所打擁壁工		第3編2-3-29 場所打水路工	17
	3 － 8 － 4 固結工		第3編2-7-9 固結工	66
	3 － 8 － 5 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	8
第 9 節 抑止杭工	3 － 9 － 3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	3 － 9 － 4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	20
	3 － 9 － 5 シャフト工(深礎工)		第3編2-4-6 深礎工	20
	3 － 9 － 6 合成杭工			108

出来形管理基準

【第9編 ダム 編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 1 章 コンクリートダム				
第 4 節 ダムコンクリート工	1 - 4 コンクリートダム工 (本体)			109
	1 - 4 コンクリートダム工 (水叩)			109
	1 - 4 コンクリートダム工 (副ダム)			110
	1 - 4 コンクリートダム工 (導流壁)			111
第 2 章 フィルダム				
第 4 節 盛立工	2 - 4 - 5 コアの盛立			112
	2 - 4 - 6 フィルターの盛立			112
	2 - 4 - 7 ロックの盛立			112
	2 フィルダム(洪水吐)			113
第 3 章 基礎グラウチング				
第 3 節 ボーリング工	3 - 3 ボーリング工			113

出来形管理基準

【第10編 道 路 編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 1 章 道路改良				
第 3 節 工場製作工	1 - 3 - 2 遮音壁支柱製作工	遮音壁支柱製作工		114
		工場塗装工	第3編2-12-11 工場塗装工	80
第 4 節 地盤改良工	1 - 4 - 2 表層安定処理工		第3編2-7-4 表層安定処理工	64
	1 - 4 - 3 置換工		第3編2-7-3 置換工	63
	1 - 4 - 4 サンドマット工		第3編2-7-6 サンドマット工	65
	1 - 4 - 5 パーチカルドレーン工		第3編2-7-7 パーチカルドレーン工	65
	1 - 4 - 6 締固め改良工		第3編2-7-8 締固め改良工	65
	1 - 4 - 7 固結工		第3編2-7-9 固結工	66
第 5 節 法面工	1 - 5 - 2 植生工		第3編2-14-2 植生工	82
	1 - 5 - 3 法面吹付工		第3編2-14-3 吹付工	84
	1 - 5 - 4 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	85
	1 - 5 - 6 アンカー工		第3編2-14-6 アンカー工	85
	1 - 5 - 7 かご工	じゃかご	第3編2-3-27 羽口工	16
		ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工	16
第 6 節 軽量盛土工	1 - 6 - 2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第 7 節 擁壁工	1 - 7 - 3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	1 - 7 - 4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	20
	1 - 7 - 5 場所打擁壁工		第3編2-15-1 場所打擁壁工	86
	1 - 7 - 6 プレキャスト擁壁工		第3編2-15-2 プレキャスト擁壁工	86
	1 - 7 - 7 補強土壁工	補強土壁(テールアルメ)工法	第3編2-15-3 盛土補強工	87
		多数アンカー式補強土工法	第3編2-15-3 盛土補強工	87
		ジオテキスタイルを用いた補強土工法	第3編2-15-3 盛土補強工	87
	1 - 7 - 8 井桁ブロック工		第3編2-15-4 井桁ブロック工	87
第 8 節 石・ブロック積(張)工	1 - 8 - 3 コンクリートブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	22
	1 - 8 - 4 石積(張)工		第3編2-5-5 石積(張)工	23
第 9 節 カルバート工	1 - 9 - 4 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	1 - 9 - 5 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	29
	1 - 9 - 6 場所打函渠工			114
	1 - 9 - 7 プレキャストカルバート工		第3編2-3-28 プレキャストカルバート工	16
第 10 節 排水構造物工(小型水路工)	1 - 10 - 3 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	17
	1 - 10 - 4 管渠工		第3編2-3-29 側溝工	17
	1 - 10 - 5 集水樹・マンホール工		第3編2-3-30 集水樹工	18
	1 - 10 - 6 地下排水工		第3編2-3-29 暗渠工	17
	1 - 10 - 7 場所打水路工		第3編2-3-29 場所打水路工	17
	1 - 10 - 8 排水工 (小段排水・縦排水)		第3編2-3-29 側溝工	17
第 11 節 落石雪害防止工	1 - 11 - 4 落石防止網工			114
	1 - 11 - 5 落石防護柵工			114
	1 - 11 - 6 防雪柵工			115
	1 - 11 - 7 雪崩予防柵工			115
第 12 節 遮音壁工	1 - 12 - 4 遮音壁基礎工			115
	1 - 12 - 5 遮音壁本体工			115
第 2 章 舗 装				
第 3 節 地盤改良工	2 - 3 - 2 路床安定処理工		第3編2-7-2 路床安定処理工	63
	2 - 3 - 3 置換工		第3編2-7-3 置換工	63

出来形管理基準

【第10編 道 路 編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 4 節 舗装工	2 - 4 - 5 アスファルト舗装工		第3編2-6-7 アスファルト舗装工	24
	2 - 4 - 6 半たわみ性舗装工		第3編2-6-8 半たわみ性舗装工	30
	2 - 4 - 7 排水性舗装工		第3編2-6-9 排水性舗装工	36
	2 - 4 - 8 透水性舗装工		第3編2-6-10 透水性舗装工	42
	2 - 4 - 9 グースアスファルト舗装工		第3編2-6-11 グースアスファルト舗装工	44
	2 - 4 - 10 コンクリート舗装工		第3編2-6-12 コンクリート舗装工	47
	2 - 4 - 11 薄層カラー舗装工		第3編2-6-13 薄層カラー舗装工	57
	2 - 4 - 12 ブロック舗装工		第3編2-6-14 ブロック舗装工	59
	2 - 4 歩道路盤工			116
	2 - 4 取合舗装路盤工			116
	2 - 4 路肩舗装路盤工			116
	2 - 4 歩道舗装工			116
	2 - 4 取合舗装工			116
	2 - 4 路肩舗装工			116
	2 - 4 表層工			116
第 5 節 排水構造物工 (路面排水工)	2 - 5 - 3 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	17
	2 - 5 - 4 管渠工		第3編2-3-29 側溝工	17
	2 - 5 - 5 集水柵(街渠柵)・マンホール工		第3編2-3-30 集水柵工	18
	2 - 5 - 6 地下排水工		第3編2-3-29 暗渠工	17
	2 - 5 - 7 場所打水路工		第3編2-3-29 場所打水路工	17
	2 - 5 - 8 排水工 (小段排水・縦排水)		第3編2-3-29 側溝工	17
	2 - 5 - 9 排水性舗装用路肩排水工			117
第 6 節 縁石工	2 - 6 - 3 縁石工		第3編2-3-5 縁石工	8
第 7 節 路掛版工	2 - 7 - 4 路掛版工	コンクリート工		117
		ラバーシュー		117
		アンカーボルト		117
第 8 節 防護柵工	2 - 8 - 3 路側防護柵工		第3編2-3-8 路側防護柵工	9
	2 - 8 - 4 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	9
	2 - 8 - 5 ボックスビーム工		第3編2-3-8 路側防護柵工	9
	2 - 8 - 6 車止めポスト工		第3編2-3-7 防止柵工	9
第 9 節 標識工	2 - 9 - 3 小型標識工		第3編2-3-6 小型標識工	8
	2 - 9 - 4 大型標識工	標識基礎工		117
		標識柱工		117
第 10 節 区画線工	2 - 10 - 2 区画線工		第3編2-3-9 区画線工	10
第 12 節 道路付属施設工	2 - 12 - 4 道路付属物工		第3編2-3-10 道路付属物工	10
	2 - 12 - 5 ケーブル配管工	ケーブル配管工		118
		ハンドホール		118
	2 - 12 - 6 照明工	照明柱基礎工		118
第 13 節 橋梁付属物工	2 - 13 - 2 伸縮装置工		第3編3-3-24 伸縮装置工	14
第 3 章 橋梁下部				
第 3 節 工場製作工	3 - 3 - 2 刃口金物製作工		第3編2-12-1 刃口金物製作工	71
	3 - 3 - 3 鋼製橋脚製作工			119
	3 - 3 - 4 アンカーフレーム製作工		第3編2-12-8 アンカーフレーム製作工	78
	3 - 3 - 5 工場塗装工		第3編2-12-11 工場塗装工	80
第 5 節 軽量盛土工	3 - 5 - 2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6

出来形管理基準

【第10編 道路編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 6 節 橋台工	3 － 6 － 3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	3 － 6 － 4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	20
	3 － 6 － 5 深礎工		第3編2-4-6 深礎工	21
	3 － 6 － 6 オープンケーソン基礎工		第3編2-4-7 オープンケーソン基礎工	21
	3 － 6 － 7 ニューマチックケーソン基礎工		第3編2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	21
	3 － 6 － 8 橋台躯体工			120
第 7 節 RC橋脚工	3 － 7 － 3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	3 － 7 － 4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	20
	3 － 7 － 5 深礎工		第3編2-4-6 深礎工	21
	3 － 7 － 6 オープンケーソン基礎工		第3編2-4-7 オープンケーソン基礎工	21
	3 － 7 － 7 ニューマチックケーソン基礎工		第3編2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	21
	3 － 7 － 8 鋼管矢板基礎工		第3編2-4-9 鋼管矢板基礎工	21
	3 － 7 － 9 橋脚躯体工	張出式		121
		重力式	第10編3-7-9 橋脚躯体工	121
		半重力式	第10編3-7-9 橋脚躯体工	121
		ラーメン式		122
第 8 節 鋼製橋脚工	3 － 8 － 3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	3 － 8 － 4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	20
	3 － 8 － 5 深礎工		第3編2-4-6 深礎工	21
	3 － 8 － 6 オープンケーソン基礎工		第3編2-4-7 オープンケーソン基礎工	21
	3 － 8 － 7 ニューマチックケーソン基礎工		第3編2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	21
	3 － 8 － 8 鋼管矢板基礎工		第3編2-4-9 鋼管矢板基礎工	21
	3 － 8 － 9 橋脚フーチング工	I 型・T 型		122
		門型		123
	3 － 8 － 10 橋脚架設工	I 型・T 型		123
		門型		123
	3 － 8 － 11 現場継手工			123
	3 － 8 － 12 現場塗装工		第3編2-3-31 現場塗装工	18
第 9 節 護岸基礎工	3 － 9 － 3 基礎工		第3編2-4-3 基礎工(護岸)	19
	3 － 9 － 4 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	8
第 10 節 矢板護岸工	3 － 10 － 3 笠コンクリート工		第3編2-4-3 基礎工(護岸)	19
	3 － 10 － 4 矢板工		第3編2-3-4 矢板工	8
第 11 節 法覆護岸工	3 － 11 － 2 コンクリートブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	22
	3 － 11 － 3 護岸付属物工		第6編1-7-4 護岸付属物工	90
	3 － 11 － 4 緑化ブロック工		第3編2-5-4 緑化ブロック工	23
	3 － 11 － 5 環境護岸ブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	22
	3 － 11 － 6 石積(張)工		第3編2-5-5 石積(張)工	23
	3 － 11 － 7 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	85
	3 － 11 － 8 多自然型護岸工	巨石張り	第3編2-3-26 多自然型護岸工	15
		巨石積み	第3編2-3-26 多自然型護岸工	15
		かごマット	第3編2-3-26 多自然型護岸工	15
	3 － 11 － 9 吹付工		第3編2-14-3 吹付工	84
	3 － 11 － 10 植生工		第3編2-14-2 植生工	82
	3 － 11 － 11 覆土工		第1編2-3-5 法面整形工	4

出来形管理基準

【第10編 道路編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 11 節 法覆護岸工	3 - 11 - 12 羽口工	じゃかご	第3編2-3-27 羽口工	16
		ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工	16
		かご枠	第3編2-3-27 羽口工	16
		連節ブロック張り	第3編2-5-3-2 連節ブロック張り	22
第 12 節 擁壁護岸工	3 - 12 - 3 場所打擁壁工		第3編2-15-1 場所打擁壁工	86
	3 - 12 - 4 プレキャスト擁壁工		第3編2-15-2 プレキャスト擁壁工	86
第 4 章 鋼橋上部				
第 3 節 工場製作工	4 - 3 - 3 桁製作工		第3編2-12-3 桁製作工	73
	4 - 3 - 4 検査路製作工		第3編2-12-4 検査路製作工	77
	4 - 3 - 5 鋼製伸縮継手製作工		第3編2-12-5 鋼製伸縮継手製作工	77
	4 - 3 - 6 落橋防止装置製作工		第3編2-12-6 落橋防止装置製作工	78
	4 - 3 - 7 鋼製排水管製作工		第3編2-12-10 鋼排水管製作工	79
	4 - 3 - 8 橋梁用防護柵製作工		第3編3-12-7 橋梁用防護柵製作工	78
	4 - 3 - 9 橋梁用高欄製作工			124
	4 - 3 - 10 横断歩道橋製作工		第3編2-12-3 桁製作工	73
	4 - 3 - 11 鑄造費		第3編2-12-1 鑄造費	70
	4 - 3 - 12 アンカーフレーム製作工		第3編2-12-8 アンカーフレーム製作工	78
	4 - 3 - 13 工場塗装工		第3編2-12-11 工場塗装工	80
第 5 節 鋼橋架設工	4 - 5 - 4 架設工(クレーン架設)		第3編2-13-1 架設工(クレーン架設)	81
	4 - 5 - 5 架設工(ケーブルクレーン架設)		第3編2-13-1 架設工(ケーブルクレーン架設)	81
	4 - 5 - 6 架設工(ケーブルエレクション架設)		第3編2-13-1 架設工(ケーブルエレクション架設)	81
	4 - 5 - 7 架設工(架設桁架設)		第3編2-13-1 架設工(架設桁架設)	81
	4 - 5 - 8 架設工(送出し架設)		第3編2-13-1 架設工(送出し架設)	81
	4 - 5 - 9 架設工(トラバラークレーン架設)		第3編2-13-1 架設工(トラバラークレーン架設)	81
	4 - 5 - 10 支承工		第10編4-5-10 支承工	124
第 6 節 橋梁現場塗装工	4 - 6 - 3 現場塗装工		第3編2-3-31 現場塗装工	18
第 7 節 床版工	4 - 7 - 2 床版工		第3編2-18-1 床版・横組工	89
第 8 節 橋梁付属物工	4 - 8 - 2 伸縮装置工		第3編2-3-24 伸縮装置工	14
	4 - 8 - 3 落橋防止装置工			125
	4 - 8 - 5 地覆工			125
	4 - 8 - 6 橋梁用防護柵工			125
	4 - 8 - 7 橋梁用高欄工			125
	4 - 8 - 8 検査路工			125
第 9 節 歩道橋本体工	4 - 9 - 3 既製杭工		第3編2-4-4 既製杭工	19
	4 - 9 - 4 場所打杭工		第3編2-4-5 場所打杭工	20
	4 - 9 - 5 橋脚フーチング工	I 型	第10編3-8-9 橋脚フーチング工	122
		T 型	第10編3-8-9 橋脚フーチング工	122
	4 - 9 - 6 歩道橋(側道橋)架設工		第3編2-13-1 架設工	81
第 5 章 コンクリート橋上部	4 - 9 - 7 現場塗装工		第3編2-3-31 現場塗装工	18
第 5 章 コンクリート橋上部				
第 3 節 工場製作工	5 - 3 - 2 プレベーム用桁製作工		第3編2-12-9 プレベーム用桁製作工	79
	5 - 3 - 3 橋梁用防護柵製作工		第3編3-12-7 橋梁用防護柵製作工	78
	5 - 3 - 4 鋼製伸縮継手製作工		第3編2-12-5 鋼製伸縮継手製作工	77
	5 - 3 - 5 検査路製作工		第3編2-12-4 検査路製作工	77
	5 - 3 - 6 工場塗装工		第3編2-12-11 工場塗装工	80
	5 - 3 - 7 鑄造費		第3編2-12-1 鑄造費	70

出来形管理基準

【第10編 道路編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 5 節 PC橋工	5 - 5 - 2 プレテンション桁製作工(購入工)	けた橋	第3編2-3-12 プレテンション桁製作工(購入工)	11
		スクラブ橋	第3編2-3-12 プレテンション桁製作工(購入工)	11
	5 - 5 - 3 ポストテンション桁製作工		第3編2-3-13 ポストテンション桁製作工	11
	5 - 5 - 4 プレキャストセグメント製作工(購入工)		第3編2-3-13 プレキャストセグメント製作工(購入工)	12
	5 - 5 - 5 プレキャストセグメント主桁組立工		第3編2-3-14 プレキャストセグメント主桁組立工	12
	5 - 5 - 6 支承工		第10編4-5-10 支承工	124
	5 - 5 - 7 架設工(クレーン架設)		第3編2-13-1 架設工(クレーン架設)	81
	5 - 5 - 8 架設工(架設桁架設)		第3編2-13-1 架設工(架設桁架設)	81
	5 - 5 - 9 床版・横組工		第3編2-18-1 床版・横組工	89
	5 - 5 - 10 落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	125
第 6 節 プレベーム桁橋工	5 - 6 - 2 プレベーム桁製作工(現場)			126
	5 - 6 - 3 支承工		第10編4-5-10 支承工	124
	5 - 6 - 4 架設工(クレーン架設)		第3編2-13-1 架設工(クレーン架設)	81
	5 - 6 - 5 架設工(架設桁架設)		第3編2-13-1 架設工(架設桁架設)	81
	5 - 6 - 6 床版・横組工		第3編2-18-1 床版・横組工	89
	5 - 6 - 9 落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	125
第 7 節 PCホロースラブ橋工	5 - 7 - 3 支承工		第10編4-5-10 支承工	124
	5 - 7 - 4 PCホロースラブ製作工		第3編2-3-15 PCホロースラブ製作工	12
	5 - 7 - 5 落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	125
第 8 節 RCホロースラブ橋工	5 - 8 - 3 支承工		第10編4-5-10 支承工	124
	5 - 8 - 4 RC場所打ホロースラブ製作工		第3編2-3-15 PCホロースラブ製作工	12
	5 - 8 - 5 落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	125
第 9 節 PC版桁橋工	5 - 9 - 2 PC版桁製作工		第3編2-3-15 PCホロースラブ製作工	12
第 10 節 PC箱桁橋工	5 - 10 - 3 支承工		第10編4-5-10 支承工	124
	5 - 10 - 4 PC箱桁製作工		第3編2-3-16 PC箱桁製作工	13
	5 - 10 - 5 落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	125
第 11 節 PC片持箱桁橋工	5 - 11 - 2 PC片持箱桁製作工		第3編2-3-16 PC箱桁製作工	13
	5 - 11 - 3 支承工		第10編4-5-10 支承工	124
	5 - 11 - 4 架設工(片持架設)		第3編2-13-1 架設工(コンクリート橋)	81
第 12 節 PC押し出し箱桁橋工	5 - 12 - 2 PC押し出し箱桁製作工		第3編2-3-16 PC押し出し箱桁製作工	13
	5 - 12 - 3 架設工(押し出し架設)		第3編2-13-1 架設工(コンクリート橋)	81
第 13 節 橋梁付属物工	5 - 13 - 2 伸縮装置工		第3編2-3-24 伸縮装置工	14
	5 - 13 - 4 地覆工		第10編4-8-5 地覆工	125
	5 - 13 - 5 橋梁用防護柵工		第10編4-8-6 橋梁用防護柵工、橋梁用高欄工	125
	5 - 13 - 6 橋梁用高欄工		第10編4-8-7 橋梁用防護柵工、橋梁用高欄工	125
	5 - 13 - 7 検査路工		第10編4-8-8 検査路工	125
第 6 章 トンネル(NATM)				
第 4 節 支保工	6 - 4 - 3 吹付工			126
	6 - 4 - 4 ロックボルト工			126
第 5 節 覆工	6 - 5 - 3 覆工コンクリート工			127
	6 - 5 - 4 側壁コンクリート工		第10編6-5-3 覆工コンクリート工	127
	6 - 5 - 5 床版コンクリート工			127

出来形管理基準

【第10編 道 路 編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 6 節 インバート工	6 － 6 － 4 インバート本体工			128
第 7 節 坑内付帯工	6 － 7 － 5 地下排水工		第3編2-3-29 暗渠工	17
第 8 節 坑門工	6 － 8 － 4 坑門本体工			128
	6 － 8 － 5 明り巻工			129
第 11 章 共同溝				
第 3 節 工場製作工	11 － 3 － 3 工場塗装工		第3編2-12-11 工場塗装工	80
第 6 節 現場打構築工	11 － 6 － 2 現場打躯体工			130
	11 － 6 － 4 カラー継手工			130
	11 － 6 － 5 防水工	防水		130
		防水保護工		130
		防水壁		131
第 7 節 プレキャスト構築工	11 － 7 － 2 プレキャスト躯体工			131
第 12 章 電線共同溝				
第 5 節 電線共同溝工	12 － 5 － 2 管路工(管路部)			131
	12 － 5 － 3 プレキャストボックス工(特殊部)			132
	12 － 5 － 4 現場打ボックス工(特殊部)		第10編11-6-2 現場打躯体工	130
第 6 節 付帯設備工	12 － 6 － 2 ハンドホール工			132
第 13 章 情報ボックス工				
第 3 節 情報ボックス工	13 － 3 － 4 管路工(管路部)		第10編12-5-2 管路工(管路部)	131
第 4 節 付帯設備工	13 － 4 － 2 ハンドホール工		第10編12-6-2 ハンドホール工	132
第 14 章 道路維持				
第 4 節 舗装工	14 － 4 － 3 路面切削工		第3編2-6-15 路面切削工	61
	14 － 4 － 4 舗装打換え工		第3編2-6-16 舗装打換え工	61
	14 － 4 － 5 切削オーバーレイ工			133
	14 － 4 － 6 オーバーレイ工		第3編2-6-17 オーバーレイ工	61
	14 － 4 － 7 路上再生工			133
	14 － 4 － 8 薄層カラー舗装工		第3編2-6-13 薄層カラー舗装工	57
第 5 節 排水構造物工	14 － 5 － 3 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	17
	14 － 5 － 4 管渠工		第3編2-3-29 側溝工	17
	14 － 5 － 5 集水桝・マンホール工		第3編2-3-30 集水桝工	18
	14 － 5 － 6 地下排水工		第3編2-3-29 暗渠工	17
	14 － 5 － 7 場所打水路工		第3編2-3-29 場所打水路工	17
	14 － 5 － 8 排水工		第3編2-3-29 側溝工	17
第 6 節 防護柵工	14 － 6 － 3 路側防護柵工		第3編2-3-8 路側防護柵工	9
	14 － 6 － 4 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	9
	14 － 6 － 5 ボックスビーム工		第3編2-3-8 路側防護柵工	9
	14 － 6 － 6 車止めポスト工		第3編2-3-7 防止柵工	9
第 7 節 標識工	14 － 7 － 3 小型標識工		第3編2-3-6 小型標識工	8
	14 － 7 － 4 大型標識工		第10編2-9-4 大型標識工	117
第 8 節 道路付属施設工	14 － 8 － 4 道路付属物工		第3編2-3-10 道路付属物工	10
	14 － 8 － 5 ケーブル配管工		第10編2-12-5 ケーブル配管工	118
	14 － 8 － 6 照明工		第10編2-12-6 照明工	118
第 9 節 軽量盛土工	14 － 9 － 2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第 10 節 擁壁工	14 － 10 － 3 場所打擁壁工		第3編2-15-1 場所打擁壁工	86
	14 － 10 － 4 プレキャスト擁壁工		第3編2-15-2 プレキャスト擁壁工	86
第 11 節 石・ブロック積(張)工	14 － 11 － 3 コンクリートブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	22
	14 － 11 － 4 石積(張)工		第3編2-5-5 石積(張)工	23

出来形管理基準

【第10編 道 路 編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 12 節 カルバート工	14 － 12 － 4 場所打函渠工		第10編1-9-6 場所打函渠工	114
	14 － 12 － 5 プレキャストカルバート工		第3編2-3-28 プレキャストカルバート工	16
第 13 節 法面工	14 － 13 － 2 植生工		第3編2-14-2 植生工	82
	14 － 13 － 3 法面吹付工		第3編2-14-3 吹付工	84
	14 － 13 － 4 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	85
	14 － 13 － 6 アンカー工		第3編2-14-6 アンカー工	85
	14 － 13 － 7 かご工	じゃかご ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工 第3編2-3-27 羽口工	16 16
第 15 節 橋梁付属物工	14 － 15 － 2 伸縮継手工		第3編2-3-24 伸縮装置工	14
	14 － 15 － 4 地覆工		第10編4-8-5 地覆工	125
	14 － 15 － 5 橋梁用防護柵工		第10編4-8-6 橋梁用防護柵工、 橋梁用高欄工	125
	14 － 15 － 6 橋梁用高欄工		第10編4-8-7 橋梁用防護柵工、 橋梁用高欄工	125
	14 － 15 － 7 検査路工		第10編4-8-8 検査路工	125
第 17 節 現場塗装工	14 － 17 － 6 コンクリート面塗装工		第3編2-3-11 コンクリート面塗装工	10
第 16 章 道路修繕				
第 3 節 工場製作工	16 － 3 － 4 桁補強材製作工			134
	16 － 3 － 5 落橋防止装置製作工		第3編2-12-6 落橋防止装置製作工	78
第 5 節 舗装工	16 － 5 － 3 路面切削工		第3編2-6-15 路面切削工	61
	16 － 5 － 4 舗装打換え工		第3編2-6-16 舗装打換え工	61
	16 － 5 － 5 切削オーバーレイ工		第10編14-4-5 切削オーバーレイ工	133
	16 － 5 － 6 オーバーレイ工		第3編2-6-17 オーバーレイ工	61
	16 － 5 － 7 路上再生工		第10編14-4-7 路上再生工	133
	16 － 5 － 8 薄層カラー舗装工		第3編2-6-13 薄層カラー舗装工	57
第 6 節 排水構造物工	16 － 6 － 3 側溝工		第3編2-3-29 側溝工	17
	16 － 6 － 4 管渠工		第3編2-3-29 側溝工	17
	16 － 6 － 5 集水枠・マンホール工		第3編2-3-30 集水枠工	18
	16 － 6 － 6 地下排水工		第3編2-3-29 暗渠工	17
	16 － 6 － 7 場所打水路工		第3編2-3-29 場所打水路工	17
	16 － 6 － 8 排水工		第3編2-3-29 側溝工	17
第 7 節 縁石工	16 － 7 － 3 縁石工		第3編2-3-5 縁石工	8
第 8 節 防護柵工	16 － 8 － 3 路側防護柵工		第3編2-3-8 路側防護柵工	9
	16 － 8 － 4 防止柵工		第3編2-3-7 防止柵工	9
	16 － 8 － 5 ボックスビーム工		第3編2-3-8 路側防護柵工	9
	16 － 8 － 6 車止めポスト工		第3編2-3-7 防止柵工	9
第 9 節 標識工	16 － 9 － 3 小型標識工		第3編2-3-6 小型標識工	8
	16 － 9 － 4 大型標識工		第10編2-9-4 大型標識工	117
第 10 節 区画線工	16 － 10 － 2 区画線工		第3編2-3-9 区画線工	10
第 12 節 道路付属施設工	16 － 12 － 4 道路付属物工		第3編2-3-10 道路付属物工	10
	16 － 12 － 5 ケーブル配管工		第10編2-12-5 ケーブル配管工	118
	16 － 12 － 6 照明工		第10編2-12-6 照明工	118
第 13 節 軽量盛土工	16 － 13 － 2 軽量盛土工		第1編2-4-3 路体盛土工	6
第 14 節 擁壁工	16 － 14 － 3 場所打擁壁工		第3編2-15-1 場所打擁壁工	86
	16 － 14 － 4 プレキャスト擁壁工		第3編2-15-2 プレキャスト擁壁工	86
第 15 節 石・ブロック積(張)工	16 － 15 － 3 コンクリートブロック工		第3編2-5-3 コンクリートブロック工	22
	16 － 15 － 4 石積(張)工		第3編2-5-5 石積(張)工	23
第 16 節 カルバート工	16 － 16 － 4 場所打函渠工		第10編1-9-6 場所打函渠工	114
	16 － 16 － 5 プレキャストカルバート工		第3編2-3-28 プレキャストカルバート工	16

出来形管理基準

【第10編 道路編】

章・節	条・工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第 17 節 法面工	16 － 17 － 2 植生工		第3編2-14-2 植生工	82
	16 － 17 － 3 法面吹付工		第3編2-14-3 吹付工	84
	16 － 17 － 4 法枠工		第3編2-14-4 法枠工	85
	16 － 17 － 6 アンカー工		第3編2-14-6 アンカー工	85
	16 － 17 － 7 かご工	じゃかご	第3編2-3-27 羽口工	16
		ふとんかご	第3編2-3-27 羽口工	16
第 18 節 落石雪害防止工	16 － 18 － 4 落石防止網工		第10編1-11-4 落石防止網工	114
	16 － 18 － 5 落石防護柵工		第10編1-11-5 落石防護柵工	114
	16 － 18 － 6 防雪柵工		第10編1-11-6 防雪柵工	115
	16 － 18 － 7 雪崩予防柵工		第10編1-11-7 雪崩予防柵工	115
第 20 節 鋼桁工	16 － 20 － 3 鋼桁補強工		第10編16-3-4 桁補強材製作工	134
第 21 節 橋梁支承工	16 － 21 － 3 鋼橋支承工		第10編4-5-10 支承工	124
	16 － 21 － 4 PC橋支承工		第10編4-5-10 支承工	124
第 22 節 橋梁付属物工	16 － 22 － 3 伸縮継手工		第3編2-3-24 伸縮装置工	14
	16 － 22 － 4 落橋防止装置工		第10編4-8-3 落橋防止装置工	125
	16 － 22 － 6 地覆工		第10編4-8-5 地覆工	125
	16 － 22 － 7 橋梁用防護柵工		第10編4-8-6 橋梁用防護柵工、 橋梁用高欄工	125
	16 － 22 － 8 橋梁用高欄工		第10編4-8-7 橋梁用防護柵工、 橋梁用高欄工	125
	16 － 22 － 9 検査路工		第10編4-8-8 検査路工	125
第 25 節 現場塗装工	16 － 25 － 3 橋梁塗装工		第3編2-3-31 現場塗装工	18
	16 － 25 － 6 コンクリート面塗装工		第3編2-3-11 コンクリート面塗装工	10

出来形管理基準及び規格値

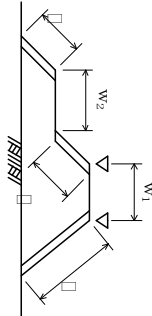
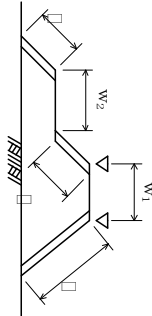
単位：mm

維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。

編 号	章 節	条 文	枝 番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	2	掘削工	1 掘削工	測 定 項 目	±50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につ き 1ヶ所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1施工箇所につき 2ヶ所。 基準高は掘削部の両端で測定。 ただし、「T S等光波方式を用いた出来形管理要領 （土工編）（案）」または「R T K-G N S Sを用い た出来形管理要領（土工編）（案）」の規定により 測点による管理を行う場合は、設計図書 の測点 毎。基準高は掘削部の両端で測定。		
							—200			
							法長－4 %			
							法 長 0			
			2	掘削工 (面管理の場合)		測 定 項 目	平均値	1. 3次元データによる出来形管理において「地上 型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 （土工編）（案）」、「空中写真測量（無人航空 機）を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、 「無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた 出来形管理要領（土工編）（案）」、「T S等光波 方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、 「T S（ソングリズム方式）を用いた出来形管理 要領（土工編）（案）」、「R T K-G N S Sを用い た出来形管理要領（土工編）（案）」、または「地 上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来 形管理要領（土工編）（案）」に基づき出来形管理 を面管理で実施する場合、その他本基準に規定す る計測精度・計測密度を満たす計測方法により出 来形管理を実施する場合に適用する。		
							個々の 計測値			
							±50			
							±150			
						測 定 項 目	平面	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として ±50mmが含まれている。		
							標高較差			
							±70			
							±160			
						測 定 項 目	法面（小 段含む）	3. 計測は平場面と法面（小段を含む）の全面と し、全ての点で設計面との標高較差または水平較 差を算出する。計測密度は 1 点／m2（平面投影面 積当たり）以上とする。		
							水平または 標高較差			
							±70			
							±160			
						測 定 項 目	法面（小 段含む）	4. 法肩、法尻から水平方向に±5 cm以内に存在 する計測点は、標高較差の評価から除く。同様 に、標高方向に±5 cm以内にある計測点は水平較 差の評価から除く。		
							水平または 標高較差			
							±70			
							±160			
						測 定 項 目	法面（小 段含む）	5. 評価する範囲は、連続する一つの面とするこ とを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区 間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳 しい値を採用する。		
							水平または 標高較差			
							±70			
							±160			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編		章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要						
1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	2	3	掘削工 (水中部) (面管理の場合)						1．3次元データによる出来形管理において「施工履歴データを用いた出来形管理要領（河川浚渫工事編）（案）」に基づき出来形管理を面管理で実施する場合、そのほか本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。								
														平均値	個々の計測値				
																平場	標高較差	±50	±300
																法面(小段含む)	水平または標高較差	±70	±300
1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	3	1	盛土工						施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき1ヶ所、延長 40m（又は 50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は各法肩で測定。 ただし、「T S等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」または「R T K - G N S Sを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」の規定により測点による管理を行う場合は、設計図書の測点毎。基準高は各法肩で測定。								
														基準 高 ▽	—50				
															法 長 ℓ	ℓ < 5 m	—100		
																ℓ ≥ 5 m	法長－2 %		
																幅 w ₁ , w ₂		—100	

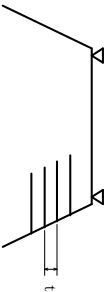
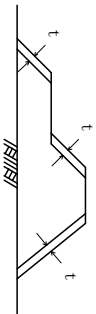
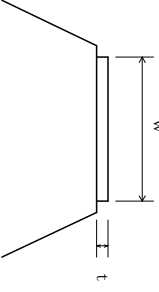
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測 定 項 目		規 格	値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共通編	2 土工	3 河川・海岸・砂防土工	1 共通編	2	盛土工 (面管理の場合)				平均値	個々の計測値	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「TS等光波方式を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「TS(ソナリズム方式)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」または「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」に基づき出来形管理を面管理で実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±50mmが含まれている。 3. 計測は天端面と法面(小段を含む)の全面とし、全ての点で設計面との標高較差を算出する。計測密度は1点/m ² (平面投影面積当たり)以上とする。 4. 法肩、法尻から水平方向に±5cm以内に存在する計測点は、標高較差の評価から除く。 5. 評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。		
						天端	標高較差		-50	-150			
						法面 4割< 勾配	標高較差		-50	-170			
						法面 4割≥ 勾配 (小段含む)	標高較差		-60	-170			
						※ただし、ここでの勾配は、鉛直方向の長さ1に対する、水平方向の長さXをX割と表したものの							

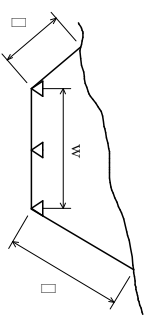
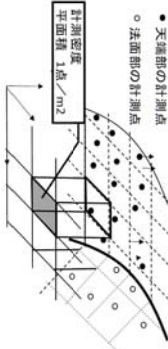
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	4		盛土補強工 (テールアル メ) 壁工法) (多数アンカー式補強 土工法) (ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)	基 準 高 ▽	－50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) に つき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		
						厚 さ t	－50			
						控 え 長 さ	設計値以上			
1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	5		法面整形工 (盛土部)	厚 さ t	※－30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) に つき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。		
1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	6		堤防天端工	厚 さ t	－25	幅は、施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) に つき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。 厚さは、施工延長 200mにつき 1ヶ所、200m以下 は 2ヶ所、中央で測定。		
						t < 15cm				
						t ≥ 15cm	－50			
						幅 w	－100			

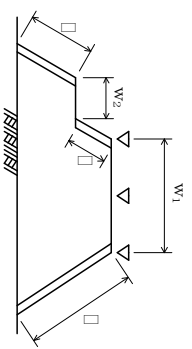
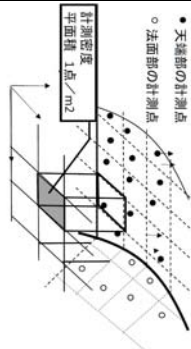
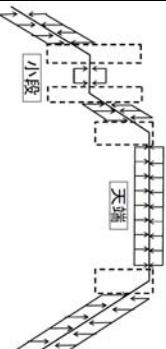
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
1 共通編	2 土工	4 道路土工	2	1	掘削工		基準	高	▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 ただし、「T S等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」または「R T K-G N S Sを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」の規定により測点による管理を行う場合は、設計図書の測点毎。基準高は、道路中心線及び端部で測定。		
							法長	ℓ	ℓ < 5 m	—200			
								ℓ ≥ 5 m	法長－4 %				
							幅	w	—100				
1 共通編	2 土工	4 道路土工	2	2	掘削工(面管理の場合)		平均値	個々の計測値	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「T S等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「T S（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」または「R T K-G N S Sを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」に基づき出来形管理を面管理で実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±50mmが含まれている。 3. 計測は平場面と法面（小段を含む）の全面とし、全ての点で設計面との標高較差または水平較差を算出する。計測密度は1点／㎡（平面投影面積当たり）以上とする。 4. 法肩、法尻から水平方向に±5 cm以内に存在する計測点は、標高較差の評価から除く。同様に、標高方向に±5 cm以内にある計測点は水平較差の評価から除く。 5. 評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。				
							平場	標高較差	±50			±150	
							法面(小段含む)	水平または標高較差	±70			±160	
							法面(軟岩Ⅰ)（小段含む）	水平または標高較差	±70			±330	

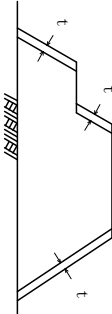
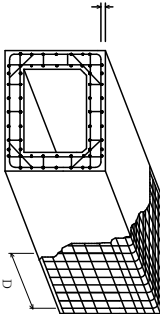
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章 節	条 款	枝 番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共通編	2 土工 4 道路土工	3 4	1 1	路体盛土工 路床盛土工	<div><div>基準高▽</div><div><div>法長\varnothing</div><div>$\varnothing < 5\text{ m}$</div><div>$\varnothing \geq 5\text{ m}$</div><div>幅$w_1, w_2$</div></div></div>	±50	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 ただし、「T S等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」または「R T K-G N S Sを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」の規定により測点による管理を行う場合は、設計図書の測点毎。基準高は、道路中心線及び端部で測定。		
						±50			
						—100			
						法長—2 %			
						—100			
			2 2	路体盛土工 路床盛土工 (面管理の場合)	<div><div>平均値</div><div>個々の計測値</div></div>	±50	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「T S等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「T S（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」または「R T K-G N S Sを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」に基づき出来形管理を面管理で実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。		
						±50			
						±80			
						±150			
						±190			
							2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±50mmが含まれている。		
							3. 計測は天端面と法面（小段を含む）の全面とし、全ての点で設計面との標高較差を算出する。計測密度は1点／m ² （平面投影面積当たり）以上とする。		
							4. 法肩、法尻から水平方向に±5 cm以内に存在する計測点は、標高較差の評価から除く。		
							5. 評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。		

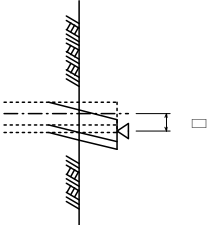
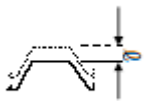
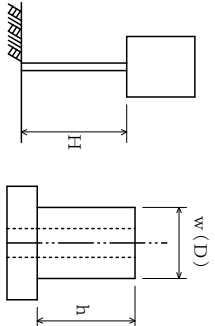
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共 通 編	2 土 工	4 道 路 土 工	5		法面整形工 (盛土部)	厚 さ t	※-30	施工延長 40mにつき 1ヶ所、延長 40m以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。		
1 共 通 編	3 無 筋 、 鉄 筋 コ ン ク リ ー ト	7 鉄 筋 工	4		組立て	平 均 間 隔 d	± φ	$d = \frac{D}{n-1}$ D：n 本間の延長 n：10 本程度とする φ：鉄筋径 工事の規模に応じて、1 リフト、1 ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。最小かぶり は、コンクリート標準示方書（設計編：標準 7 編 2 章 2.1）参照。ただし、道路橋示方書の適用を 受ける橋については、道路橋示方書（Ⅲ コンク リート橋・コンクリート部材編 5.2）による。 注 1）重要構造物かつ主鉄筋について適用する 注 2）橋梁コンクリート床版桁（P C 橋含む）の 鉄筋については、第 3 編 3-2-18-2 床版工を 適用する。 注 3）新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部 工および重要構造物である内空断面積 25 ㎡以上のボックスカルバート（工場製作の プレキャスト製品は全ての工種において対 象外）の鉄筋の配筋状況及びかぶりについて は、「非破壊試験によるコンクリート構造 物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併 せて適用する。		
						か ぶ り t	± φ かつ 最小かぶり 以上			

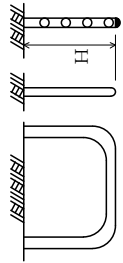
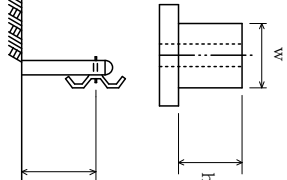
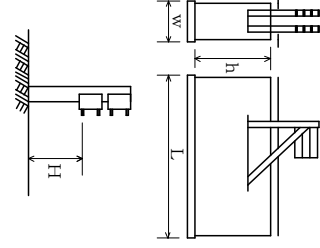
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	3	4		矢板工 (指定仮設・任意仮設は除く) (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基 準 高 ∇	±50	基準高は施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1施工箇所につき 2ヶ所。 変位は、施工延長 20m (測点間隔 25mの場合は 25m) につき 1ヶ所、延長 20m (又は 25m) 以下のものは 1施工箇所につき 2ヶ所。		
						根 入 長	設計値以上			
						変 位 θ	100			
3	2	3	5		縁石工 (縁石・アスカーク)	延 長 L	－200	1ヶ所／1施工箇所 ただし、「TTS等光波方式を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」の規定により管理を行う場合は、延長の変化点で測定。		
3	2	3	6		小型標識工	設 置 高 さ H	設計値以上	1ヶ所／1基 基礎 1 基毎		
						幅 w (D)	－30			
						高 さ h	－30			
						基 礎 根 入 長	設計値以上			

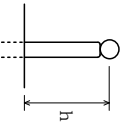
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	7		防止柵工 (立入防止柵) (転落 (横断) 防止柵) (車止めポスト)	基礎		単独基礎 10 基につき 1 基、10 基以下のものは 2 基測定。測定箇所は 1 基につき 1 ケ所測定。 1 ケ所 / 1 施工箇所			
						幅	w				-30
						高さ h	h				-30
						パイプ取付高 H	H				+30 -20
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎		1 ケ所 / 施工延長 40m 40m 以下のものは、2 ケ所 / 1 施工箇所。 1 ケ所 / 1 施工箇所			
						幅	w				-30
						高さ h	h				-30
						ピーム取付高 H	H				+30 -20
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	8	2	路側防護柵工 (ガードケーゾール)	基礎		1 ケ所 / 1 基礎毎 1 ケ所 / 1 施工箇所			
						幅	w				-30
						高さ h	h				-30
						延長 L	L				-100
						ケーゾール取付高 H	+30 -20				


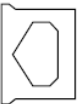
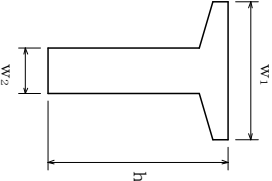
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	9		区画線工	厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上	各線種毎に、1ヶ所ラストピースにより測定。		
						幅 w	設計値以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	10		道路付属物工 (視線防護標) (距離標)	高 さ h	±30	1ヶ所/10本 10本以下の場合、2ヶ所測定。		
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	11		コンクリート面塗装工	塗 料 使 用 量	鋼道路橋防食便覧Ⅱ-82「表ーⅡ.5.5 各塗料(充填数)と、塗布作業終了時に使用量(空充填数)をの標準使用量と確認し、各々必要量以上であることを確認する。標準膜厚」の標準使用量以上。	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗布作業の開始前に搬入量(充填数)と、塗布作業終了時に使用量(空充填数)をの標準使用量と確認し、各々必要量以上であることを確認する。1ロットの大きさは、500m ² とする。		

出来形管理基準及び規格値

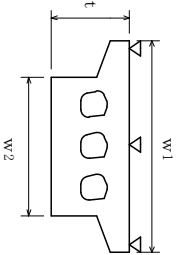
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	3	12	1	プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁長 L (m)	$\pm L/1000$	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS ワーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。		
						断面の外形寸法	± 5			
						橋 桁 の そ り δ_1	± 8			
						横方向の曲がり δ_2	± 10			
3	2	3	12	2	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブリ桁)	桁長 L (m)	$\pm 10 \cdots$ $L \leq 10m$ $\pm L/1000 \cdots$ $L > 10m$	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS ワーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。		
						断面の外形寸法	± 5			
						橋 桁 の そ り δ_1	± 8			
						横方向の曲がり δ_2	± 10			
3	2	3	13	1	ポストテンション桁 製作工	幅 (上) w_1	$+10$ -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレンシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ所とする。 なお、JIS ワーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。 \varnothing ：支間長 (m)		
						幅 (下) w_2	± 5			
						高 さ h	$+10$ -5			
						桁 長 \varnothing 支 間 長	$\varnothing < 15 \cdots \pm 10$ $\varnothing \geq 15 \cdots \pm$ $(\varnothing - 5)$ かつ $-30mm$ 以内			
						横方向最大タワミ	0.80			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

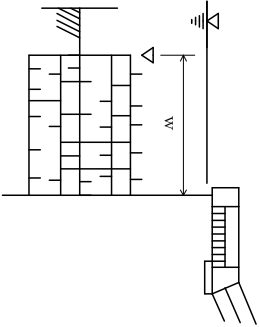
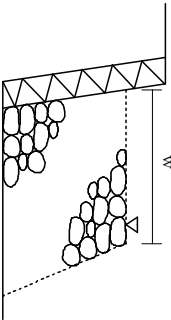
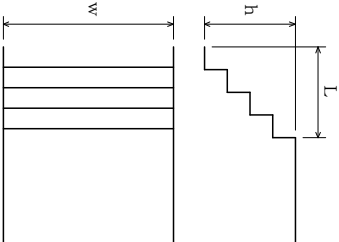
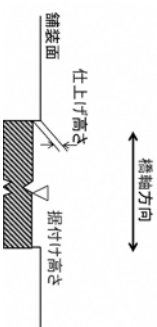
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	3	13	2	プレキャストセグメント 製作工 (購入工)	桁 長 ℓ	—	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		
						断面の外形寸法 (mm)	—			
3	2	3	14		プレキャストセグメント 主桁組立工	桁 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm$ $(\ell - 5)$ かつ	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレンシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ所とする。 ℓ ：支間長 (m)		
						支 間 長	-30mm 以内			
						横方向最大タワミ	0.80			
3	2	3	15		P Cホロースラブ製作工	基 準 高	± 20	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2ヶ所 (支点付近) で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編 3-2-18-2床版工に準ずる。		
						幅 w_1, w_2	$-5 \sim +30$			
						厚 さ t	$-10 \sim +20$			
3	2	3				桁 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm$ $(\ell - 5)$ かつ	ℓ ：桁長 (m)		
							-30mm 以内			



注) 新設のコンクリート構造物 (橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート (工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外)) の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する

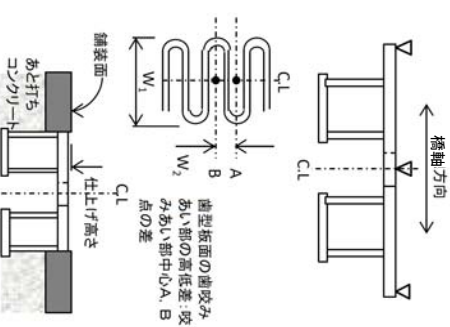
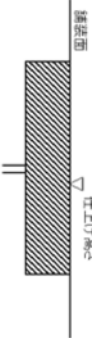
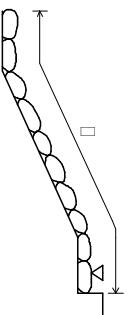
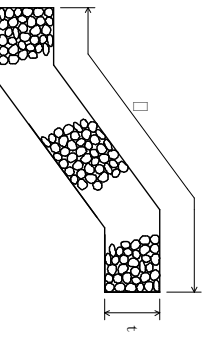
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	18		沈床工	基準高 ∇	±150	1組毎		
						幅 w	±300			
						延長 L	－200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	19		捨石工	基準高 ∇	－100	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		
						幅 w	－100			
						延長 L	－200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	22		階段工	幅 w	－30	1回／1施工箇所		
						高さ h	－30			
						長さ L	－30			
						段数	±0段			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	24	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据付け高さ	±3	高さについては車道端部及び中央部の3点 表面の凹凸は長手方向（横軸直角方向）に 3m の直線定規で図って凹凸が 3mm 以下		
						表面の凹凸	3			
						仕上げ高さ	舗装面に対し 0～－2			

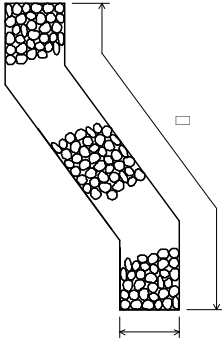
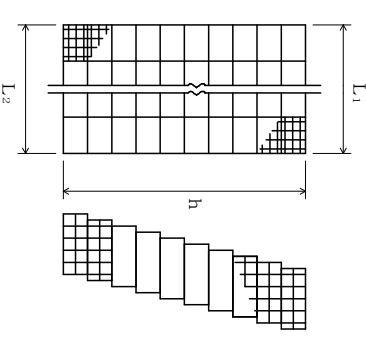
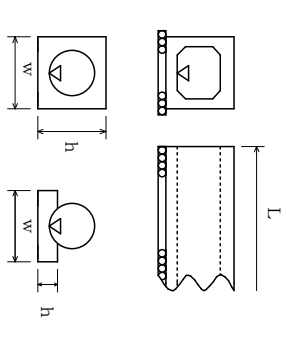
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						据 付 け 高 さ	橋軸方向各点誤差の相対差				
3	2	3	24	2	伸縮装置工 (鋼製フイソガーージョイント)	高 さ		± 3	高さについては車道端部、中央部において橋軸方向に各 3 点計 9 点 表面の凹凸は長手方向（橋軸直角方向）に 3m の直線定規で測って凹凸が 3mm 以下 歯咬み合い部は、中央部の計 3 点		【補修工事の場合】 仕上げ高さ 舗装面に対し 0 ～ -3mm を標準（これにより難い場合には、監督職員と協議）
						表面の凹凸		2			
						歯咬み合い部の縦方向間隔W1		± 2			
						歯咬み合い部の横方向間隔W2		± 5			
						仕 上 げ 高 さ		舗装面に対し 0 ～ - 2			
3	2	3	24	3	伸縮装置工 (埋設型ジョイント)	表 面 の 凹 凸		3	高さについては車道端部及び中央部の 3 点 表面の凹凸は長手方向（橋軸直角方向）に 3m の直線定規で測って凹凸が 3mm 以下		
						仕 上 げ 高 さ		舗装面に対し 0 ～ + 3			
3	2	3	26	1	(多自然型護岸工) 巨石張り、巨石積み	基 準 高 ▽		±500	施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 ヶ所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所		
						法 長 ℓ		-200			
						延 長 L		-200			
3	2	3	26	2	(多自然型護岸工) かごマット	法 長 ℓ		-100	施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 ヶ所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所		
						厚 さ t		-0.2 t			
						延 長 L		-200			

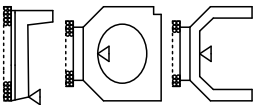
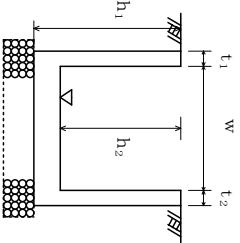
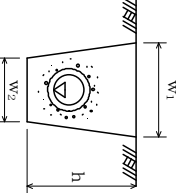
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	3	27	1	(羽口工) じやかゞ	法 長 ϕ	—50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所		
						$\phi < 3\text{ m}$	—100			
						$\phi \geq 3\text{ m}$	—50			
						厚 さ t	—50			
3	2	3	27	2	(羽口工) ふとんかゞ、かゞ枠	高 さ h	—100	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		
						延 長 L_1 , L_2	—200			
3	2	3	28		プレキヤストカルバート工 (プレキヤストボックス工) (プレキヤストパイプ工)	基 準 高 ∇	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。 ※印は、現場打部分のある場合。		
						※幅 w	—50			
						※高 さ h	—30			
						延 長 L	—200			
								1 施工箇所毎		

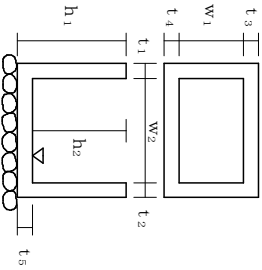
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	3	29	1	側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基 準 高 ∇	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所 「T S等光波方式を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる		
						延 長 L	－200			
3	2	3	29	2	側溝工 (現場打水路工)	基 準 高 ∇	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						厚 さ t_1 , t_2	－20			
						幅 w	－30			
						高 さ h_1 , h_2	－30			
						延 長 L	－200			
3	2	3	29	3	側溝工 (暗渠工)	基 準 高 ∇	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所 延長40m (又は50m) 以下のものは1施工につき2ヶ所 (なお、製品使用の場合は、製品寸法は、規格証明書等による。) 「T S等光波方式を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる		
						幅 w_1 , w_2	－50			
						深 さ h	－30			
						延 長 L	－200			

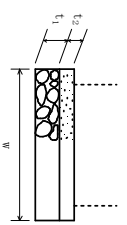
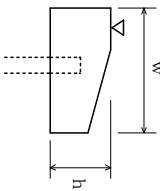
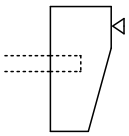
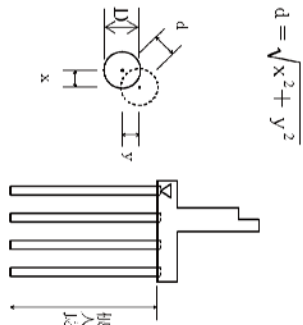
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	30		集水排水工	基準高▽	±30	1ヶ所毎 ※は、現場打部分のある場合		
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	－20			
						※幅 w_1, w_2	－30			
						※高さ h_1, h_2	－30			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	31		現場塗装工	塗 膜 厚		塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは500㎡とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1ロットの面積が200㎡に満たない場合は10㎡ごとに1点とする。 a．ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b．測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c．測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%以下。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。		※塗膜厚の管理は、測定時の塗膜全厚に對して行う

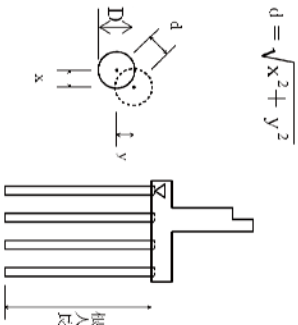
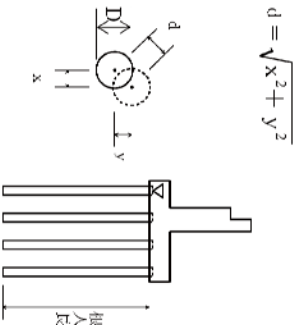
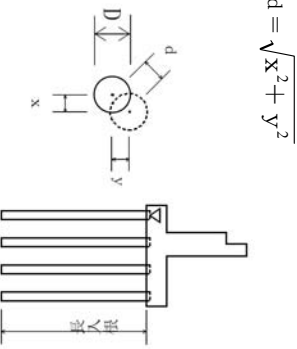
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	4	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		
						厚さ t ₁ , t ₂	－30			
						延長 L	各構造物の規格値による			
3	2	4	3	1	基礎工 (護岸) (現場打)	基準 高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所 「TS等光波方式を用いた出来形管理要領 (護岸工編) (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる		
						幅 w	－30			
						高 さ h	－30			
						延長 L	－200			
3	2	4	3	2	基礎工 (護岸) (プレキャスト)	基準 高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所 「TS等光波方式を用いた出来形管理要領 (護岸工編) (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる		
						延長 L	－200			
3	2	4	4	1	既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。		
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量 d	D/4 以内かつ 100 以内			
						傾 斜	1/100 以内			

出来形管理基準及び規格値

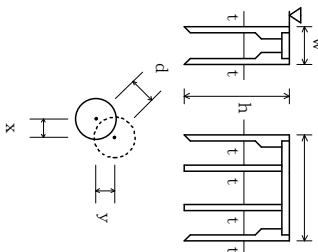
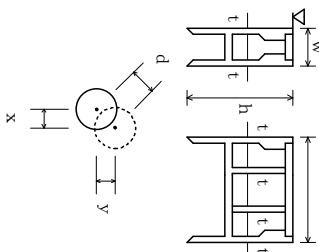
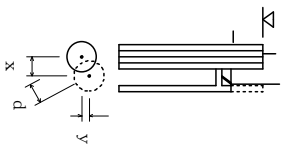
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	4	2	既製杭工 (鋼管ソイルセメント杭)	基 準 高 ∇	±50	全数について杭中心で測定。		
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量 d	100 以内			
						傾 斜	1/100 以内			
						杭 径 D	設計値以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	5		場所打杭工	基 準 高 ∇	±50	全数について杭中心で測定。		
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量 d	100 以内			
						傾 斜	1/100 以内			
						杭 径 D	{ 設計径 (公称径) -30 } 以上			
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	6		深礎工	基 準 高 ∇	±50	全数について杭中心で測定。		
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量 d	150 以内			
						傾 斜	1/50 以内			
						基 礎 径 D	設計径 (公称径) 以上※			

※ラナ-ラ-レベルの場合はその内径、補強リガを必要とする場合は補強リガの内径とし、モルタルイングの場合はモルタル等の土留め構造の内径にて測定。

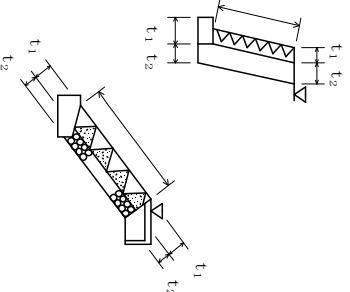
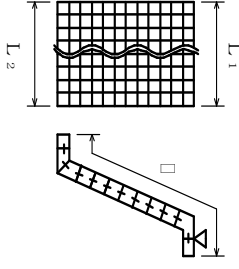
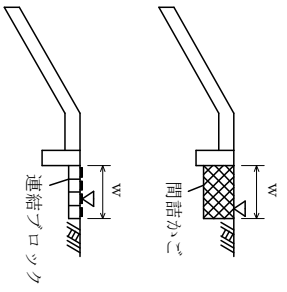
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	4	7		オープンケーソン基礎工	基 準 高 ∇	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						ケーソンの長さ l	－50			
						ケーソンの幅 w	－50			
						ケーソンの高さ h	－100			
						ケーソンの壁厚 t	－20			
						偏 心 量 d	300 以内			
3	2	4	8		ニューマチックケーソン基礎工	基 準 高 ∇	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						ケーソンの長さ l	－50			
						ケーソンの幅 w	－50			
						ケーソンの高さ h	－100			
						ケーソンの壁厚 t	－20			
						偏 心 量 d	300 以内			
3	2	4	9		鋼管矢板基礎工	基 準 高 ∇	±100	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量 d	300 以内			

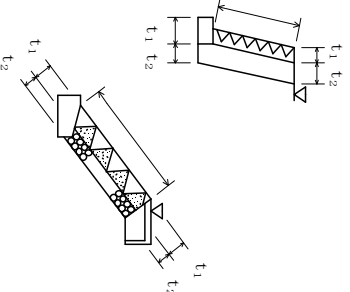
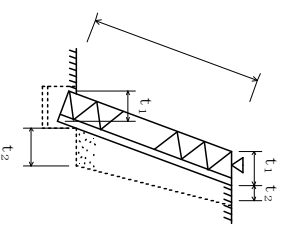
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	5	石・ブロッック積（張）工	3	1	コンクリートブロッコ工 (コンクリートブロッコ積) (コンクリートブロッコ張り)	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端部の 2ヶ所を測定 「T S 等光波方式を用いた出来形管理要領 (護岸工編) (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる		
							基準 高 ∇			
							$\varnothing < 3\text{ m}$			
							$\varnothing \geq 3\text{ m}$			
							長さ \varnothing			
							厚さ (ブロッコ積張) t_1			
3	2	5	石・ブロッコ積（張）工	3	2	コンクリートブロッコ工 (連節ブロッコ張り)	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所 「T S 等光波方式を用いた出来形管理要領 (護岸工編) (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる		
							基準 高 ∇			
							法 長 \varnothing			
							延長 L_1, L_2			
3	2	5	石・ブロッコ積（張）工	3	3	コンクリートブロッコ工 (天端保護ブロッコ)	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所 「T S 等光波方式を用いた出来形管理要領 (護岸工編) (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる		
							基準 高 ∇			
							幅 w			
							延長 L			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	5	4		緑化ゾロツク工	基 準 高 ∇	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の 2ヶ所を測定 「T S 等光波方式を用いた出来形管理要領 (護岸工編) (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる		
						法 長 $\varnothing < 3\text{ m}$	-50			
						$\varnothing \geq 3\text{ m}$	-100			
						厚さ (ゾロツク) t_1	-50			
						厚さ (裏込) t_2	-50			
3	2	5	5		石積 (張) 工	延 長 L	-200	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の 2ヶ所を測定 「T S 等光波方式を用いた出来形管理要領 (護岸工編) (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる		
						基 準 高 ∇	±50			
						法 長 $\varnothing < 3\text{ m}$	-50			
						$\varnothing \geq 3\text{ m}$	-100			
						厚さ (石積・張) t_1	-50			
3	2	5	5		石・ゾロツク積 (張) 工	厚さ (裏込) t_2	-50			
						延 長 L	-200			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平均			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	1 アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	—	基準高は延長 40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線 200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割に測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。	
					厚 さ	—45	—15			
					幅	—50	—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	2 アスファルト舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高▽	±40		1．3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「TS（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2．個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3．計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/㎡（平面投影面積当たり）以上とする。 4．厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5．厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。		
					厚さあるいは は標高較差	±90	+40 —15			
					幅	—50	—			

出来形管理基準及び規格値								単位：mm		
編 章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	3 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-8	幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは各車線 200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X _n が X ₁₀ を満足すること。	
					幅	-50	—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	4 アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは 厚さ較差	-55	-8	1．3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「TTS（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2．個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3．計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/m ² （平面投影面積当たり）以上とする。 4．厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5．厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。		

- 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。
- 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/m²（平面投影面積当たり）以上とする。
- 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。
- 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。

出来形管理基準及び規格値								単位：mm		
編 章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	5 アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-8	幅は、延長 80 m 毎に 1 ヶ所の割とし、厚さは、1,000 m ² に 1 個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ が X ₁₀ を満足すること。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、水糸又はレベルによる施工前と施工後の下がり測定するなど、他の方法によることができる。
					幅	-50	—			
					厚さあるいは 標高較差	-55	-8			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	6 アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	-55	-8	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式)」を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/m ² (平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。		

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
			個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	7 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	幅	幅は、延長 80 m 毎に 1 ヶ所の割とし、厚さは、1, 000 m ² に 1 個の割でコアを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80 m 以下の間隔で測定することができる。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚 さ		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、水糸又はレベルによる施工前と施工後の下がり測定するなど、他の方法によることが出来る。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	8 アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	幅	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	施工面種が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。
					厚さあるいは は標高較差		

出来形管理基準及び規格値

單位: mm

編 号	章 節	条 文	枝 番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀) *面管理の場合には測定値の平均			
土木工事共通編	一般施工	一般舗装工	7	アスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-3	幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1,000 mmに1個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。	
					幅	-25	—			
					厚さあるいは は標高較差	-20	-3			
土木工事共通編	一般施工	一般舗装工	7	アスファルト舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さあるいは は標高較差	-20	-3	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「TS (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m ² (平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。		

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
			個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	11 アスファルト舗装工 (表層工)	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは1,000mmに1個の割でコーアを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく10個のデータが得られない場合は、その平均値X _n がX10を満足すること。	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	12 アスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	コーア採取について 橋面舗装等でコーア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、水糸又はレベルによる施工前と施工後の下がり測定するなど、他の方法によることが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	12 アスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「TS (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	12 アスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	12 アスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/㎡ (平面投影面積当たり) 以上とする。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	12 アスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	12 アスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	10 個の測定値の平均 (X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	1 半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	—	基準高は延長 40m 毎に 1 ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線 200 m 毎に 1 ヶ所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m 毎に 1 ヶ所の割に測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80 m 以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X _n が X ₁₀ を満足すること。	
					厚 さ	－45	－15			
					幅	－50	—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	2 半たわみ性舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高▽	±40	—	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/m ² （平面投影面積当たり）以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。		
					厚さあるいは 標高較差	±90	+40 －15			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章 節	条 文	枝 番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定 値 (X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平 均			
3	2	一般 舗装工	8	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	—25	—8	幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。	
					幅	—50	—			
3	2	一般 舗装工	8	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	—55	—8	1． 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2． 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3． 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/㎡（平面投影面積当たり）以上とする。 4． 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5． 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。		

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章 節	条 文	枝 番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均			
3	2	6	8	5	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	厚 さ	— 25	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコープーを採取もしくは掘り起こして測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X _n が X ₁₀ を満足すること。 コープー採取について 橋面舗装等でコープー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、水糸又はレベルによる施工前と施工後の下がり測定するなど、他の方法によることが出来る。	
						幅	— 50			
							— 8			
3	2	6	8	6	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	厚さあるいは は標高較差	— 55	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として ± 10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/m ² (平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。		
							— 8			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章 節	条 文	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
					個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均			
3	2	6	8	7 半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	— 5	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、1000㎡に 1 個の割でコーアを採取して測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X _n が X ₁₀ を満足すること。	
					— 15	—			
					— 50	—			
3	2	6	8	8 半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)			1． 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	コーア採取について 橋面舗装等でコーア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、水糸又はパイプによる施工前と施工後の下がり測定するなど、他の方法によることが出来る。	
					厚さあるいは は標高較差	— 37			
					— 5	—			
3	2	6	8	8 半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)			2． 個々の計測値の規格値には計測精度として± 10mm が含まれている。		
					— 37	—			
					— 5	—			
3	2	6	8	8 半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)			3． 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/㎡（平面投影面積当たり）以上とする。		
					— 37	—			
					— 5	—			
3	2	6	8	8 半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)			4． 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。		
					— 37	—			
					— 5	—			
3	2	6	8	8 半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)			5． 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。		
					— 37	—			
					— 5	—			

出来形管理基準及び規格値

单位: mm

編 章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定 値 (X)	10 個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平 均			
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	8	9 半たわみ性舗装工 (基層工)	厚 さ	－ 9	－ 3	幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1000 mに1個の割でコーナーを採取して測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 Xn がX10 を満足すること。 コーナー採取について 橋面舗装等でコーナー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、水糸又はレベルによる施工前と施工後の下がりを測定するなど、他の方法によることが出来る。	
					幅	－25	—			
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	8	10 半たわみ性舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さあるいは 高差	－20	－ 3	1．3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2．個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。 3．計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2（平面投影面積当たり）以上とする。 4．厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5．厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求める高さとの差とする。		

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要					
			個々の測定値 (X)	10 個の測定値の平均 (X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均								
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	11	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚 さ	－ 7	－ 2	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、1000 m ² 毎に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X _n が X ₁₀ を満足すること。		
						幅	－ 25	—				
						平 坦 性	—	(σ) 1.75mm 以下				3m ² 以上 2.4mm 以下 直読式 (足付き)
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	12	半たわみ性舗装工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	－ 17	－ 2	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。		
						平 坦 性	—	(σ) 1.75mm 以下				3m ² 以上 2.4mm 以下 直読式 (足付き)

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝 番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
			個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均			
3	2	6	9	1	排水性舗装工 (下層路盤工)		
3	2	6	9	2	排水性舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)		
3	2	6	9	2	排水性舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)		
3	2	6	9	2	排水性舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)		

出来形管理基準及び規格値

单位: mm

編 号	章 節	条 文	枝 番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定 値 (X)	10 個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平 均				
3 土木工事共通編	2 一般 施工	6 一般 舗装工	9	3	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚	-25	-8	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1ヶ所を掘り起こして測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。	
						幅	-50	—			
3 土木工事共通編	2 一般 施工	6 一般 舗装工	9	4	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは は標高較差	-55	-8	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/㎡（平面投影面積当たり）以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。		

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平均			
3	2	6	9	5	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	厚 さ	—25	—8	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコーアを採取もしくは掘り起こして測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ が X ₁₀ を満足すること。 コーア採取について 橋面舗装等でコーア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、水糸又はレベルによる施工前と施工後の下がり測定するなど、他の方法によることが出来る。	
						幅	—50	—			
						厚さあるいは は標高較差	—55	—8			
3	2	6	9	6	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	厚さあるいは は標高較差	—55	—8	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/m ² (平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。		
						厚さあるいは は標高較差	—55	—8			
						厚さあるいは は標高較差	—55	—8			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均			
3	2	6	9	7	排水性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚	—15	—5	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、 1000 m ² に 1 個の割でコーアを採取して測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下 の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが 得られない場合は、その平均値 X _n が X ₁₀ を満足すること。	
						さ	—50	—			
						幅					
3	2	6	9	8	排水性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは は標高較差	—37	—5	1． 3次元データによる出来形管理において「地上 型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗 装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキ ャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編） （案）」または「T S（ノンリヌム方式）を用いた 出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来 形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計 測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管 理を実施する場合に適用する。		
3	2	6	9	8	排水性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは は標高較差	—37	—5	1． 3次元データによる出来形管理において「地上 型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗 装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキ ャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編） （案）」または「T S（ノンリヌム方式）を用いた 出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来 形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計 測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管 理を実施する場合に適用する。		

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章 節	条 文	枝 番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均			
3	2	6	9	排水性舗装工 (基層工)	厚 さ	－ 9	－ 3	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコーアを採取して測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X _n が X ₁₀ を満足すること。	
					幅	－ 25	—			
3	2	6	9	排水性舗装工 (基層工)	厚さあるいは は標高較差	－ 20	－ 3	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンリヌム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。		
3	2	6	9	排水性舗装工 (基層工)	厚さあるいは は標高較差	－ 20	－ 3	2. 個々の計測値の規格値には計測精度として± 10mm が含まれている。		
3	2	6	9	排水性舗装工 (基層工)	厚さあるいは は標高較差	－ 20	－ 3	3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/m ² （平面投影面積当たり）以上とする。		
3	2	6	9	排水性舗装工 (基層工)	厚さあるいは は標高較差	－ 20	－ 3	4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。		
3	2	6	9	排水性舗装工 (基層工)	厚さあるいは は標高較差	－ 20	－ 3	5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。		

出来形管理基準及び規格値

單位:mm

編 号	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)	10 個の測定値の平均(X ₁₀) *面管理の場合には測定値の平均			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	11	排水性舗装工 (表層工)	厚 さ	－7	－2	幅は、延長 80m 毎に 1 ヶ所の割とし、厚さは、1000 m ² 毎に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X _n が X ₁₀ を満足すること。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、水糸又はレベルによる施工前と施工後の下がりを測定するなど、他の方法によることが出来る。
						幅	－25	—			
						平 坦 性	—	3m ティモトカー (σ) 2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ) 1.75mm 以下			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	12	排水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	－17	－2	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						平 坦 性	—	3m ティモトカー (σ) 2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ) 1.75mm 以下			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	12	排水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	－17	－2	1. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/m ² (平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						平 坦 性	—	3m ティモトカー (σ) 2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ) 1.75mm 以下			

出来形管理基準及び規格値 単位：mm

編 号	章 節	条 文	枝 番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均			
3	2	6	10	透水性舗装工 (路盤工)	基準高▽	±50	—	基準高は片側延長 40m 毎に 1ヶ所の割で測定。 厚さは、片側延長 200m 毎に 1ヶ所掘り起こして測定。 幅は、片側延長 80m 毎に 1ヶ所測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。 ※歩道舗装に適用する。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。	
					厚 さ	t < 15cm	—30			
						t ≥ 15cm	—45			
						幅	—100			
3	2	6	10	透水性舗装工 (路盤工)	基準高▽	±50	—	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として ±10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/㎡ (平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求める高さとの差とする。 ※歩道舗装に適用する		
3	2	6	10	(面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	t < 15cm	—64			
						t ≥ 15cm	—91			
							—15			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝 番 工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
		個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均			
3 土木工事共通編	2 一般施工	厚さ	－9	幅は、片側延長80m毎に1ヶ所の割で測定。厚さは、片側延長200m毎に1ヶ所コーンを採取して測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる。 ※歩道舗装に適用する	施工面積が小さく10個のデータが得られない場合は、その平均値X _n がX10を満足すること。 コーン採取について 橋面舗装等でコーン採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、水糸又はレベルによる施工前と施工後の下がり測定するなど、他の方法によることが出来る。	
	6 一般舗装工	幅	－25			
	10	透水性舗装工 (表層工)	－3			
3 土木工事共通編	2 一般施工	厚さあるいは 標高較差	－20	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/㎡（平面投影面積当たり）以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求める高さとの差とする。 ※歩道舗装に適用する		
	6 一般舗装工		－3			
	10	透水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)				

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
			個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均(X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均			
3	2	6	11	1	ゼーアスファルト (加熱アスファルト 安定処理工)	厚さ 幅	— 5 —
3	2	6	11	2	ゼーアスファルト (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは 厚さ較差	— 37 — 5
3	2	6	11	2	ゼーアスファルト (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは 厚さ較差	— 37 — 5

幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、1000 m²に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。

施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X_nが X₁₀を満足すること。

コアー採取について
橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、水糸又はレベルによる施工前と施工後の下がり測定するなど、他の方法によることが出来る。

1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザーキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザーキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンリヌム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。

2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。

3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/m²（平面投影面積当たり）以上とする。

4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。

5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
			個々の測定値 (X)	10 個の測定値の平均 (X ₁₀) *面管理の場合は測定値の平均						
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	3 グーアスアフルト 舗装工 (基層工)	厚さ	－ 9	－ 3	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコアーを採取して測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X _n が X ₁₀ を満足すること。	コーア採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、水糸又はレベルによる施工前と施工後の下がりを測定するなど、他の方法によることが出来る。
					幅	－ 25	—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	4 グーアスアフルト 舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さあるいは 厚高較差	－ 20	－ 3	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザーキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザーキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として ± 10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/m ² (平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。		

出来形管理基準及び規格値

单位: mm

編 号	章 節	条 文	枝 番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	10 個の測定値の平均 (X ₀) *面管理の場合は測定値の平均			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚 さ	－7	－2	幅は、延長 80m 毎に 1 ヶ所の割とし、厚さは、1000 m ² 毎に 1 個の割でコーアを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X _n が X ₁₀ を満足すること。	コーア採取について 橋面舗装等でコーア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、水糸又はレベルによる施工前と施工後の下がり測定するなど、他の方法によることが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
					幅	－25	—			
					平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下			
					厚さあるいは は標高較差	－17	－2			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	グーラスアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	平 坦 性	—	3m ⁷ 0 ⁷ 4 ¹ 0 ⁴ メーカ下直読式 (足付き) (σ) 1. 75mm 以下	1. 3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平 均			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	1 コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	—	基準高は延長 40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線 200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割に測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができ る。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 Xn が X10 を満足すること。	
					厚 さ	—45	—15			
					幅	—50	—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	2 コンクリート舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高▽	±90	+40 —15	1．3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「TS（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2．個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3．計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点／m2（平面投影面積当たり）以上とする。 4．厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5．厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。		
					厚さあるいは標高較差	±90	+40 —15			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
			個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平 均							
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	3	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚さ	— 25	— 8	幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X _n が X ₁₀ を満足すること。	
						幅	— 50	—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	4	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工) (面管理の場合)	厚さある いは標高 較差	— 55	— 8	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として± 10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/m ² （平面投影面積当たり）以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。		

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合は 測定値の平均			
3	土 木 工 事 共 通	2 一般施工	6 一般舗装工	12	コンクリート舗装工 (セメント (石灰・瀝青) 安定処理工)	厚 さ	—25	—8	幅は、延長 80m 毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1 個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X ₁₀ を満足すること。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、水糸又はレベルによる施工前と施工後の下がり測定するなど、他の方法によることが出来る。	
						幅	—50	—			
						厚さある いは標準 偏差	—55	—8			
3	土 木 工 事 共 通	2 一般施工	6 一般舗装工	12	コンクリート舗装工 (セメント (石灰・瀝青) 安定処理工) (面管理の場合)	厚さある いは標準 偏差	—55	—8	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」または「TS (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/m ² (平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。		

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
			個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平 均			
3	2	6	12	7	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)	厚	
3	2	6	12	8	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層) (面管理の場合)	厚さある いは標高 較差	
3	2	6	12	8	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層) (面管理の場合)	厚さある いは標高 較差	
3	2	6	12	8	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層) (面管理の場合)	厚さある いは標高 較差	
3	2	6	12	8	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層) (面管理の場合)	厚さある いは標高 較差	

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要				
			個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平均							
3 土木工事共通編	2 一般 舗装工	6 一般 舗装工	12	9	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装 版工)	厚 さ	—10	—3.5	厚さは各車線の中心付近で型枠据付け後各車線 200mm 毎に水糸又はレベルにより 1 測線当たり横断方向に 3ヶ所以上測定、幅は、延長 80mm 毎に 1ヶ所の線割で測定。平坦性は各車線毎に版縁から 1 m の線上、全延長とする。なお、スリッパフォーム工法の場合は、厚さ管理に関し、打設前に各車線の中心付近で各車線 200mm 毎に水糸又はレベルにより 1 測線当たり横断方向に 3ヶ所以上路盤の基準高を測定し、測定打設後に各車線 200mm 毎に両側の版端を測定する。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 Xn が X10 を満足すること。	
						幅	—25	—			
						平 坦 性	—	コンクリートの硬化後 3m トラフアルメーターにより機械舗設の場合 (σ) 2.4mm 以下 人力舗設の場合 (σ) 3mm 以下			
3 土木工事共通編	2 一般 舗装工	6 一般 舗装工	12	10	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装 版工) (面管理の場合)	目地段差	± 2		隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						厚さある いは標高 較差	—22	—3.5			
						平 坦 性	—	3m トラフアルメーター (σ) 2.4mm 以下 直読式(足付き) (σ) 1.75m 以下			
3 土木工事共通編	2 一般 舗装工	6 一般 舗装工	12	10	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装 版工) (面管理の場合)	目地段差	± 2		隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。		
						厚さある いは標高 較差	—22	—3.5			
						平 坦 性	—	3m トラフアルメーター (σ) 2.4mm 以下 直読式(足付き) (σ) 1.75m 以下			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章 節	条 文	枝 番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平均			
3	土木工事共通編	一般舗装工	12	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) 下層路盤工	基準高▽	±40	—	基準高は、延長 40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線 200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割に測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができ る。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 Xn が X10 を満足すること。	
					厚 さ	—45	—15			
					幅	—50	—			
3	土木工事共通編	一般舗装工	12	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) 下層路盤工 (面管理の場合)	基準高▽	±90	+40 —15	1．3 次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「TS（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2．個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。 3．計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/m ² （平面投影面積当たり）以上とする。 4．厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5．厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ＋直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。		
					厚さあるいは標高較差	±90	+40 —15			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝番	種 工	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
			個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平均				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	13	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) 粒度調整路盤工	厚	— 25	— 8
						幅	— 50	—
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	14	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さある いは標高 較差	— 55	— 8

幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。
ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。

1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。

2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。

3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m²（平面投影面積当たり）以上とする。

4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。

5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。

幅は、延長 80mm毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、各車線 200mm毎に 1ヶ所を掘り起こして測定。
ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。

施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 X_n が X₁₀ を満足すること。

1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。

2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。

3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1 点/m²（平面投影面積当たり）以上とする。

4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。

5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さと直下層の標高較差平均値＋設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要					
			個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平均								
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	15	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) セメント (石灰・ 瀝青) 安定処理工	厚 さ	—25	—8	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000 mm に 1 個の割でコアーを採取もしくは、掘 り起こして測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以 下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが 得られない場合は、その平均値 X _n が X ₁₀ を満足すること。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 水糸又はレベルによる施工前と施工後の 下がりを測定するなど、他の方法によ ることが出来る。		
							幅	—50				—
							厚さある いは標高 較差	—20				—3
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	16	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) セメント (石灰・ 瀝青) 安定処理工 (面管理の場合)	厚さある いは標高 較差	—20	—3	1．3次元データによる出来形管理において「地上型 レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザ ースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事 編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を 用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基 づく出来形管理を実施する場合、その他本基準に 規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法に より出来形管理を実施する場合に適用する。 2．個々の計測値の規格値には計測精度として± 10mm が含まれている。 3．計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で 標高値を算出する。計測密度は 1 点/m ² (平面投 影面積当たり) 以上とする。 4．厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値と の差で算出する。 5．厚さを標高較差として評価する場合は、直下 層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚 さから求まる高さとの差とする。この場合、基準 高の評価は省略する。			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平均			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	17 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) アスファルト中間層	厚	— 9	— 3	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000 m ² に 1 個の割でコアーを採取して測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以 下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得 られない場合は、その平均値 X _n が X ₁₀ を満足すること。	
					さ	— 25	—			
					幅					
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	18 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) アスファルト中間層 (面管理の場合)	厚さある いは標高 較差	— 20	— 3	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザ ースキャナを用いた出来形管理要領 (舗装工事 編) (案)」または「T S (ノンプリズム方式) を 用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基 づく出来形管理を実施する場合、その他本基準に 規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法に より出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として± 4mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で 標高値を算出する。計測密度は 1 点/m ² (平面投 影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値と の差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下 層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚 さから求まる高さとの差とする。この場合、基準 高の評価は省略する。		

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
			個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均 (X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平均			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	19 (コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工))	厚 さ 幅 平 坦 性 — (o)2.4mm 以下。	—4.5 — 転圧コンクリートの硬化後、3mプロファイルメーターにより	厚さは、各車線の中心付近で型枠据付後各車線200mm毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3ヶ所以上測定、幅は、延長80m毎に1ヶ所の割で測定、平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる。
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	20 (コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工)) (面管理の場合)	厚さあるいは標高 較差 —32 —4.5 3mプロファイルメーター(足付き) (o)1.75mm 以下	—	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	20 (コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工)) (面管理の場合)	厚さあるいは標高 較差 —32 —4.5 3mプロファイルメーター(足付き) (o)1.75mm 以下	—	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	20 (コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工)) (面管理の場合)	厚さあるいは標高 較差 —32 —4.5 3mプロファイルメーター(足付き) (o)1.75mm 以下	—	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
			個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均 (\bar{X}_{10})			
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	13	1 薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	基準高は、延長 40m 毎に 1 ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線 200m 毎に 1 ヶ所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m 毎に 1 ヶ所の割に測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 \bar{X}_{10} を満足すること。	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	13	2 薄層カラー舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅は、延長 80m 毎に 1 ヶ所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1 ヶ所を掘り起こして測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。		
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	13	2 薄層カラー舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	幅は、延長 80m 毎に 1 ヶ所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1 ヶ所を掘り起こして測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。		

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均 (\bar{X}_{10})			
3 土木工事 共通編	2 一般 施工	6 一般 舗装工	13	3 薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	厚 さ	－25	－8	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000 m ² に 1 個の割でコーを採取もしくは掘り起 こして測定。	施工面積が小さく 10 個のデータが 得られない場合は、その平均値 \bar{X}_{10} が X10 を満足すること。	
					幅	－50	—			
3 土木工事 共通編	2 一般 施工	6 一般 舗装工	13	4 薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	－15	－5	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000 m ² に 1 個の割でコーを採取して測定。	コー採取について 橋面舗装等でコー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 水糸又はレベルによる施工前と施工後の 下がりを測定するなど、他の方法によ ることが出来る。	
					幅	－50	—			
3 土木工事 共通編	2 一般 施工	6 一般 舗装工	13	5 薄層カラー舗装工 (基層工)	厚 さ	－9	－3	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000 m ² に 1 個の割でコーを採取して測定。		
					幅	－25	—			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均 (\bar{X}_{10})				
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	14	1	ゾロツク舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40		—	基準高は、延長 40m毎に 1ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線 200m毎に 1ヶ所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m毎に 1ヶ所の割に測定。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 \bar{X}_{10} を満足すること。	
						厚さ	—45		—15			
						幅	—50		—			
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	14	2	ゾロツク舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 　　さ	—25		—8	幅は、延長 80m毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1ヶ所を掘り起こして測定。		
						幅	—50		—			

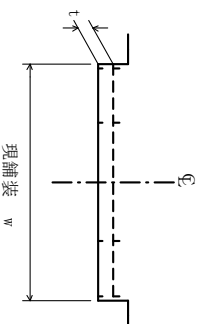
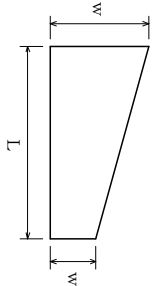
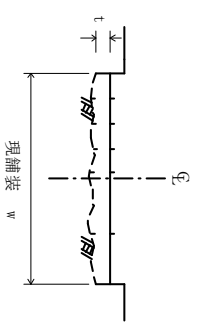
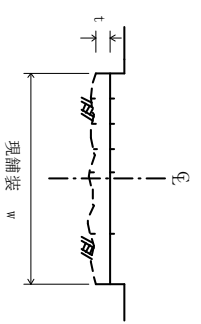
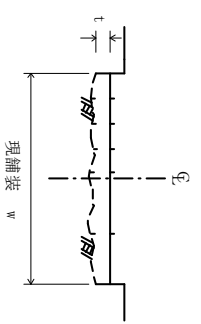
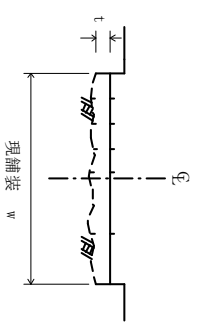
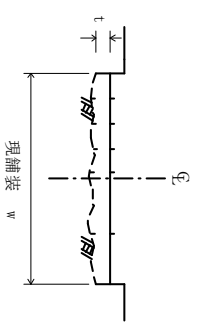
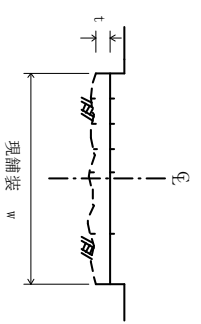
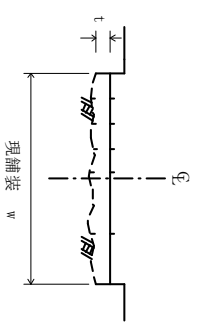
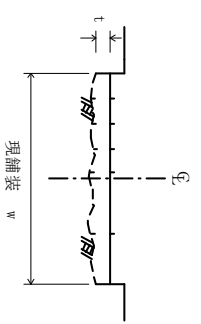
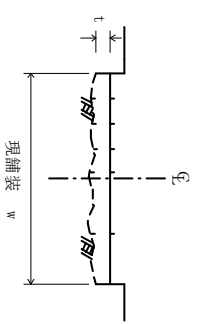
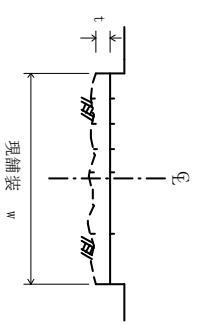
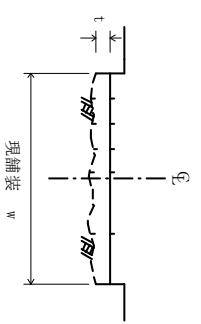
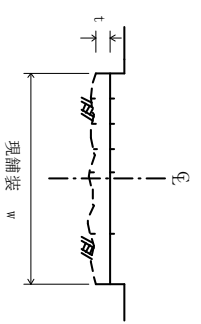
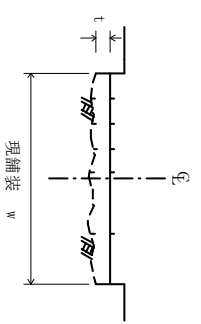
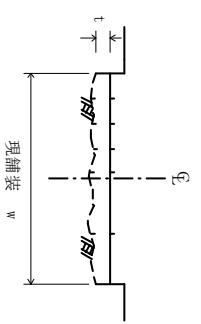
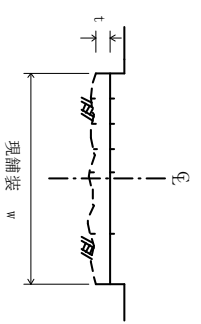
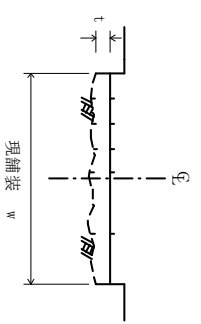
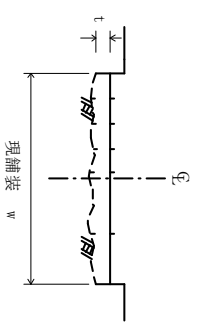
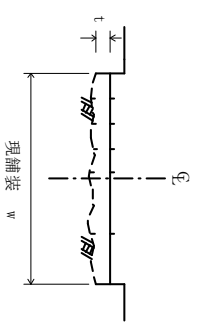
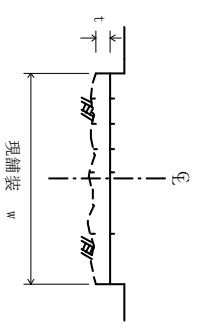
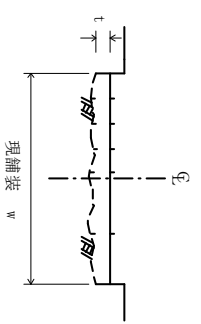
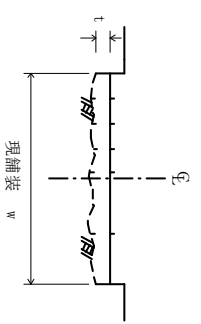
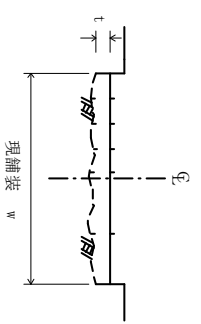
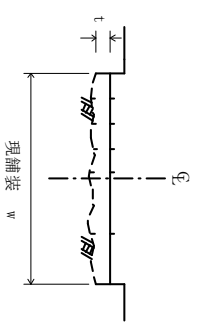
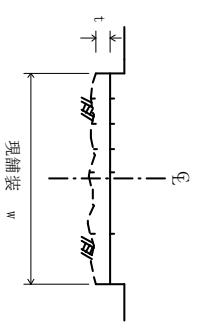
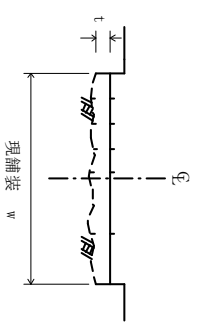
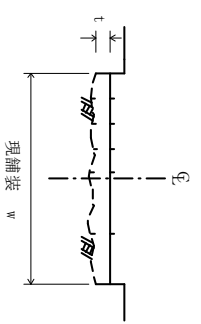
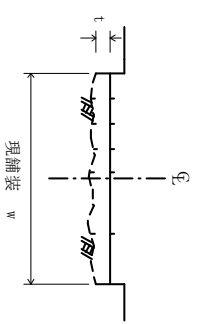
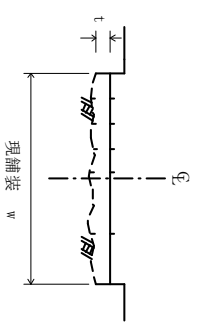
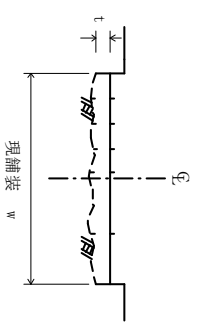
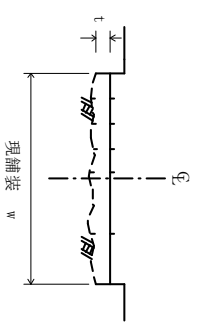
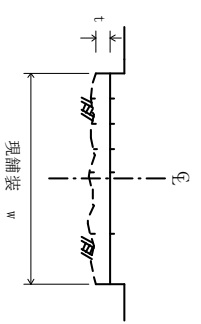
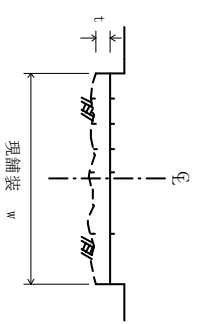
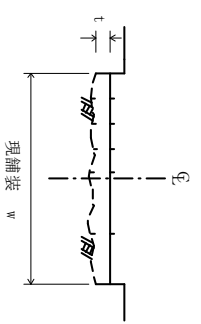
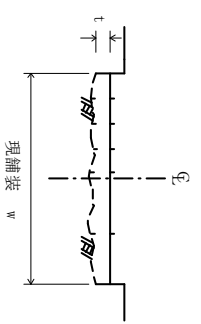
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章 節	条 文	枝 番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
						個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均 (\bar{X}_{10})			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	14	3 ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-8	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000 m ² に 1 個の割でコアを採取もしくは掘り起 こして測定。	施工面積が小さく 10 個のデータが 得られない場合は、その平均値 \bar{X}_{10} が X10 を満足すること。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 水糸又はいゝによる施工前と施工後の 下がり測定するなど、他の方法によ ることが出来る。
					幅	-50	—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	14	4 ブロック舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	-15	-5	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000 m ² に 1 個の割でコアを採取して測定。		
					幅	-50	—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	14	5 ブロック舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-3	幅は、延長 80m 毎に 1ヶ所の割とし、厚さは、 1,000 m ² に 1 個の割でコアを採取して測定。		
					幅	-25	—			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
				個々の測定値 (X_i)	平均の測定値 (\bar{X}_n)					
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	15	路面切削工	厚 さ t	— 7	— 2	厚さは 40m毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長 40m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。		
					幅 w	— 25	—			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	16	舗装打換え工	幅 w	— 50	各層毎1ヶ所／1施工箇所			
					延長 L	— 100				
					厚 さ t	該当工種				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	幅 w	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17	オーバーレイ工	厚 さ t	— 9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1ヶ所の割とし、延長 80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
					幅 w	— 25				
					延長 L	— 100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工								

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
			個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X _n) *面管理の場合は測定値の平均						
3	土木工事共通編	2	オーバーレイ工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-20	-3	3m7.07/4.47- (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下	1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。		
2	一般施工	6	一般舗装工	平 坦 性	-		2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。			
1							3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m ² （平面投影面積当たり）以上とする。			
							4. 厚さは、施工前の標高値とオーバーレイ後の標高値との差で算出する。			
							5. 厚さを標高較差として評価する場合は、オーバーレイ後の目標高さとオーバーレイ後の標高値との差で算出する。			

1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」または「T S（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。

2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。

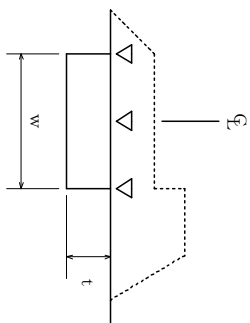
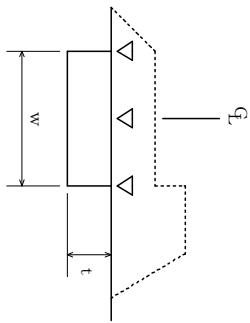
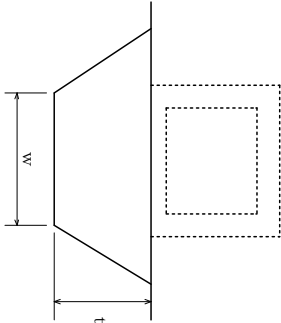
3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m²（平面投影面積当たり）以上とする。

4. 厚さは、施工前の標高値とオーバーレイ後の標高値との差で算出する。

5. 厚さを標高較差として評価する場合は、オーバーレイ後の目標高さとオーバーレイ後の標高値との差で算出する。

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	2		路床安定処理工	基 準 高 ∇	±50	延長 40m 毎に 1ヶ所の割で測定 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定 「施工履歴データを用いた出来形管理要領（表層安定処理等・中層地盤改良工事編）（案）」による管理の場合は、全体改良範囲図を用いて、施工厚さ t 、天端幅 w 、天端延長 L を確認（実測は不要）		
						施 工 厚 さ t	－50			
						幅 w	－100			
						延 長 L	－200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	3		置換工	基 準 高 ∇	±50	施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1ヶ所、延長 40m（50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。 厚さは中心線及び端部で測定。		
						置換厚さ t	－50			
						幅 w	－100			
						延 長 L	－200			
土木工事共通編										

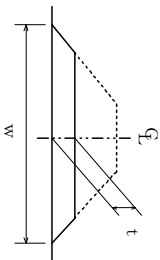
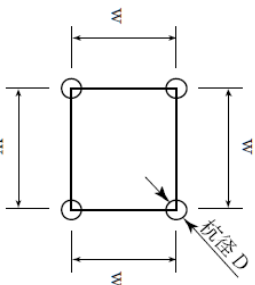
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	7	4	1	表層安定処理工 (サソドマツト海上)	基 準 高 ∇	特記仕様書に 明示	施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。		
						法 長 ℓ	—500			
						天 端 幅 w	—300			
						天端延長 L	—500			
				2	表層安定処理工 (ICT 施工の場合)	基 準 高 ∇	特記仕様書に 明示	施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。		
						法 長 ℓ	—500			
						天 端 幅 w	—300			
						天端延長 L	—500			
3	2	7	5		パイプルネット工	基 準 高 ∇	±50	施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 ヶ所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。		
						厚 さ t	—50			
						幅 w	—100			
						延 長 L	—200			

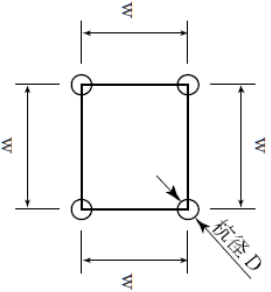
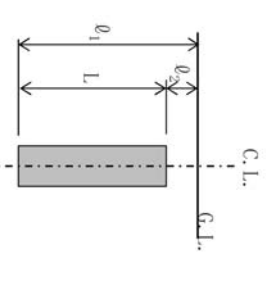
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	6		サンドバット工	施工厚さ t	－50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1ヶ所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。		
						幅 w	－100			
						延 長 L	－200			
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	7		バーチカルドレーン工 (サンドバレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドバレーン工) 締め固め改良工 (サンドコンパクションパイル工)	位置・間隔 w	±100	100 本に 1ヶ所。 100 本以下は 2ヶ所測定。1ヶ所に 4 本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。 全本数 全本数 全本数 計器管理にかえることができる。		
						杭 径 D	設計値以上			
						打 込 長 さ h	設計値以上			
						サンドバレーン、袋詰式サンドバレーン、サンドコンパクションパイルの砂投入量	—			
※余長は、適用除外										

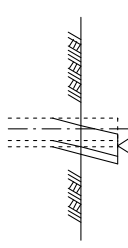
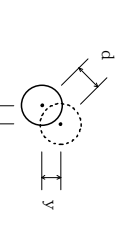
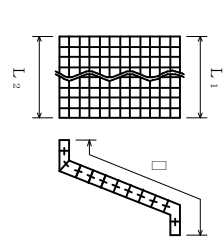
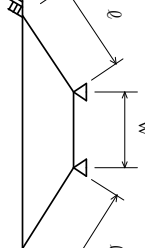
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	7	9	1	固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基 準 高 ∇	－50	100本に1ヶ所。 100本以下は2ヶ所測定。 1ヶ所に4本測定。		
						位置・間隔 w	D/4以内			
						杭 径 D	設計値以上			
						深 度 \varnothing	設計値以上			
3	2	7	9	2	固結工 (中層混合処理)	基 準 高 ∇	設計値以上	1,000mm ³ ～4,000mm ³ につき1ヶ所、又は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所。 1,000mm ³ 以下、又は施工延長40m(50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 施工厚さは施工時の改良深度確認を出来形とする。 「施工履歴データを用いた出来形管理要領(表層安定処理等・中層地盤改良工事編)(案)」による管理の場合は、全体改良範囲図を用いて、施工厚さt、幅w、延長Lを確認(実測は不要)		
						施工厚さ t	設計値以上			
						幅 w	設計値以上			
						延 長 L	設計値以上			

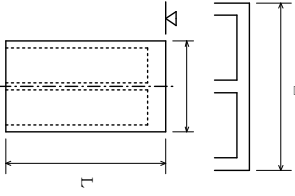
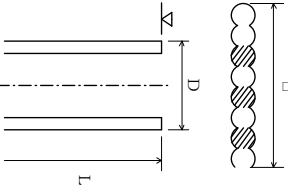
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	10	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基 準 高 ▽	±100	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所。延長40m (又は50m) 以下のものは、1 施工箇所につき2ヶ所。 (任意仮設は除く)		
						根 入 長	設計値以上			
3	2	10	5	2	土留・仮締切工 (アソカーク工)	削 孔 深 さ \varnothing	設計深さ以上	全数 (任意仮設は除く)		
						配 置 誤 差 d	100			
3	2	10	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長 \varnothing	－100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1 施工箇所につき2ヶ所。 1 施工箇所毎		
						延長 L_1 L_2	－200			
3	2	10	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	基 準 高 ▽	－50	施工延長50mにつき1ヶ所。 延長50m以下のものは1 施工箇所につき2ヶ所。 (任意仮設は除く)		
						天 端 幅 w	－100			
						法 長 \varnothing	－100			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	10	5	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基 準 高 ∇	－50	施工延長 50mにつき 1ヶ所。 延長 50m以下のものは、1 施工箇所につき 2ヶ所。 (任意仮設は除く)		
3	2	10	9		地中連続壁工 (壁式)	基 準 高 ∇	±50	基準高は施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所。延長 40m (又は 50m) 以下のものについては 1 施工箇所につき 2ヶ所。 変位は施工延長 20m (測点間隔 25mの場合は 25m) につき 1ヶ所。延長 20m (又は 25m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		
						連壁の長さ \varnothing	－50			
						変 位	300			
						壁 体 長 L	－200			
3	2	10	10		地中連続壁工 (柱列式)	基 準 高 ∇	±50	基準高は施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所。延長 40m (又は 50m) 以下のものについては 1 施工箇所につき 2ヶ所。 変位は施工延長 20m (測点間隔 25mの場合は 25m) につき 1ヶ所。延長 20m (又は 25m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		D：杭径
						連壁の長さ \varnothing	－50			
						変 位 d	D/4 以内			
						壁 体 長 L	－200			

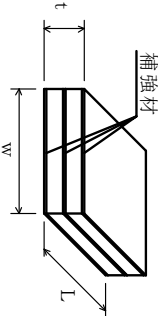
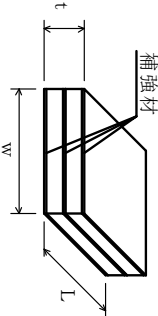
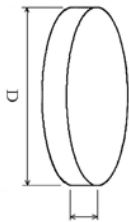
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章		節	条	枝番	種 工	測 定 項 目			規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3	土木工事 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	1	鑄造費 (金属支承工)	上下部鋼構造物との接合用ボルト孔	中心距離	孔の直径差	+2 -0	製品全数を測定。		
							センターボスを基準にした孔位置のずれ	≤1000mm	1 以下				
								センターボスを基準にした孔位置のずれ					
								>1000mm	1.5 以下				
							アンカーボルト用孔	孔の直径	≤100mm	+3 -1			
								>100mm	+4 -2				
								孔の中心距離	JIS B 0403 CT13				
							センターボス	ボスの直径		+0 -1			
								ボスの高さ		+1 -0			

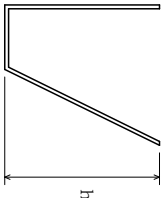
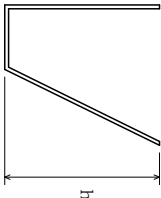
出来形管理基準及び規格値

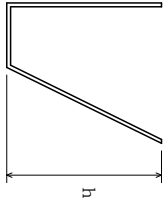
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要	
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作 共通	1	1	(金属支承工)		上脊の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0403 CT13	製品全数を測定。 ※1) 片面削り加工も含む ※2) ただし、ソーラプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対しては CT13 を適用する。			
							全移動量 ℓ	ℓ ≤ 300mm				± 2
							ℓ > 300mm	± ℓ / 100				
							上、下面加工仕上げ	± 3				
							コンクリート構造用	H ≤ 300mm				± 3
							H > 300mm	(H/200+3) 小数点以下切り捨て				
							普通寸法	鑄放し長さ寸法 ※1)、※2)				JIS B 0403 CT14
							普通寸法	鑄放し肉厚寸法 ※1)				JIS B 0403 CT15
							普通寸法	削り加工寸法				JIS B 0405 粗級
							普通寸法	ガス切断寸法				JIS B 0417 B級
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作 共通	1	2	鑄造費 (大型ゴム支承工)		幅 w	0 ～ + 5	製品全数を測定。 平面度：1 個のゴム支承の厚さ (t) の最大相対誤差			
							長さ L	0 ～ + 1 %				
							500 < w, L, D ≤ 1500mm					
							1500 < w, L, D	0 ～ +15				
							直径 D					
							厚さ t	± 0. 5				
							t ≤ 20mm					
							20 < t ≤ 160	± 2. 5%				
							160 < t	± 4				
							平面度	1				
3	2	12	1	2			w, L, D ≤ 500	(w, L, D) / 1000				
							1000mm < w, L, D					

出来形管理基準及び規格値

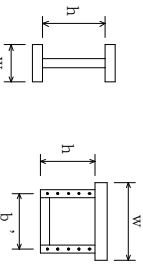
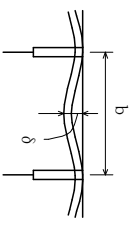
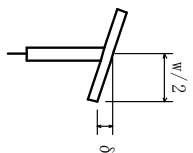
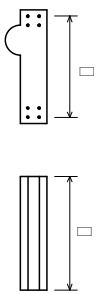
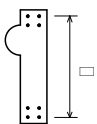
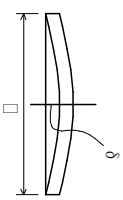
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	3	仮設材製作工	部 材 部材長 \varnothing (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\varnothing \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\varnothing > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	4	刃口金物製作工	刃 口 高 さ h (m)	$\pm 2 \cdots \cdots$ $h \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots \cdots$ $0.5 < h \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $1.0 < h \leq 2.0$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						外周長 L (m)	$\pm (10+L/10)$			



出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
				鋼桁等	トラス・アーチ等		
3	1	桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)	±2…… w ≤ 0.5 ±3…… 0.5 < w ≤ 1.0 ±4…… 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2) 2.0 < w	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き 取った部材の中央付近を測定。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工 場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えるこ とができる。			
12	工場製作工 共通	板の平面度 δ (mm)	h / 250	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。			
2	一般施工	箱桁及びびトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	b / 150	h : 腹板高 (mm) b : 腹板又はリブの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)			
		フランジの直角度 δ (mm)	w / 200	原則として仮組立をしない状態の部材について、 主要部材全数を測定。			
		部材長 ℓ (m)	±3…… ℓ ≤ 10 ±4…… ℓ > 10				
		トラス、アーチなど	±2…… ℓ ≤ 10 ±3…… ℓ > 10				
		圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ / 1000	主要部材全数を測定。			

※規格値の w, ℓ に代入する数値は mm 単位の数値である。
ただし、「板の平面度 δ ，フランジの直角度 δ ，圧縮材の曲り δ 」の規格値の h, b, w, ℓ に代入する数値は mm 単位の数値とする。

出来形管理基準及び規格値

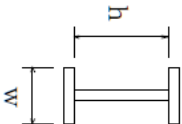
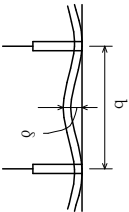
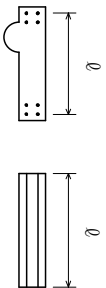
単位：mm

編 章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要						
							鋼桁等	トラス・アーチ等								
3	2	12	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)	全長 L (m) 支間長 L _n (m)	各桁毎に全数測定。									
						主桁、主構の中心間 距離 B (m)	各支点及び各支間中央付近を測定。									
						主構の組立高さ h (m)	—	両端部及び中心部を測 定。								
						主桁、主構の通り δ (mm)	最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中 央の1点を測定。 L：測線上 (m)									
						主桁、主構のそり δ (mm)	各主桁について10～12 m間隔を測定。 L：主桁の 支間長 (m) L：主構の支間長 (m)									
主桁、主構の橋端に おける出入差 δ (mm)	どちらか一方の主桁 (主構) 端を 測定。															
主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	各主桁の両端部を測 定。 h：主桁の高さ (mm)															
現場継手部のすき間 δ ₁ 、δ ₂ (mm)	主桁、主構の全継手数の1／2を 測定。 δ ₁ 、δ ₂ のうち大きいもの なお、設計値が5mm未満の場合は、すき間の許容 範囲の下限値を0mmとする。(例：設計値が3mm の場合、すき間の許容範囲は0mm～8mm)															

※規格値のL、B、hに代入する数値はmm単位の数値である。
ただし、「主桁、主構の鉛直度δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。

出来形管理基準及び規格値

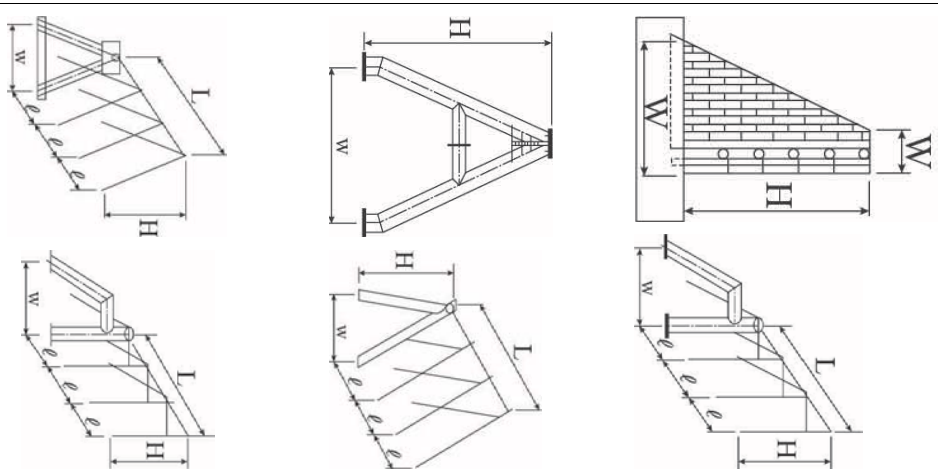
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作 共通	3	2	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \cdots \cdots$ $w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2)$ $2.0 < w$	主桁、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の 中央付近を測定。		I型鋼桁	
						鋼桁等の部材の 板の 腹板 平面 度 δ (mm)	$h/250$				
						箱桁等のフラン ジ鋼床版のデッ キプレート	$b/150$				
						フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$	主要部材全数を測定。			
						部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $l \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $l > 10$				

※規格値の w , ℓ は円弧する数値 ϕ mm 単位の数値である。
ただし、 ℓ は板の平面度 δ , フランジの直角度 δ 」の規格値の h , b , w は円弧する数値 ϕ mm 単位の数値とする。


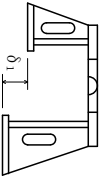
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	3	3	桁製作工 (鋼製堰堤製作工 (仮組立時))	部 材 の 水 平 度	10	全数を測定。		
						堤 長 L	±30			
						堤 長 l	±10			
						堤 幅 W	±30			
						堤 幅 w	±10			
						高 さ H	±10			
						ベースプレートの高さ	±10			
						本 体 の 傾 き	±H / 500			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

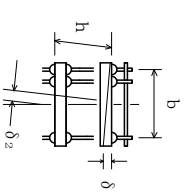
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	12	4		検査路製作工	部 材	$\pm 3 \dots\dots$ $\pm 4 \dots\dots$ $\varnothing \leq 10$ $\varnothing > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						部材長 \varnothing (m)				
3	2	12	5		鋼製伸縮継手製作工	部 材	0～+30	製品全数を測定。		
						部材長w (m)				
						組 合 せ る 伸 縮 装 置 と の 高 さ の 差 δ_1 (mm)	± 4			
3	2	12	5		鋼製伸縮継手製作工	部 材		両端部及び中央部付近を測定。		
						仮組立時 の食い違い δ_2 (mm)	± 2			

(実測値) δ_2 

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	12	6		落橋防止装置製作工	部材長 \varnothing (m)	$\pm 3 \cdots \cdots \varnothing \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots \varnothing > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						材				
						部材長 \varnothing (m)	$\pm 3 \cdots \cdots \varnothing \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots \varnothing > 10$			
3	2	12	7		橋梁用防護柵製作工	部材長 \varnothing (m)	$\pm 3 \cdots \cdots \varnothing \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots \varnothing > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						部材				
						部材長 \varnothing (m)	$\pm 3 \cdots \cdots \varnothing \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots \varnothing > 10$			
3	2	12	8		アンカープレート製作工	上 面 水 平 度 δ_1 (mm)	b / 500	軸心上全数測定。		
						鉛 直 度 δ_2 (mm)	h / 500			
						仮組立時 高さ h (mm)	± 5			



出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	12	9		ナレビーム用桁製作工	フ ラ ン ジ 幅 w (m) 腹板高 h (m)	±2…w≤0.5 ±3… 0.5<w≤1.0 ±4… 1.0<w≤2.0 ±(3+w/ 2)…2.0<w	各支点及び各支間中央付近を測定。	<p>I 型鋼桁</p>	
						フランジの直角度 δ (mm)	w/200	各支点及び各支間中央付近を測定。		
						部 材 部材長ℓ (m)	±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10	原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
						仮組立時 主げたのそり δ	-5～+5 …L≤20 -5～+10 …20<L≤40	各主げたについて10～12m間隔を測定。		
						部 材 部材長ℓ (m)	±3… ℓ≤10 ±4… ℓ>10	図面の寸法表示箇所を測定。		
						鋼製排水管製作工				
3	2	12	10							
土木工事共通編										
土木工事共通編										

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3	2	12	11		工場塗装工		塗膜厚	a. ロット塗膜の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%以下。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは、500 m ² とする。 1 ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。 ただし、1 ロットの面積が200 m ² に満たない場合は10 m ² ごとに1点とする。		
土木工事共通編											
一般施工											
工場製作工 共通											

出来形管理基準及び規格値

單位: mm

編 号	章 節	条 目	枝 番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	土木工事共通編	1	13	橋梁施工	一般施工				
				架設工 (鋼橋)	全長 L (m) 支間長 L _n (m)	± (20+L/5) ± (20+L _n /5)	各桁毎に全数測定		
				(クレーン架設) (クレーン架設) (クレーン架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラバークレーン架設)	通 り δ (mm)	± (10+2L/5)	L : 主桁・主構の支間長 (m)		
					そ り δ (mm)	± (25+L/2)	主桁、主構を全数測定 L : 主桁・主構の支間長 (m)		
					※主桁、主構の 中心間距離 B (m)	±4..... B ≤ 2 ± (3+B/2) B > 2	各支点及び各支間中央付近を測定		
					※主桁の橋端に おける出入差 δ (mm)	± 10	どちらか一方の主桁 (主構) 端を測定		
					※主桁、主構の 鉛直度 δ (mm)	3 + h/1, 000	各主桁の両端部を測定 h : 主桁・主構の高さ (mm)		
					※現場継手部 のすき間 δ ₁ , δ ₂ (mm)	± 5	主桁、主構の全継手数の 1/2 を 測定 δ ₁ , δ ₂ のうち大きいもの なお、設計値が 5mm 未満の場合は、すき間の許容 範囲の下限値を 0mm とする。(例 : 設計値が 3mm の 場合、すき間の許容範囲は 0mm ~ 8mm)		
							※は仮組立検査を実施しない工事に適		

※規格値のL, Bに代入する数値はm単位の数値である。

ただし、「主げた、主構の鉛直度 δ 」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	13	1		架設工（コンクリート橋） （クレーン架設） （架設桁架設） 架設工支保工（固定） （移動） 架設桁架設（片持架設） （押出し架設）	全 長・支 間	—	各桁毎に全数測定		
						桁の中心間距離	—	一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定		
						そ り	—	主桁を全数測定		
3	2	14	2	1	植生工 （種子散布工） （張芝工） （筋芝工） （市松芝工） （植生シート工） （植生ペット工） （植生筋工） （人工張芝工） （植生穴工）	切 土 法 長	—200	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1ヶ所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所		
						$\varnothing < 5 \text{ m}$		ただし、計測手法については、従来管理のほかに「TS等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）J、TS（ノンゾリ）を用いた出来形管理要領（土工編）（案）J、RTK-GNSSを用いた出来形管理要領（土工編）（案）J」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。		
						$\varnothing \geq 5 \text{ m}$	法長の－4％			
						$\varnothing < 5 \text{ m}$	－100			
						盛 土 法 長				
						$\varnothing \geq 5 \text{ m}$	法長の－2％			
						延 長 L	－200	1 施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来管理のほかに「TS等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）J、TS（ノンゾリ）を用いた出来形管理要領（土工編）（案）J、RTK-GNSSを用いた出来形管理要領（土工編）（案）J」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。このほか、「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）J、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）J」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる		

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3	2	14	2	2	植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	法長 \varnothing		施工延長 40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1 施工箇所につき2ヶ所 ただし、計測手法については、従来管理のほかに「TS等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「TS（ソングリ）」を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。このほか、「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる			
							$\varnothing < 5 \text{ m}$				－200
							$\varnothing \geq 5 \text{ m}$				法長の－4 %
						厚さ t					
							$t < 5 \text{ cm}$	－10			
		$t \geq 5 \text{ cm}$	－20	施工面積 200 m^2 につき1ヶ所、面積 200 m^2 以下のものは、1 施工箇所につき2ヶ所 検査孔により測定							
		ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上		1 施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来管理のほかに「TS等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「TS（ソングリ）」を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。このほか、「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる							
		延 長 L	－200								
			</								

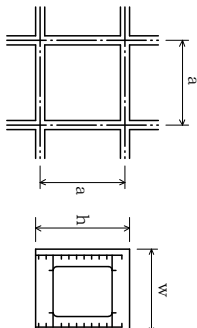
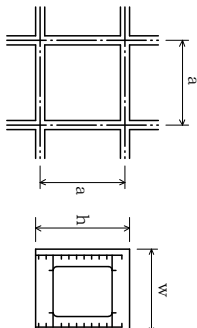
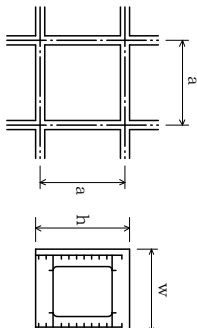
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	種 工	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	14	3		種 工 (仮設を含む) (コンクリート) (モルタル)	<div><div><div><div><div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div></div><div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div></div><div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div></div><div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text{ m}$</div></div> <div><div>$\phi < 3\text{ m}$</div><div>$\phi \geq 3\text$</div></div>				

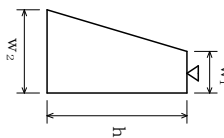
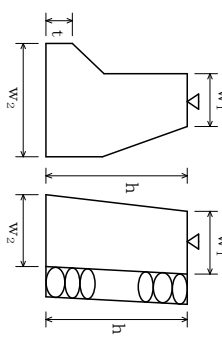
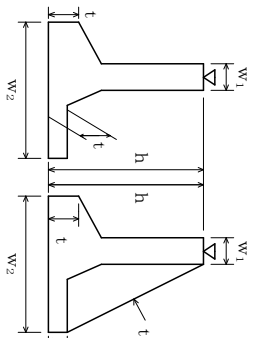
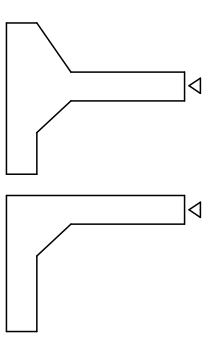
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工 共通	4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法 長 \varnothing	$\varnothing < 10\text{m}$	－100		曲線部は設計 図書による
						$\varnothing \geq 10\text{m}$	－200			
						幅 w	－30			
						高 さ h	－30			
						吹付枠中心間隔 a	±100			
3 土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工 共通	4	2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	延 長 L	－200	1 施工箇所毎		
						法 長 \varnothing	$\varnothing < 10\text{m}$	－100		
						$\varnothing \geq 10\text{m}$	－200	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) に つき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。		
						延 長 L	－200	1 施工箇所毎		
3 土木工事共通編	2 一般施工	14 法面工 共通	6		アンカー工	削孔深さ \varnothing	設計値以上	全数 (任意仮設は除く)		
						配置誤差 d	100			
						せん孔方向 θ	±2.5 度			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
3 土木工事 共通編	2 一般施工	15 擁壁工 共通	1		場所打擁壁工	基 準 高 ∇	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。				
						厚 さ t	－20					
						裏 込 厚 さ	－50					
						幅 w_1, w_2	－30					
						高 さ h	$h < 3 \text{ m}$	－50				
							$h \geq 3 \text{ m}$	－100				
						延 長 L		－200				
												
3 土木工事 共通編	2 一般施工	15 擁壁工 共通	2		プレキャスト擁壁工	基 準 高 ∇	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。				
3 土木工事 共通編	2 一般施工	15 擁壁工 共通				延 長 L	－200					

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3	2	15	3		補強土壁工 (テールアルメ ン]壁工法) (多数アンカー式補強 土工法) (ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)	基 準 高 ∇	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につ き 1 ヶ所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のもの は 1 施工箇所につき 2 ヶ所。		
						高さ h	$h < 3m$			
							$h \geq 3m$			
						鉛 直 度 Δ	±0.03h かつ ±300 以内			
						控 え 長 さ	設計値以上			
						延 長 L	—200	1 施工箇所毎		
3	2	15	4		井桁ブロック工	基 準 高 ∇	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につ き 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。		
						法 長 ϕ	$\phi < 3m$			
							$\phi \geq 3m$			
						厚さ t_1, t_2, t_3	—50			
						延 長 L_1, L_2	—200			
								1 施工箇所毎		

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
3 土木工事 共通編	2 一般施工	16 浚渫工 共通	3	2	浚渫船運転工 (グラブ浚渫船) (バックホウ浚渫船)	基準高▽ 電気船 グライダー ゼール船	200ps	－800～＋200	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。			
							500ps	－1000～＋200				
							1000ps	－1200～＋200				
							250ps	－800～＋200				
							420ps	－1000～＋200				
							600ps	－1000～＋200				
						幅	1350ps	－1200～＋200				
							幅					－200
							延長					－200
							基準高▽					＋200 以下
3 土木工事 共通編	2 一般施工	16 浚渫工 共通	3	2	浚渫船運転工 (グラブ浚渫船) (バックホウ浚渫船)	基準高▽	幅	－200	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。			
							延長	－200				
							幅	－200				
							延長	－200				

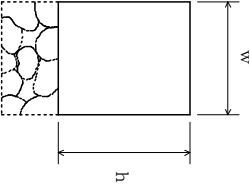
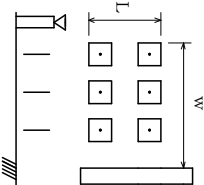
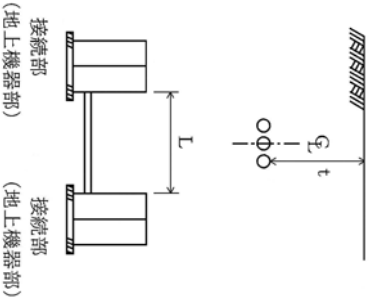
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	18 床版工	1		床版工		基準高▽	±20	基準高は、1径間当たり2ヶ所（支点付近）で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3ヶ所、厚さは型枠設置時におおむね10㎡に1箇所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)		注) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積 25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外））の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領(案)」も併せて適用する
							幅w	0～+30			
							厚さt	－10～+20			
							鉄筋のかぶり	設計値以上			
							鉄筋の有効高さ	±10			
	鉄筋間隔	±20	1径間当たり3ヶ所（両端及び中央）測定。 1ヶ所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。								
	上記鉄筋の有効高さイナスの場合	±10									

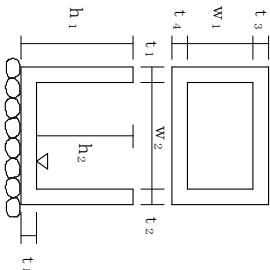
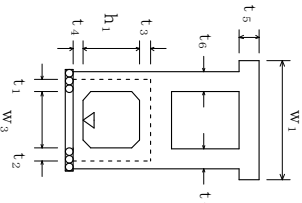
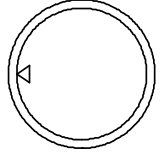
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
6 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	7 法 覆 護 岸 工	4		護岸付属物工	幅 w	-30			
						高 さ h	-30			
6 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	10 水 制 工	8		杭出し水制工	基 準 高 ▽	±50	1組毎		
						幅 w	±300			
						方 向	±7°			
						延 長 L	-200			
6 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	13 光 ケーブル 配管 工	3		配管工	埋 設 深 t	0～+50	接続部（地上機器部）間毎に1ヶ所。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センサーで測定】		
						延 長 L	-200			

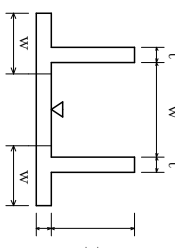
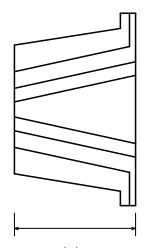
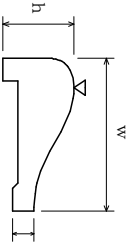
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章 節	条 文	枝 番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
6 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	13 光 ケーブル配管工	4	ハンドホール工	基準高 ∇	±30	1ヶ所毎 ※は現場打部分のある場合		
					※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20			
					※幅 w_1, w_2	-30			
					※高さ h_1, h_2	-30			
6 河 川 編	3 樋 門 ・ 樋 管	5 樋 門 ・ 樋 管 本 体 工	6	1 函渠工 (本体工)	基 準 高 ∇	±30	柔構造樋門の場合は埋戻前（載荷前）に測定する。 函渠寸法は、両端、施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。 門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇所で測定。 フレキヤスト製品使用の場合は、製品寸法を規格証明書で確認するものとし、『基準高』と『延長』を測定。		
					厚さ $t_1 \sim t_8$	-20			
					幅 w_1, w_2	-30			
					内空幅 w_3	-30			
					内空高 h_1	±30			
					延 長 L	-200			
6 河 川 編	3 樋 門 ・ 樋 管	5 樋 門 ・ 樋 管 本 体 工	6	2 函渠工 (ヒューム管) (P C管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル鑄鉄管)	基 準 高 ∇	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 1 施工箇所毎		
					延 長 L	-200			

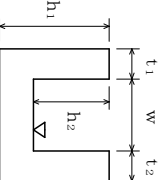
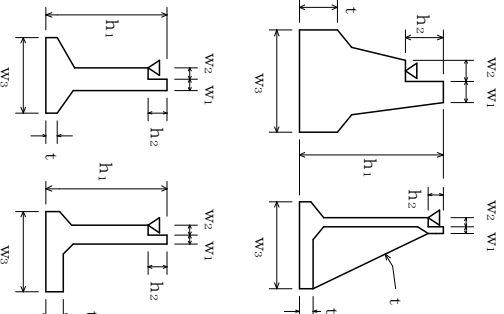
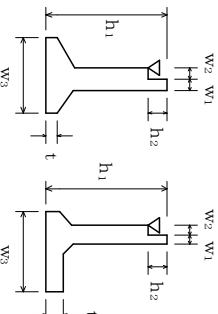
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
6 河 川 編	3 樋 門 ・ 樋 管	5 樋 門 ・ 樋 管 本 体 工	7 8		翼壁工 水叩工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所での測定。		
						厚 さ t	－20			
						幅 w	－30			
						高 さ h	±30			
						延 長 L	－50			
6 河 川 編	4 水 門	6 水 門 本 体 工	7 8 9 10 11		床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 胸壁工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所での測定。		
						厚 さ t	－20			
						幅 w	－30			
						高 さ h	±30			
						延 長 L	－50			
6 河 川 編	5 堰	6 可 動 堰 本 体 工	13 14		閘門工 土砂吐工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所での測定。		
						厚 さ t	－20			
						幅 w	－30			
						高 さ h	±30			
						延 長 L	－50			
6 河 川 編	5 堰	7 固 定 堰 本 体 工	8 9 10		堰本体工 水叩工 土砂吐工	基 準 高 ▽	±30	基準高、幅、高さ、厚さは両端、施工継手箇所及び構造図の寸法表示箇所での測定。		
						厚 さ t	－20			
						幅 w	－30			
						高 さ h	±30			
						堰 長 L	－50			
						堰 長 L	－100			

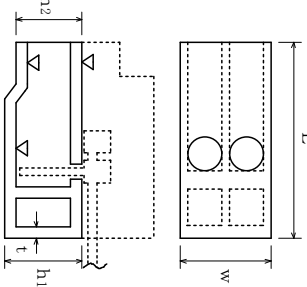
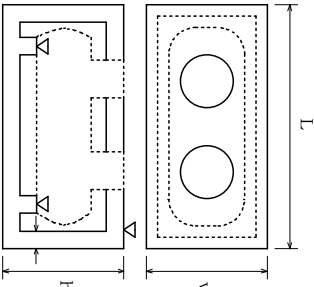
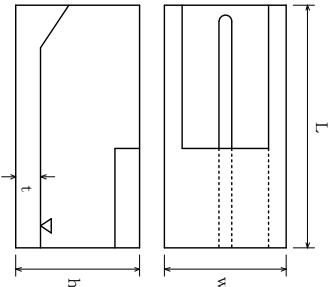
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章 節	条 文	枝 番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
6 河 川 編	5 堰	8 魚 道 工	3	魚道本体工	基 準 高 ∇	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につ き1ヶ所、40m（又は50m）以下のものは1施工 箇所につき2ヶ所。		
					厚 さ t_1, t_2	－20			
					幅 w	－30			
					高 さ h_1, h_2	－30			
					延 長 L	－200			
6 河 川 編	5 堰	9 管 理 橋 下 部 工	2	管理橋橋台工	基 準 高 ∇	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は 図面の寸法表示箇所で測定。		
					厚 さ t	－20			
					天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	－10			
					天 端 幅 w_2 (橋軸方向)	－10			
					敷 幅 w_3 (橋軸方向)	－50			
					高 さ h_1	－50			
					胸壁の高さ h_2	－30			
					天 端 長 ϕ_1	－50			
					敷 長 ϕ_2	－50			
					胸壁間距離 ϕ	±30			
6 河 川 編	5 堰	9 管 理 橋 下 部 工	2	管理橋橋台工	支 点 長 及 び 中心線の変 化	±50	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は 図面の寸法表示箇所で測定。		

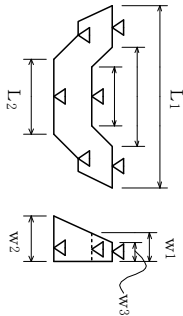
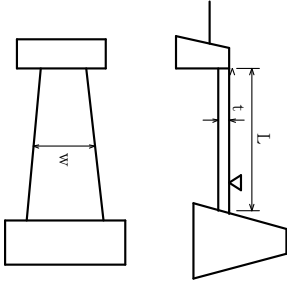
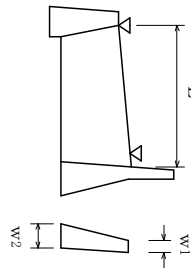
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
6 河 川 編	6 排 水 機 場	4 機 場 本 体 工	6		本体工		基 準 高 ∇	±30	図面の表示箇所で測定。		
							厚 さ t	－20			
							幅 w	－30			
							高さ h_1 , h_2	±30			
							延 長 L	－50			
6 河 川 編	6 排 水 機 場	4 機 場 本 体 工	7		燃料貯油槽工		基 準 高 ∇	±30	図面の表示箇所で測定。		
							厚 さ t	－20			
							幅 w	－30			
							高 さ h	±30			
							延 長 L	－50			
6 河 川 編	6 排 水 機 場	5 沈 砂 池 工	7		コンクリート床版工		基 準 高 ∇	±30	図面の表示箇所で測定。		
							厚 さ t	－20			
							幅 w	－30			
							高 さ h	±30			
							延 長 L	－50			

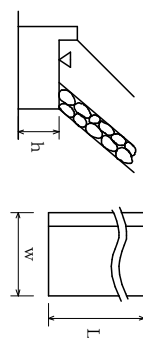
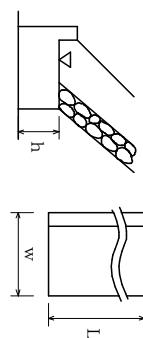
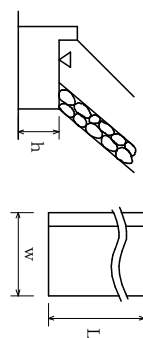
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
6 河 川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	4 床 止 め 工	6		本体工 (床固め本体工)	基 準 高 ∇	±30	図面に表示してある箇所で測定。		
						天 端 幅 w_1, w_3	－30			
						堤 幅 w_2	－30			
						堤 長 L_1, L_2	－100			
						水通し幅 ϕ_1, ϕ_2	±50			
6 河 川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	4 床 止 め 工	8		水叩工	基 準 高 ∇	±30	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。		
						厚 さ t	－30			
						幅 w	－100			
						延 長 L	－100			
6 河 川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	5 床 固 め 工	6		側壁工	基 準 高 ∇	±30	1．図面の寸法表示箇所で測定。 2．上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3．長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。		
						天 端 幅 w_1	－30			
						堤 幅 w_2	－30			
						長 さ L	－100			

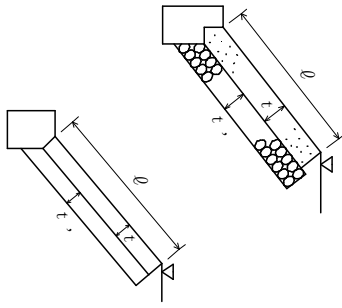
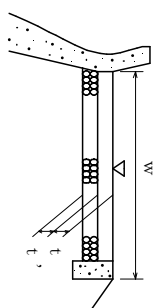
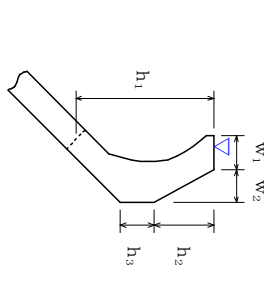
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	5 護岸基礎工	5		場所打コンクリート工	基準高▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1施工箇所につき 2ヶ所。		
						幅 w	－30			
						高さ h	－30			
						延長 L	－200			
7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	5 護岸基礎工	6		海岸コンクリート工 ブロック工	基準高▽	±50	ブロック個数 40 個につき 1ヶ所の割で測定。基準高、延長は施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1施工箇所につき 2ヶ所。		
						ブロック厚 t	－20			
						ブロック縦幅 w ₁	－20			
						ブロック横幅 w ₂	－20			
						延長 L	－200			
7 河川 海岸 編	1 堤防・ 護岸	6 護岸工事	4		海岸コンクリートブロック工	基準高▽	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1施工箇所につき 2ヶ所 「TS等光波方式を用いた出来形管理要領 (護岸工編) (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる		
						長さ φ < 5 m	－100			
						長さ φ ≥ 5 m	φ × (－2%)			
						厚さ t	－50			
						延長 L	－200			

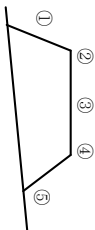
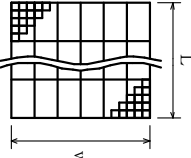
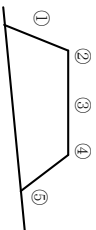
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
7	河川海岸編	1 堤防・護岸 6 護岸工	5		コンクリート被覆工	基準高 ∇	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所 「TS 等光波方式を用いた出来形管理要領 (護岸工編) (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる		
						法長 \varnothing	$\varnothing < 3 \text{ m}$			
						$\varnothing \geq 3 \text{ m}$	-50			
						厚さ t	$t < 100$			
						$t \geq 100$	-100			
						裏込材厚 t'	-20			
						延長 L	-30			
7	河川海岸編	1 堤防・護岸 8 天端被覆工	2		コンクリート被覆工	基準高 ∇	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		
						幅 w	-50			
						厚さ t	-10			
						基礎厚 t'	-45			
						延長 L	-200			
						基準高 ∇	±50			
						幅 w_1, w_2	-30			
7	河川海岸編	1 堤防・護岸 9 波返工	3		波返工	高さ $h < 3 \text{ m}$	-50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		
						h_1, h_2, h_3	-50			
						高さ $h \geq 3 \text{ m}$	-100			
						h_1, h_2, h_3	-100			
						延長 L	-200			
						基準高 ∇	±50			
						幅 w_1, w_2	-30			

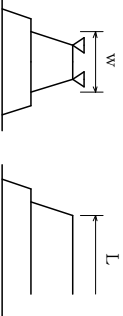
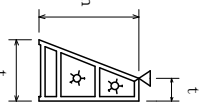
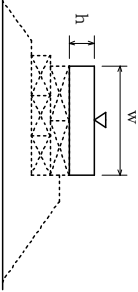
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							本	均 し				
7	2	4	4		捨石工		基 準 高 ▽ 均 し	表 面 均 し	±100	施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。		
								異形ブロック据付面 (乱積) の高さ	±500			
								異形ブロック据付面 (乱積) 以外の高さ	±300			
								被 覆 異形ブロック据付面 (乱積) の高さ	±500			
								異形ブロック据付面 (乱積) 以外の高さ	±300			
								法 長 ℓ	－100			
								天 端 幅 w_1	－100			
7	2	4	5		吸出し防止工			天 端 延 長 L_1	－200	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所、延長はセンサーライフ及び表裏法肩。		
								幅 w	－300			
								延 長 L	－500			
7	2	5	2		捨石工		基 準 高 ▽	異形ブロック据付面 (乱積) の高さ	±500	施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。		
								異形ブロック据付面 (乱積) 以外の高さ	±300			
								法 長 ℓ	－100			
								天 端 幅 w_1	－100			
								天 端 延 長 L_1	－200			

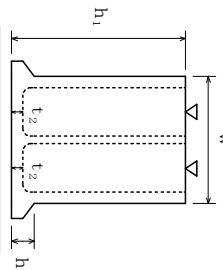
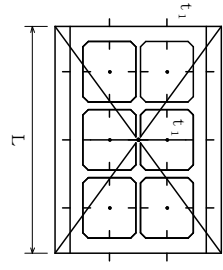
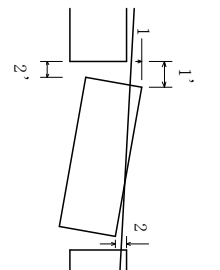
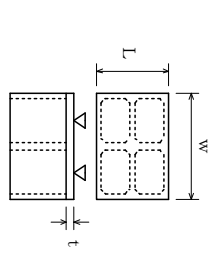
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	5		海岸コンクリートブロック工	(層積) フロツク規格 26 t 未満	±300	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。延長は、セクターラインで行う。		
						基準高	±500			
						(層積) フロツク規格 26 t 以上	±フロツクの 高さの 1/2			
						(乱 積)	±フロツクの 高さの 1/2			
						天 端 幅 w	ーフロツクの 高さの 1/2			
						天端延長 L	ーフロツクの 高さの 1/2			
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	9		石砕工	基準高 ▽	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。		
						厚 さ t	－50			
						高さ h	－50			
						h < 3 m	－50			
						h ≥ 3 m	－100	1 施工箇所毎		
						延 長 L	－200			
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	10		場所打コンクリート工	基準高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。		
						幅 w	－30			
						高 さ h	－30			
						延 長 L	－200			

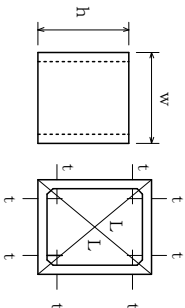
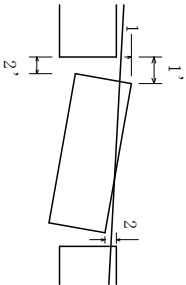
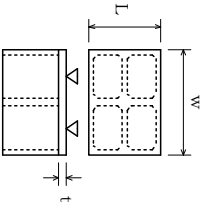
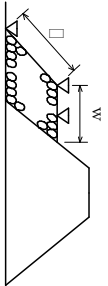
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	11	1	ケーソン工 (ケーソン工製作)	パ ラ ス ト の 基 準 高 ▽ コンクリート	±100	各室中央部1ヶ所			
						砕石、砂	±50				
						壁 厚 t_1	±10				
						幅 w	+30, -10				
						高 さ h_1	+30, -10				
						長 さ L	+30, -10				
						底版厚さ t_2	+30, -10				
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	11	2	ケーソン工 (ケーソン工据付)	フーチング高さ h_2	+30, -10	据付完了後、両端2ヶ所			
						法線に対する出入 1、2	ケーソン重量 2000 t 未満 ±100 ケーソン重量 2000 t 以上 ±150				
						据付目地間隔 1、2	ケーソン重量 2000 t 未満 100 以下 ケーソン重量 2000 t 以上 200 以下				
						据付完了後、天端2ヶ所					
						ケーソン重量 2000 t 以上 200 以下					
						ケーソン重量 2000 t 以上 200 以下					
						据付完了後、天端2ヶ所					
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	11	3	ケーソン工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリート ブロック	基 準 高 ▽ 陸 上	±30	1室につき1ヶ所 (中心)			
						水 中	±50				
						厚 さ t	±30				
						幅 w	±30				
						長 さ L	±30				

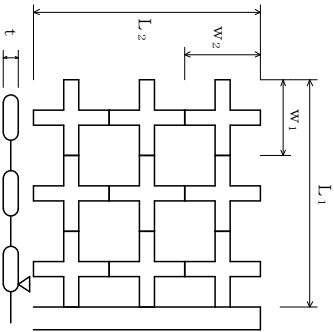
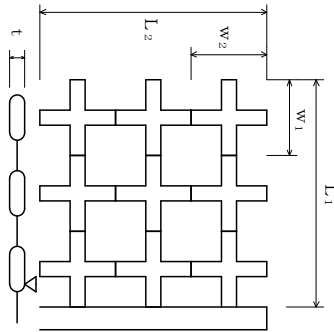
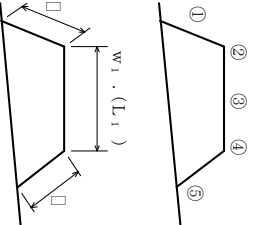
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	12	1	セルラー工 (セルラー工製作)	壁 厚 t	±10	型枠取外し後全数			
						幅 w	+20, -10				
						高 さ h	+20, -10				
						長 さ L	+20, -10				
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	12	2	セルラー工 (セルラー工据付)	法線に対する 出入 1、2 隣接ブロックと の間隔 1'、2'	±50 50 以下	据付後ブロック 1 個に 2 ケ所 (各段毎)			
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工岬	5 突堤本体工	12	3	セルラー工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	基準 高 ▽	陸 上	±30	1 室につき 1 ケ所 (中心)		
							水 中	±50			
						厚 さ t		±30			
						幅 w		±30			
						長 さ L		±30			
7 河川 海岸 編	2 突堤・人工岬	6 根固め工	2	捨石工	基準 高 ▽	異形ブロック据付面 (乱積) の高さ 異形ブロック据付面 (乱積) 以外の高 さ	±500 ±300	施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。 幅は施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 ケ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ケ所、延長はセンターライン及び表裏法肩。			
					法 長 l		−100				
					天 端 幅 w		−100				
					天 端 延 長 L		−200				

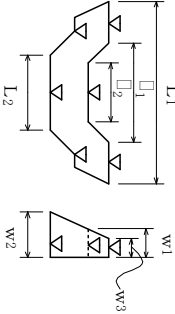
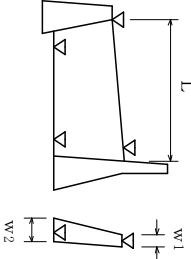
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
7 河川海岸編	2 突堤・人工岬	6 根固め工	3		根固めブロック工	基準高 ▽ 乱	±300 ±t/2	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。		
						厚 さ t	－20			
						幅w ₁ w ₂ 乱	－20 －t/2			
						延長L ₁ L ₂ 乱	積	－200		
							積	－t/2		
						基準高 ▽ 乱	層	±300		
							積	±t/2		
7 河川海岸編	2 突堤・人工岬	7 消波工	3		消波ブロック工	厚 さ t	－20	幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。		
						幅 w ₁ , w ₂	－20			
						延長 L ₁ , L ₂	－200			
						本 均 し	±50			
							±500			
7 河川海岸編	3 海城堤防（人工リート、離岸堤、潜堤）	3 海城堤基礎工	3		捨石工	異形ブロック据付面 （乱積）の高さ	±500	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。		
						異形ブロック据付面 （乱積）以外の高さ	±300			
						被覆均し	±500			
						異形ブロック据付面 （乱積）の高さ	±300			
						異形ブロック据付面 （乱積）以外の高さ	±300			
						法 長 ℓ	－100			
						天 端 幅 w ₁	－100			
						天 端 延 長 L ₁	－200			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
8 砂 防 編	1 砂 防 堰 堤	3 工 場 製 作 工	4		鋼製堰堤仮設材製作工	部 材 部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots \ell > 10$	図面の寸法表示箇所で測定。		
8 砂 防 編	1 砂 防 堰 堤	8 コ ン ク リ ー ト 堰 堤 工	4		コ ン ク リ ー ト 堰 堤 本 体 工	基 準 高 ∇	± 30	図面の表示箇所で測定。		
						天 端 部 堤 幅 w_1, w_2, w_3	-30			
						水 通 し の 幅 ℓ_1, ℓ_2	± 50			
						堤 長 L_1, L_2	-100			
8 砂 防 編	1 砂 防 堰 堤	8 コ ン ク リ ー ト 堰 堤 工	6		コ ン ク リ ー ト 側 壁 工	基 準 高 ∇	± 30	1．図面の寸法表示箇所を測定。 2．上記以外の測定箇所の標準値は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3．長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。		
						幅 w_1, w_2	-30			
						長 さ L	-100			

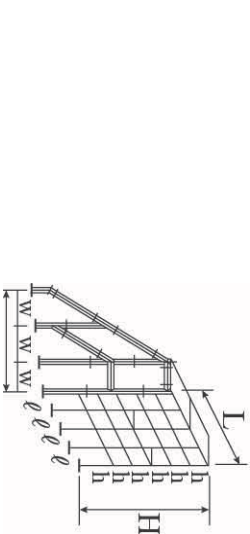
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
8 砂防 編	1 砂防 堰堤	8 コン クリ ート 堰堤工	8		水叩工		基準高▽	±30	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。		
							幅w	－100			
							厚さt	－30			
							延長L	－100			
8 砂防 編	1 砂防 堰堤	9 鉄製 堰堤工	5	1	鋼製堰堤本体工 (不透過型)	水通し部	堤高▽	±50	1. 図面の表示箇所で測定する。 2. ダブルウオール構造の場合は、堤高、幅、袖高は＋の規格値は適用しない。		
							長さφ	±100			
							幅w ₁ , w ₃	±50			
							下流側倒れ△	±0.02H ₁			
						袖部	袖高▽	±50			
							幅w ₂	±50			
							下流側倒れ△	±0.02H ₂			

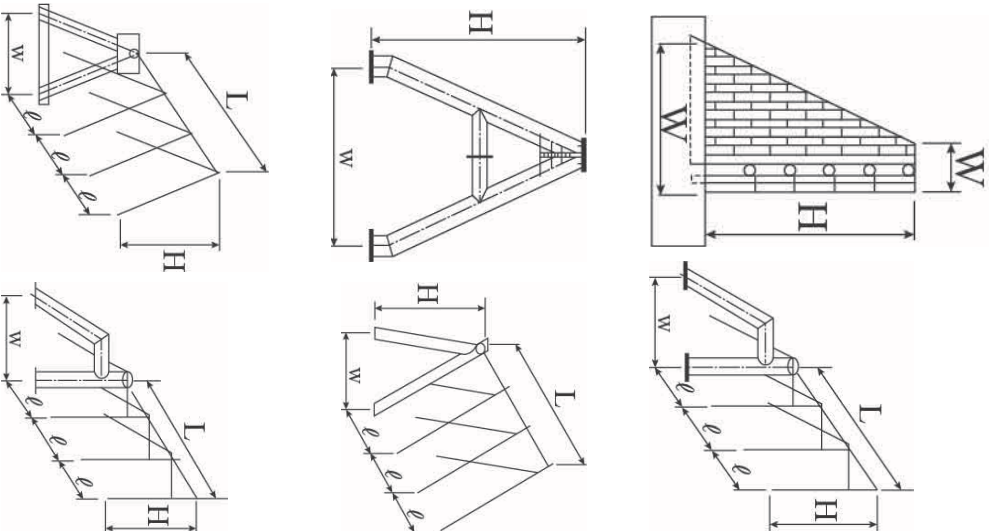
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
8 砂 防 堤 編	1 砂 防 堤	9 鉄 製 堰 堤 工	5	2	鋼製堰堤本体工 (透過型)	堤長L	±50	図面の寸法表示箇所での測定。		
						堤長 ℓ	±10			
						堤幅W	±30			
						堤幅w	±10			
						高さH	±10			
						高さh	±10			

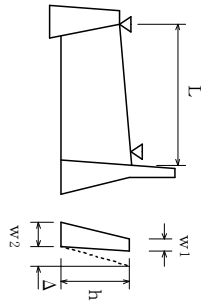
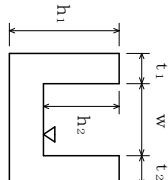
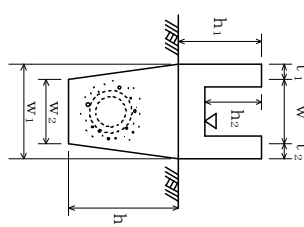
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
8	1	9	5	2	鋼製堰堤本体工 (透過型)	堤長 L	± 50	図面の寸法表示箇所での測定。			
砂防堤	鉄製堰堤工					堤長ℓ	± 10				
						堤幅 W	± 30				
						堤幅 w	± 10				
						高さ H	± 10				
						高さ h	± 10				

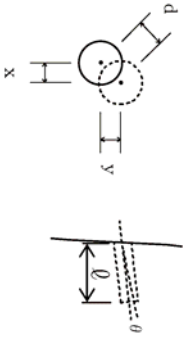
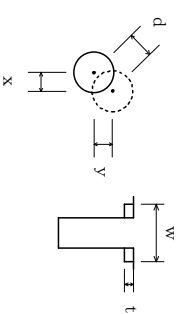
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

		測 定 基 準		測 定 箇 所		摘 要		
8 砂 防 編	1 砂 防 堰 堤	9 鉄 製 堰 堤 工	6	鋼製側壁工	堤 高 ∇	±50	1. 図面に表示してある箇所で測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。	
					長 さ L	±100		
					幅 w_1, w_2	±50		
					下流側倒れ \angle	±0.02H		
					高 さ h			
$h < 3 \text{ m}$	－50							
$h \geq 3 \text{ m}$	－100							
8 砂 防 編	2 流 路	5 床 固 め 工	8	魚道工	基 準 高 ∇	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	
					幅 w	－30		
					高 さ h_1, h_2	－30		
					厚 さ t_1, t_2	－20		
					延 長 L	－200		
8 砂 防 編	3 斜 面 対 策	6 山 腹 水 路 工	4	山腹明暗渠工	基 準 高 ∇	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	
					厚 さ t_1, t_2	－20		
					幅 w	－30		
					幅 w_1, w_2	－50		
					高 さ h_1, h_2	－30		
深 さ h_3	－30							
延 長 L	－200							

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
8 砂 防 編	3 斜 面 対 策	7 地 下 水 排 除 工	4		集排水ボーリング工	削 孔 深 さ \varnothing	設計値以上	全数		
						配 置 誤 差 d	100			
						せん孔方向 θ	±2.5度			
8 砂 防 編	3 斜 面 対 策	7 地 下 水 排 除 工	5		集水井工	基 準 高 ∇	±50	全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。		
						偏 心 量 d	150			
						長 さ L	－100			
						巻 立 て 幅 w	－50			
						巻 立 て 厚 さ t	－30			
8 砂 防 編	3 斜 面 対 策	9 抑 止 杭 工	6		合成杭工	基 準 高 ∇	±50	全数測定。		
						偏 心 量 d	D/4以内 かつ100以内			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
9 ダム 編	1 コンク リート ダム	4 ダム コンク リート 工			コンクリートダム工 (本体)	天 端 高 ▽	±20	<div>1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高（越流部堤頂高を含む）は、各ジョイントについて測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて5リフトごとに測定。 ③（注）堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。（堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む） ④ジョイント間隔（横継目）は、5リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ⑤堤長は、天端中心線延長を測定。 3. ①越流堤頂部、天端仕上げなどの平坦性の測定方法は、監督職員の指示による。 ②監査廊の敷高、幅、高さ、平坦性などの測定方法は監督職員の指示による。</div>		
						天 端 幅	±20			
						ジョイント間隔	±30			
						リ フ ト 高	±50			
						堤 幅	－30, ＋50			
						堤 長	－100			
9 ダム 編	1 コンク リート ダム	4 ダム コンク リート 工			コンクリートダム工 (水叩)	天 端 高 ▽	±20	<div>1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高（敷高）、ジョイント間は各ジョイント、各測点の交点部を測定。 ②長さは、各ジョイントごとに測定。 ③幅は、各測点ごとに測定。 3. 水叩の平坦性の測定は監督職員の指示による。</div>		
						ジョイント間隔	±30			
						幅	±40			
						長 さ	－100, ＋60			

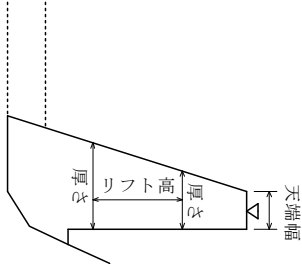
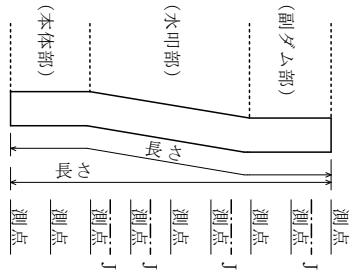
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
9 ダム 編	1 コンク リート ダム	4 ダム コンク リート 工				コンクリートダム工 (副ダム)	天 端 高 ▽	±20	<p>1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高は、各ジョイントごとに測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて3 リフトごとに測定。 (注) 堤幅、リフト高の測定は、上下流面型 枠と水平打継目の接触部とする。(堤幅は、 中心線又は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔は、3リフトごとと上流端、下 流端を対象に測定。 ④堤長は、各測点ごとに測定。</p>		
							ジョイント間隔	±30			
							リ フ ト 高	±50			
							堤 幅	-30, +50			
							堤 長	±40			

出来形管理基準及び規格値

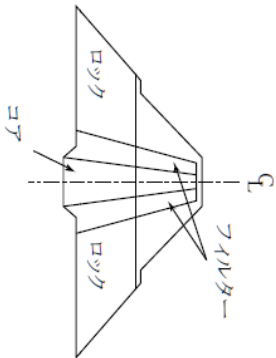
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
9 ダム 編	1 コンクリートダム	4 ダムコンクリート工			コンクリートダム工 (導流壁)	天 端 高 ▽	±30	<p>1．図面の寸法表示箇所で測定。 2．上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高、天端幅は、各測点、又はジョイントごとに測定。 ②リフト高、厚さは、各測点、又はジョイントについて3リフトごとに測定。 (注) リフト高、厚さの測定は、前面、背面型枠設置後からとする。なお、リフト高、厚さの測定箇所は、前面背面型枠と水平打継目の接触部とする。 ③長さは、天端中心線の水平延長又は、測点に直角な水平延長を測定。</p>		
						ジョイント間隔	±20			
						リ フ ト 高	±50			
						長 さ	±100			
						厚 さ	±20			
										

出来形管理基準及び規格値

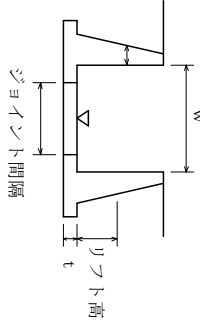
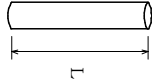
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
9 ダム 編	2 フイル ダム	3 盛立工	5		コアの盛立		基準高▽	設計値以上	各測点について5層毎に測定。 ※外側境界線は標準機種（タネビシグローラ）の場合		
							外側境界線	－0，＋500			
9 ダム 編	2 フイル ダム	3 盛立工	6		フイルターの盛立		基準高▽	－0	各測点について5層毎に測定。		
							外側境界線	－0，＋1000			
							盛立幅	－0，＋1000			
9 ダム 編	2 フイル ダム	3 盛立工	7		ロックの盛立		基準高▽	－100	各測点について盛立5m毎に測定。		
							外側境界線	－0，＋2000			



出来形管理基準及び規格値

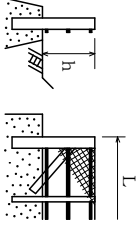
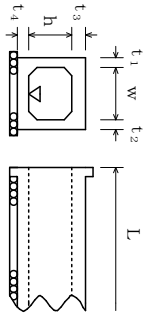
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
9 ダム 編	2 フイルダム				フイルダム (洪水吐)	基 準 高 ∇	±20	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 1回／1施工箇所		
						ジョイント間隔	±30			
						厚 さ t	±20			
						幅 w	±40			
						リフト高さ	±20			
						長 さ L	±100			
9 ダム 編	3 基礎グラウトシング	3 ボーリング工			ボーリング工	深 度 L	設計値以上	ボーリング工毎 ※配置位置の規定はコンクリート面で行うカーデ シングラウトに適用する。		
						配 置 誤 差	100			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	1 道 路 改 良	3 工 場 製 作 工	2	1	遮音壁支柱製作工	部 材	$\pm 3 \cdots \varnothing \leq 10$ $\pm 4 \cdots \varnothing > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						部材長 \varnothing (m)				
10 道 路 編	1 道 路 改 良	9 カ ル バ ー ト 工	6		場所打函渠工	基 準 高 ∇	± 30	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所にて測定。		
						厚 さ $t_1 \sim t_4$	-20			
						幅 (内法) w	-30			
						高 々 h	± 30			
						延長 L $L < 20m$	-50			
						$L \geq 20m$	-100			
						幅 w	-200			
10 道 路 編	1 道 路 改 良	11 落 石 雪 害 防 止 工	4		落石防止柵工	延 長 L	-200	1 施工箇所毎		
10 道 路 編	1 道 路 改 良	11 落 石 雪 害 防 止 工	5		落石防護柵工	高 々 h	± 30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) に つき 1 ヶ所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のもの は 1 施工箇所につき 2 ヶ所。 1 施工箇所毎		
						延 長 L	-200			



出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	1 道 路 改 良	11 落 石 雪 害 防 止 工	6		防雪柵工		高 さ h	±30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につ き 1ヶ所、施工延長 40m（又は 50m） 以下のもの は 1 施工箇所につき 2ヶ所。 1 施工箇所毎		
							延 長 L	－200			
							幅 w ₁ , w ₂	－30			
							基礎 高 さ h	－30			
10 道 路 編	1 道 路 改 良	11 落 石 雪 害 防 止 工	7		雪崩予防柵工		高 さ h	±30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につ き 1ヶ所、施工延長 40m（又は 50m） 以下のもの は 1 施工箇所につき 2ヶ所。 1 施工箇所毎		
							延 長 L	－200			
							基礎 幅 w ₁ , w ₂	－30			
							基礎 高 さ h	－30			
							ア ン カ ー 長	－10%			
							打 込 み \varnothing	－10%			
							埋 込 み \varnothing	－5 %			
							幅 w	－30			
							高 さ h	－30			
10 道 路 編	1 道 路 改 良	12 遮 音 壁 工	4		遮音壁基礎工		延 長 L	－200	1 施工箇所毎		
							間 隔 w ₁ , w ₂	±15			
							支 ね a	10			
							柱 ねじれ b－c	5			
10 道 路 編	1 道 路 改 良	12 遮 音 壁 工	5		遮音壁本体工		倒 れ d	h×0.5%	施工延長 5 スペースにつき 1ヶ所		
							高 さ h	+30, －20			
							延 長 L	－200			

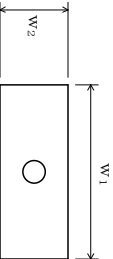
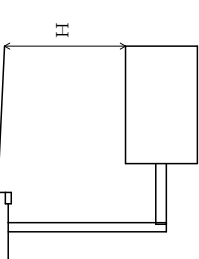
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
						個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均 (\bar{X}_{10})						
10 道 路 編	2 舗 装	4 舗 装 工		歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	±50	—	基準高は片側延長 40m 毎に 1 ヶ所の割で測定。 厚さは、片側延長 200m 毎に 1 ヶ所掘り起こして測定。 幅は、片側延長 80m 毎に 1 ヶ所測定。 ※両端部 2 点で測定する。	施工面積が小さく 10 個のデータが得られない場合は、その平均値 \bar{X}_{10} が X_{10} を満足すること。 コーア採取について 橋面舗装等でコーア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、水糸又はパイルによる施工前と施工後の下がりを測定するなど、他の方法によることが出来る。				
							厚 さ				t < 15cm	—30	—10
											t ≥ 15cm	—45	—15
					幅	—100					—		
10 道 路 編	2 舗 装	4 舗 装 工		歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工				幅は、片側延長 80m 毎に 1 ヶ所の割で測定。厚さは、片側延長 200m 毎に 1 ヶ所コーアを採取して測定。					
											厚 さ	— 9	— 3
												幅	—25

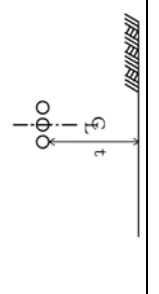
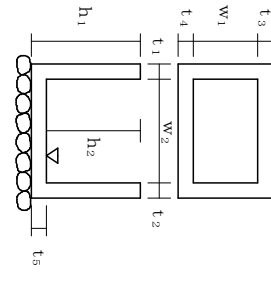
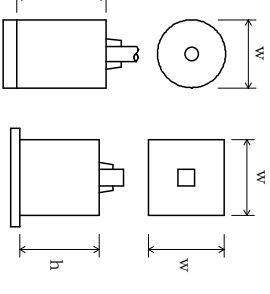
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	2 舗 装	5 排 水 構 造 物 工	9		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高 ∇	± 30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1ヶ所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所 なお、従来管理のほかに「T S 等光波方式を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる		
						延 長 L	－200			
10 道 路 編	2 舗 装	7 踏 掛 版 工	4		踏掛版工 （コンクリート工）	基 準 高	± 20	1ヶ所／1 施工箇所 なお、従来管理のほかに「T S 等光波方式を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」の規定による測点の管理方法を用いることができる		
						各 部 の 厚 さ	± 20			
						各 部 の 長 さ	± 30			
						各 部 の 長 さ	± 20			
						厚 さ	－			
						中 心 の ず れ	± 20			
						ア ン カ ー 長	± 20			
10 道 路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	1	大型標識工 （標識基礎工）	幅 w_1 , w_2	－ 30	基礎一基毎		
						高 さ h	－ 30			
10 道 路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	2	大型標識工 （標識柱工）	設置高さ H	設計値以上	1ヶ所／1 基		

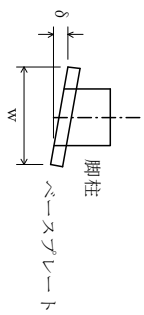
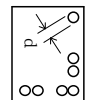
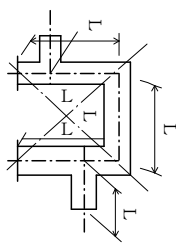
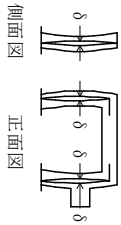
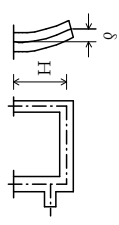

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	1	ケーブル配管工 (ケーブルホル)	埋 設 深 度 t	0～+50	接続部間毎に1ヶ所 接続部間毎で全数		
						延 長 尺 L	-200			
10 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	2	ケーブル配管工 (ケーブルホル)	基 準 高 ∇	±30	1ヶ所毎 ※印は、現場打ちのある場合		
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20			
						※幅 w_1, w_2	-30			
						※高さ h_1, h_2	-30			
10 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30	1ヶ所／1施工箇所		
						高 さ h	-30			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10	3	3	3		鋼製橋脚製作工	脚柱とベースプレートとの鉛直度 δ (mm)	w/500	各脚柱、ベースプレートを測定。		
						ベースプレート 孔の位置	± 2	全数を測定。		
						孔の径 d	0 ～ 5	全数を測定。		
						柱の中心間隔、 対角長 L (m)	± 5 … L ≤ 10m ± 10 … 10 < L ≤ 20m ± (10 + (L - 20) / 10) …20m < L	両端部及びび片持ばり部を測定。		
						仮組立時 はりのキヤンソー及び柱の曲がり δ (mm)	L/1,000	各主構の各格点を測定。		
						柱の鉛直度 δ (mm)	10…H ≤ 10 H/1,000 …H > 10	各柱及びび片持ばり部を測定。 H：高さ (m)		
										

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
10 道路 編	3 橋梁 下部	6 橋台 工	8			橋台躯体工	基準高 ∇	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については、「道路橋支承便覧」による。		
							厚さ t	−20			
							天端幅 w_1 (橋軸方向)	−10			
							天端幅 w_2 (橋軸方向)	−10			
							敷幅 w_3 (橋軸方向)	−50			
							高さ h_1	−50			
							胸壁の高さ h_2	−30			
							天端長 ϕ_1	−50			
							敷長 ϕ_2	−50			
							胸壁間距離 ϕ	±30			
							支間長及び 中心線の変位	±50			
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20			
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支承部 アଙ୍କ の 規格値 の ト		落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							箱抜き アଙ୍କ の 規格値 の ト				
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			
							支間長及び 中心線の変位	±50	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							計画高	+10〜−20			
							平面位置	±20	落橋防止構造の箱抜き全箇所 (ハバベット前面及び背面)		
							アンボルト孔 の 鉛直度	1/50 以下			

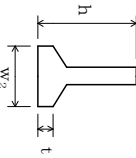
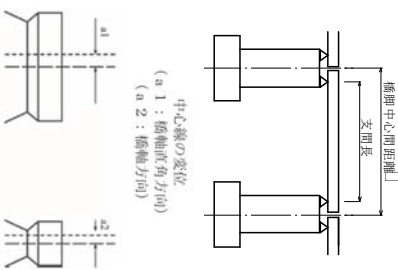
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要					
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 R C 橋 脚 工	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基 準 高 ∇	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については、「道路橋支承便覧」による。							
						厚 さ t	－20								
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	－20								
						敷 幅 w_2 (橋軸方向)	－50								
						高 さ h	－50								
						天 端 長 l_1	－50								
						敷 長 l_2	－50								
						橋脚中心間距離 l	±30								
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50								
						計画高	+10～－20								
支 承 部 ア ン カ 箱 抜 き 規 格 値 の ポ ル ト						平面位置	±20	ア ン カ ポ ル ト の 鉛 直 度	1 / 50 以下						

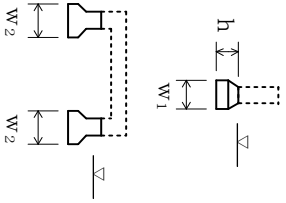
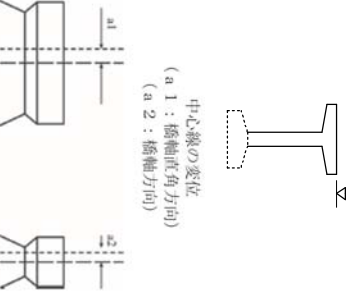

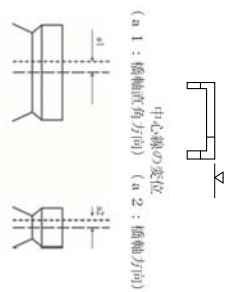
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 R C 橋 脚 工	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基 準 高 ∇	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については、「道路橋支承(便覧)」による。		
						厚 さ t	－20			
						天 端 幅 w_1	－20			
						敷 幅 w_2	－20			
						高 さ h	－50			
						長 さ \varnothing	－20			
						橋脚中心間距離 \varnothing	±30			
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50			
						支 承 部 の箱抜き規格値	計画高 +10～-20			
						平面位置 アンカーボルト 孔の鉛直度	±20 1/50 以下			
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	9	1	橋脚ラーメン工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						幅 w (橋軸方向)	－50			
						高 さ h	－50			
						長 さ \varnothing	－50			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	9	2	橋脚フーチング工 (門型)	基 準 高 ∇	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						幅 w_1, w_2	－50			
						高 さ h	－50			
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						橋脚中心間距離 \varnothing	±30			
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50			
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	10	2	橋脚架設工 (門型)	基 準 高 ∇	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
						橋脚中心間距離 \varnothing	±30			
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50			
10 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	5 ※±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合		

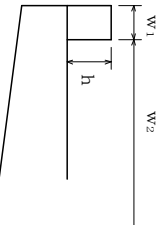
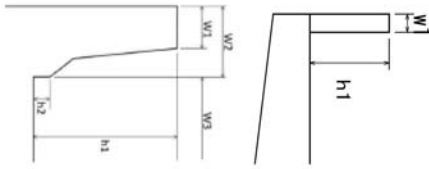
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
10 道路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	9		橋梁用高欄製作工	部	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$	図面の寸法表示箇所での測定。				
10 道路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注 1)		± 5	支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m)				
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量 ± 10 以上						
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コクリット橋	鋼橋					
							± 5	$4 + 0.5 \times$ (B－2)					
							下 沓 の 水 平 度						
						橋軸方向	$1 / 100$						
										橋軸直角方向			
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5			可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。			
						可動支承の 移動量 注 3)	温度変化に伴う移動 量計算値の 1/2 以上						
10 道路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注 1)		± 5	支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m)				
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量 ± 10 以上						
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コクリット橋	鋼橋					
							± 5	$4 + 0.5 \times$ (B－2)					
							支 承 の 水 平 度						
						橋軸方向	$1 / 300$						
										橋軸直角方向			
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5			可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。			
						可動支承の 移動量 注 3)	温度変化に伴う移動 量計算値の 1/2 以上						

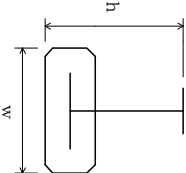
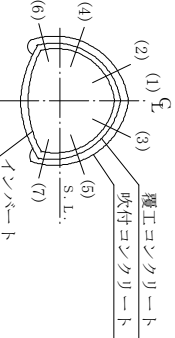
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長	設計値以上	全数測定		
						アンカーボルト定着長	－20以内 かつ －1D以内	全数測定 D：アンカーボルト径 (mm)		
10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	5		地覆工	地震の幅 w_1	－10～＋20	1 径間当たり両端と中央部の3ヶ所測定。		
						地震の高さ h	－10～＋20			
						有効幅員 w_2	0～＋30			
10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	6		橋梁用防護柵工	天端幅 w_1	－5～＋10	1 径間当たり両端と中央部の3ヶ所測定。		
						地覆の幅 w_2	－10～＋20			
						高 さ h_1	－20～＋30			
						高 さ h_2	－10～＋20			
						有効幅員 w_3	0～＋30			
10 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	8		検査路工	幅	±3	1 ブロックを抽出して測定。		
						高 さ	±4			

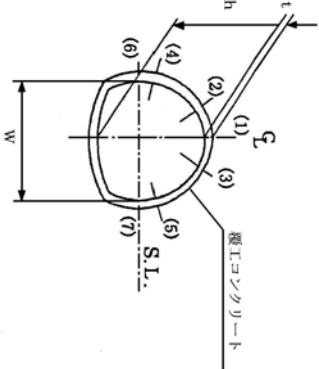
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	5 コンクリート橋上部	6 プレキャスト桁橋工	2		プレキャスト桁製作工 (現場)	幅 w	±5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ所とする。 ℓ：スパン長		
						高 さ h	+10 —5			
						桁 長 ℓ スパン長	ℓ < 15…±10 ℓ ≥ 15… ± (ℓ - 5) かつ —30mm 以内			
						横方向最大タワミ	0.80			
						吹 付 け 厚 さ	設計吹付け厚 以上。ただし、 良好な岩盤と し、良好な岩 盤で施工端 部、突出部等 の特殊な箇所 は設計吹付け 厚の1／3以上 を確保する ものとする。			
10 道 路 編	6 トンネル (N A T M)	4 支保工	3		吹付工	吹 付 け 厚 さ	設計吹付け厚 以上。ただし、 良好な岩盤と し、良好な岩 盤で施工端 部、突出部等 の特殊な箇所 は設計吹付け 厚の1／3以上 を確保する ものとする。	施工延長40m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検側孔を測定。 (注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準 (構造編) にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。		
						位置間隔	—			
						角 度	—			
						削 孔 深 さ	—			
						孔 径	—			
10 道 路 編	6 トンネル (N A T M)	4 支保工	4		ロックボルト工	突 出 量	プレート下面 から10cm以内	施工延長40m毎に断面全本数検測。		

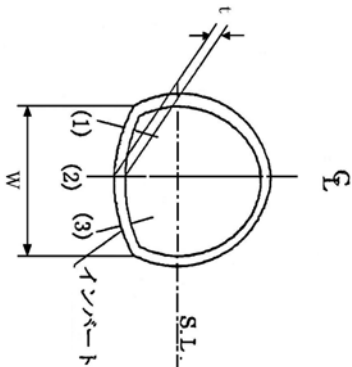
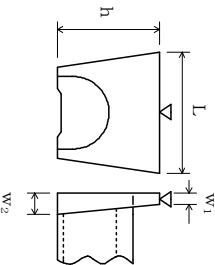
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	6 ト ン ネ ル （ N A T M ）	5 覆 工	3			覆工コンクリート工	基準高▽（拱頂）	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工 40mにつき 1ヶ所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は 40mに 1ヶ所、(2)～(3)は 100mに 1ヶ所の割合で行う。 なお、トンネル延長が 100m以下のものについては、1 トンネル当たり 2ヶ所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の 3分の 1 以下のもの。なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。		
							幅 w（全幅）	－50			
							高さ h（内法）	－50			
							厚 さ t	設計値以上			
							延 長 L	—			
10 道 路 編	6 ト ン ネ ル （ N A T M ）	5 覆 工	5			床版コンクリート工	幅 w	－50	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1ヶ所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		
							厚 さ t	—30			

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
10 道 路 編	6 トンネル（N A T M）	6 インバート工	4		インバート本体工		幅 w（全幅）	－50	(1) 幅は、施工 40m につき 1 ヶ所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の中間と終点を図に示す各点で測定。 (ロ) コンクリート打設後、インバートコンクリートについて 1 打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。					
							厚 さ t	設計値以上						
							延 長 L	—						
10 道 路 編	6 トンネル（N A T M）	8 坑門工	4		坑門本体工		基 準 高 ▽	±50	図面の主要寸法表示箇所での測定。					
							幅 w ₁ , w ₂	－30						
							高 さ h	h < 3 m				－50		
								h ≥ 3 m				－100		
							延 長 L	－200						

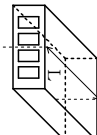
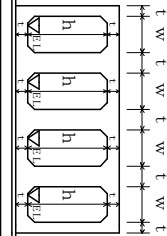
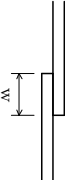
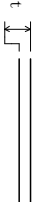
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工	種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	6 ト ン ネ ル （ N A T M ）	8 坑 門 工	5		明り巻工		基準高▽（拱頂）	±50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長 40mにつき1ヶ所を測定。 なお、高さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。		
							幅 w（全幅）	－50			
							高さ h（内法）	－50			
							厚 さ t	－20			
							延 長 L	—			

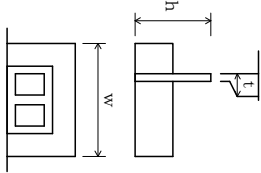
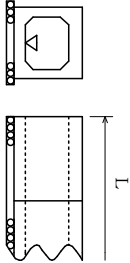
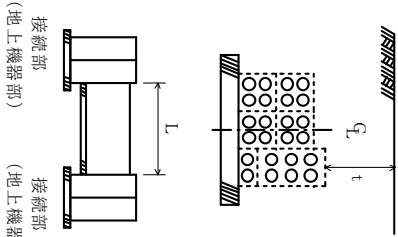
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	2		現場打躯体工	基 準 高 ∇	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。		
						厚 さ t	－20			
						内 空 幅 w	－30			
						内 空 高 h	±30			
						フロック長 L	－50			
10 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	4		カラー継手工	厚 さ t	－20	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						幅 w	－20			
						長 さ L	－20			
10 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	1	防水工 (防水)	幅 w	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版にて測定。		
10 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	2	防水工 (防水保護工)	厚 さ t	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」にて測定。		

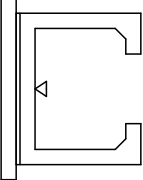
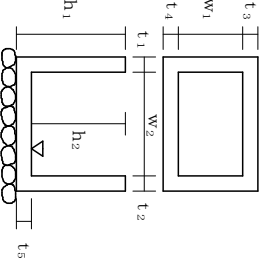
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	3	防水工 (防水壁)	高 さ h	－20	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						幅 w	±50			
						厚 さ t	－20			
10 道 路 編	11 共 同 溝	7 プ レ キ ヤ ス ト 構 築 工	2		プ レ キ ヤ ス ト 軀 体 工	基 準 高 ▽	±30	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1ヶ所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。 延長：1 施工箇所毎		
						延 長 L	－200			
10 道 路 編	12 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	2		管路工（管路部）	埋 設 深 深 L	0～＋50	接続部（地上機器部）間毎に 1ヶ所。 【管路センサーで測定】		
						延 長 L	－200			

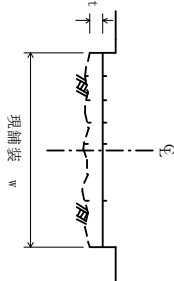
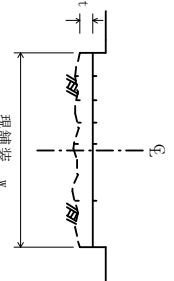
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道 路 編	12 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	3		プレキャストボックス工 (特殊部)	基 準 高 ▽	±30	接続部（地上機器部）間毎に1ヶ所。		
						基 準 高 ▽	±30			
						基 準 高 ▽	±30			
						※厚 さ $t_1 \sim t_5$	—20			
10 道 路 編	12 電 線 共 同 溝	6 付 帯 設 備 工	2		ハンドホール工	※幅 w_1, w_2	—30	1ヶ所毎 ※は現場打部分のある場合		
						※高 さ h_1, h_2	—30			
						基 準 高 ▽	±30			
						※厚 さ $t_1 \sim t_5$	—20			

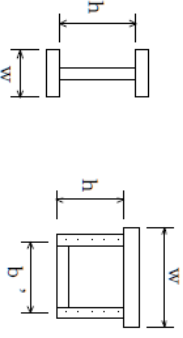
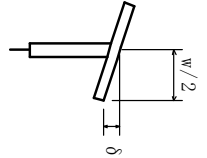
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章 節	条 文	枝 番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
						個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X ₁₀)						
10 道 路 編	14 道 路 維 持	4 舗 装 工	5	切削オーバーレイ工	厚さ t (切削)	－ 7	－ 2	厚さは 40m 毎に「現舗装高と切削後の基準高の差」「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高の差」で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m 毎に 1 ヶ所の割とし、延長 80m 未満の場合は、2 ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。			
					厚さ t (オーバーレイ)	－ 9							
					幅 w	－ 25							
					延長 L	－ 100							
					平 坦 性	3 m 7° 0.7 4 m 4° 以下 (σ) 2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ) 1.75mm 以下							
						－							
10 道 路 編	14 道 路 維 持	4 舗 装 工	7	路上再生工	路盤工			幅は延長 80m 毎に 1 ヶ所の割で測定。厚さは、各車線 200m 毎に左右両端及び中央の 3 点を掘り起こして測定。					
											厚さ t	－ 30	
											幅 w	－ 50	
											延長 L	－ 100	

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編 号	章 節	条 文	枝 番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
							鋼桁等	トラス・アーチ等		
10 道 路 編	16 道 路 修 繕	3 工 場 製 作 工	4	桁補強材製作工	フ ラ ン ジ 幅 w (m) 腹 板 高 度 h (m) 腹 板 間 隔 b' (m)	±2…… w ≤ 0.5 ±3…… 0.5 < w ≤ 1.0 ±4…… 1.0 < w ≤ 2.0 ± (3 + w / 2) ……2.0 < w	主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。		トラス弦材
					フレンジの直角度 δ (mm)	w / 200	床組など	構造別に、5 部材につき 1 個抜き取った部材の中央付近を測定。		
					圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ / 1000	—	主要部材全数を測定。 ℓ：部材長 (mm)	